

THE PHILATELIST MAGAZINE

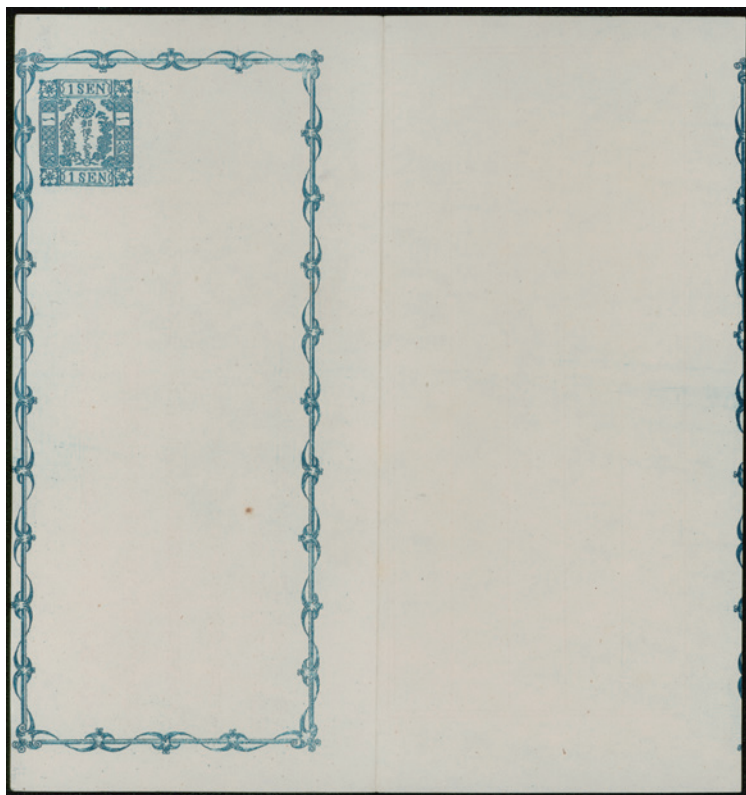
フィラテリスト

スタンペディア日本版機関誌

Magazine

2022

SPRING ISSUE
STAMPEDIA INC.



無料世界切手カタログ・スタンペディア株式会社

34

フィラテリスト Magazine の読み方・使い方

当誌の位置づけ

フィラテリスト Magazine は無料世界切手カタログ・スタンペディア株式会社
が運営する「スタンペディア日本版」の会員向け機関誌です。年会費を納めた会員には、冊子（フルカラー 約 160 頁）が、発行の都度郵送されるほか、「マイスタンペディア」（右図）より冊子到着前にダウンロードして閲覧していただくサービスを提供しています。 <http://my.stampedia.net>

冊子の提供サイズ

機関紙（通常号）は A5 判と A4 判を用意しており、年間を通じて予めご指定頂きます。特に指定ない場合は A5 判を購読するものとして取り扱います。年途中での A4 判へのサイズ変更は、差額のお支払が必要ですが承ります。

PDF の活用方法（見る）

ダウンロードした PDF は、パソコンやスマホに保存できます。一旦保存するとそれ以降はいつでも好きな時に PDF 版をご覧ください。

万一、ダウンロードした PDF が見つからなくなっても、会費を継続して支払っている期間は、入会以来全ての PDF を再度「マイスタンペディア」からダウンロードできます。

PDF 版は Adobe Reader 等の PDF 閲覧アプリでご覧頂くことを推奨いたします。ブラウザ（インターネットエクスプローラー等）での閲覧は不安定であり、勧めません。

PDF には目次がついています。目次表示機能付き PDF 閲覧アプリでは読みたい記事を簡単に探すことが可能です。

また機関紙の「目次」（原則として 4-5 ページ）で記事タイトルをクリックすると、読みたいページにジャンプします。

PDF の活用方法（印刷する）

ダウンロードした PDF は、個人の利用に限り、いつでも好きな時に繰り返し印刷することが許可されています。各号に用意された目次を参考にして興味ある記事を見つけ、印刷を行ってください。なお当誌では表紙を 1 ページ目としてページの割り付けを行っておりますので、印刷に指定するページ番号も目次のページ番号と一致しています。（ページ番号は各ページのフッタに表示しています）

なお本誌 PDF は快適なダウンロードの為、ファイルサイズをコンパクトにしています。この為、弊社で製本してお届けする冊子と比較すると印刷結果のクオリティは落ちます。

当誌の編集方針

現代のフィラテリーは古今東西の幅広い収集対象に対して深く研究が行われると共に、収集方法も多岐に分かれています。このような幅広い興味・関心を満たす郵趣雑誌は、多くのページ数を持ち、掲載が特定の分野に偏らない存在であることが理想的です。

この理想を実現するために、フィラテリスト Magazine はページ数に制限の少ない PDF で閲覧されることを前提に編集しています。まだ新しい、このようなスタイルの郵趣雑誌を提供することにより、郵趣の世界に元気を与えたいと考えています。



STAMP EXHIBITION

STAMPEX
JAPAN

2022



STAMPEX JAPAN 2022

26TH- 28TH MARCH
NATIONAL PHILATELIC EXHIBITION

AT THE POSTAL MUSEUM JAPAN
TOKYO SKYTREE TOWN "SORAMACHI"



郵政博物館
POSTAL MUSEUM JAPAN

特選非営利活動法人

郵趣振興協会
Society for
Promoting Philately

<http://kitte.com/stampex2022>

スタンペディア日本版機関紙



フィラテリスト Magazine

第34号

目次



当誌の読み方・使い方	2
目次	4
郵趣界重大ニュース	6
郵趣カレンダー	10
国際切手展の開催動向	12
HELVETIA 2022	13
Melbourne 2022	14
スタンペックスジャパン 2022	16
沖縄復帰 50 周年記念切手展	17
サブスク購読できる郵趣雑誌の発行者等を応援するページ	18
オンライン郵趣例会の主催者を応援するページ	20
私の発見・私の報告	
林式・軽井沢	赤須 秋王 22
読者からの報告 和欧文機械印 1 期の 0-8 新局ほか	水谷 行秀 23
昭和 30 年以降の M 波使用局	水谷 行秀 24
寄稿記事・郵趣論文	
南方占領地のフィラテリー (18) 日本占領下ビルマにおける昭和切手の使用	守川 環 26
江戸時代の国際郵便 (5) 安政 2 年・アメリカ合衆国	吉田 敬 32
カナダ宛て書状と印刷物の郵便料金 1883/1/1 (明治 16) ~ 1892/6/30 (明治 25)	森田 美佐子 34
琉球の航空郵便 (8) 天女航空 18 円	木戸 裕介 36
戦後の欧文櫛型印 (11) 4 大局の欧文櫛型印: その 1...TOKYO	神宝 浩 41
大型現金書留封筒	行徳 国宏 49
FUJICOLOR POST CARD 昭和 64 年用年賀はがき	石田 徹 56
日本切手による郵便史収集視 (私) 点一第 4 種郵便を題材にして一	行徳 国宏 62
伝統郵趣家によるテーマチックコレクションへの挑戦 (2)	吉田 敬 70
木戸裕介氏著「朝鮮初期櫛型印に関する発見と考察」への補足	中野 健司 74
和欧文機械印トピックス	水谷 行秀 89
郵趣活動の記録	
世界切手展 受賞結果抜粋 LONDON 2022	郵趣振興協会 94

HELVETIA 2022 日本からの出品まとめ	日本コミッショナー	95
スイス不足料切手 1883-1910	有吉 伸人	96
スイス クラシック	吉田 敬	102
ロンバルディ・ベネチア 1850 年シリーズ	斎藤 環	106
インドの軍事郵便	小岩 明彦	112
日本の外信葉書	安藤 源成	116
ハワイのステーションナリー	山崎 文雄	120
スイスからの日本への初期の郵便物	吉田 敬	126
富士鹿切手発行 100 年記念切手展 開催報告	郵趣振興協会	128
郵趣振興協会 活動報告	郵趣振興協会	130
日本国際切手展 2021 参観記	長野行洋	134

オークションレポート

ジャパンスタンプオークションニアレポート	鯛 道治	140
スタンペディアオークション セールレポート・落札結果等		151

📦 会員からのおたより 📦 あとがき

	161
	163

広告一覧

スタンペックスジャパン 2022 [P.3]
Melbourne 2022 日本コミッショナー [P.61]
フィラサーチ [P.77]
特定非営利活動法人 郵趣振興協会 [P.133]
スタンペディアオークション株式会社 [P.164]

スタンペックスジャパン 2022



全国切手展 3/26(土)~3/28(月)

主催：(特非)郵趣振興協会 / (公財)通信文化協会(郵政博物館)
協賛：スタンペディアプロジェクト
後援：カルトールセキュリティブリンディング社、切手市場、
(一社)全日本郵趣連合、(公財)日本郵趣協会(50音順)

NATIONAL PHILATELIC EXHIBITION
AT THE POSTAL MUSEUM JAPAN TOKYO SKYTREE TOWN SORAMACHI

郵趣界重大ニュース

2021年12月～2022年3月

1 JPS、2022年度末でオークション事業を終了することを発表

公財)日本郵趣協会(東京 代表理事:山田 廉一氏)は、1月19日に、同団体主催の「JPS オークション」について『定期開催およびカタログ定期刊行休止』するという表現で、終了を発表しました。

同法人による競売定期開催の歴史は半世紀を越え(第1回は1967年)、タカハシスタンプ、日本フィラテリックセンターと並び老舗でした。

この間、多くの会員を抱え、有利な立場でオークション事業を展開し、多くの珍品も出品されてきましたが、同法人の決算報告書によれば、最近6年間の落札総高の推移は右の表の様な推移となっていました。

残念な決定ですが、混乱を避ける為に一年以上の残余期間を残した終了アナウンスは、責任感ある告知方法と好意的に捉えられています。

年度	落札総高
2015	100,099,000
2016	75,014,000
2017	58,756,000
2018	54,042,000
2019	62,247,000
2020	47,768,000

JPS オークション落札額推移

お客様各位

JPS オークション定期開催およびカタログ定期刊行休止のご案内

平素より JPS オークションをご利用いただき、誠にありがとうございます。

さて、1967 年の「第 1 回 JPS 会員オークション」から、郵趣品の適正な流通と郵趣文化の継承を図るため開催してまいりました JPS オークションですが、諸般の事情により 2022 年度開催分をもちまして、オークションの定期開催およびオークションカタログの定期刊行を休止させていただきます。

具体的な日程としましては、第 543+544 回 JPS オークション(2023 年 2 月 14 日(火)締切のメールオークション)をもちまして、運営を休止いたします。

オークション定期購読の期限につきましても、2023 年 2 月分までとなります。

半世紀を越える長きにわたり、多くのお客様にご利用いただきましたことに深く感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

今後は事業の見直しを図り、時代に添った新しい形で再び皆様にご案内できるよう検討してまいりますので、なにとぞご理解いただけますよう、お願い申し上げます。

2022 年 1 月 19 日

公益財団法人日本郵趣協会

JPS オークション係

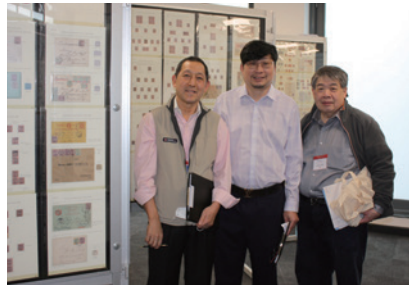
2 世界切手展、2年半ぶりに復活

2019年6月11～17日に、中国・武漢市で開催された CHINA 2019 以来、2年半ぶりとなる世界切手展 LONDON 2022 が、2月19日から25日まで開催されました。

新規感染者数・重傷患者数共に落ち着いてきている英国は、パンデミック前の生活に戻ることを目標として掲げており、この期間中から、感染者に求めている法的な規制が撤廃され、新型コロナの検査で陽性になっても隔離が強制されなくなりました。

公共の場でもマスクを着用しない人が大多数になっていることが写真からもうかがうことができます。

COVID-19 感染症が落ち着き、ロシアのウクライナに対する軍事侵攻もまだ始まっていない時期ということで、審査員、観客とも世界中から集まり、現地はなかなか楽しい日々だったようです。



「審査風景」「パルマレス」(実行委員会 Twitter より)

3 日本郵便、EMS・国際小包を6月1日に値上げすることを発表

日本郵便は、1月18日に、EMS と国際小包（航空・SAL・船便）の料金を6月1日から値上げすることを発表しました。国際物流業者を複数使用すると分かるのですが、最も安価な業者は日本郵便であり、その安さはダントツです。

しかし、そのサービスは必ずしも優れているとは言えず、カナダやオーストラリアといった友好国への EMS や航空小包が2年近く途絶していたり、遅延も発生しがちです。「安かろう悪かろう」のサービスが、使えるサービスに変わるにあたり必要ならば多少の値上げは致し方ない事であり、今回の値上げを契機に利便性が向上することが期待されます。

なお、今回の値上げに合わせて EMS・国際小包の送付地帯区分が4区分から5区分に変更されます。参考までに EMS の基本料金となる重量 500G の変更前後の様子を表にまとめました。

宛先	中国・韓国・台湾	左記以外のアジア	オセアニア・カナダ・中近東	ヨーロッパ	米国	メキシコ	中南米（メキシコ除く）・アフリカ
5/31 迄の地帯区分	第1地帯		第2地帯			第3地帯	
6/1 からの地帯区分	第1地帯	第2地帯	第3地帯		第4地帯	第3地帯	第5地帯
5/31 迄の料金	1,400	1,400	2,400	2,450	2,400	2,400	2,400
6/1 からの料金	1,450	1,900	2,900	2,900	3,500	2,900	3,600

4 ロシアのウクライナへの軍事侵攻に伴い、欧州への航空便の引受け停止相次ぐ。

日本郵便はウクライナ宛の郵便物の引き受けについて、2月21日に翌日以降の航空便の引き受け停止を発表し、同25日に船便についても停止することを発表しました。

ロシアのウクライナへの軍事侵攻が原因ですが、送付に制限がかかる地域はウクライナに留まらず、3月1日以降も増えました。中でも3月8日から全ての航空便が引受け停止となった英仏独の三カ国は需要も多いことから、今後の越境 EC への影響が懸念されます。

3/1-3/8 に新たに引き受け制限が開始された欧州の国々 (抜粋)

オーストリア、オランダ、スウェーデン、チェコ、デンマーク、ノルウェー、ハンガリー、ポーランド、ポルトガル、ラトビア、リトアニア	EMS と航空小包が出せなくなり、船便と航空通常郵便物のみが差し出せる
ブルガリア、クロアチア、スロベニア	EMS が出せなくなり、船便と航空便が差し出せる。
アンドラ、 <u>英国</u> 、 <u>ガーンジー</u> 、 <u>ジャージー</u> 、 <u>ドイツ</u> 、 <u>フィンランド</u> 、 <u>フランス</u> 、ベルギー、マン島、モナコ	<u>全ての航空便が出せなくなり</u> 、船便のみが差し出せる。

5 オミクロン株中心の第6波が到来するが、郵便催事は、世界展を開催できるところまで復活

第27号以来、毎号取り上げている、新型コロナウイルス感染症の世界的流行に伴う国内の郵便催事の記録を掲載します。

昨年11月末にオミクロン株が登場し、高い感染力が心配され、第6波が到来しましたが、その一方で、市中感染が蔓延した状態での入出国に関する制限（水際対策）の厳しさが無意味なものになり、1月以降、我が国への入国制限が段階的に緩和されるようになりました。

日本人の帰国の場合、3月1日0時からは新型コロナウイルス感染症のワクチンを3回接種し、検疫検査で陽性とならない場合は、待機（隔離）なしで入国ができます。

欧米では、パンデミック前の生活に戻ることがより重視されており、2月19日に、2年半ぶりに世界切手展が開催されました。ハンガリー・スイス・オーストラリアの国際展も準備が進行しており、今年は世界のフィラテリーの復活の年になると期待されます。

時期	展覧会、WEB セミナー等	即売会・フリマ・例会	五大オークション他
12月	11月下旬からオミクロン株の登場と高い感染力が報道され、先行きが再び不透明になる。弱毒性も報道されるが、見極める事ができるのは月が明けた頃か？	切手催事は予定通り開催できる状態に戻り、参加するしないは自己責任となる。	
1月	9. まん延防止等重点措置が広島県、山口県、沖縄県で実施され、第6波到来の報道が相次ぐ。それ以降全国的に実施される様に。		8. スタンペディアオークション、フロア来場者数が前回を下回る。
2月	1. HELVETIA2022 実行委員会、出品コレクション用のプロテクト封筒を各国コミッション宛に発送 19-25. LONDON 2022 が開催される。2年半ぶりの世界切手展		
3月	26. 全国切手展スタンベックスジャパン 2022 開幕（予定） 31. HUNFILEX2022 開幕（予定）		

6 一般社団法人 全日本郵趣連合に対して、会員の不満の声が高まる

一般社団法人 全日本郵趣連合（以下「連合」）は、2021年11月から翌12月にかけて、世界展 LONDON 2022, HUNFIFLEX 2022 へのコミッショナー派遣を中止しました。

この第一報はオミクロン株が南アで発見された報道以前の昨年11月21日に突然行われました。実行委員会による出品取りやめ受付時期(2020年4月)を過ぎて、状況が好転している中でのコミッショナーの突然の渡航拒否でしたので、「出品料が戻らないが問題ないのか？」と連合会長の正田幸弘氏に問い合わせたところ、出品料はそもそも出品者負担で、連合やコミッショナーは負担する立場になく、又同一人物に今後も他の展覧会のコミッショナーをしてもらう旨の返答がありました。

文献部門を除く LONDON2022 の出品者は、国際郵趣連盟の記録に残る競争展への出品はできないにも関わらず、出品料総額 85 万円が返金されない事になりました。コミッショナー選任基準と選任方法、コロナ禍において全日本郵趣連合がコミッショナーへの情報提供を事前に行っていない事等、会員に不満が生まれました。(HUNFIFLEX は同様の悲劇の起る前の判断で適切と思います)

不満のタネは、連合が 2022 年会費を請求した本年 2 月に爆発的に高まりました。多くの人が「12 月にそのような事態を招いたくせに高額な会費をとり続けるのか？」と嗔然とし、その一人として当誌主幹の吉田が事前に通知した上で『納得いかない、一般社団法人 全日本郵趣連合 の 2022 年度会費請求』という記事を執筆したところ、電子メール・電話・facebook・ブログコメント等で 65 件もの反響を頂きました。国際展出品はしないが寄付で会員にとどまっていた方からは、これを機に退会予定と連絡があり、又現在出品中の方からは「連合に文句をいうと睨まれてしまうし、この様な事は言えないので同団体に会費は払うが気持ちを代弁してくれて有難い」との言葉が届きました。

連合が普通の切手サークルであれば嫌なら退会すれば良いだけです。しかし『国際切手展への出品権利を付与する団体である為、会費が徴税に近い性格を持つ』点を、理事は意識しなければなりません。しかしそのような観点で理事を選任しているのか甚だ疑問です。そもそも FIP 加盟団体の会長(理事)を会員が選任できないのも先進国では遅れています。

こうして連合は、国際展分担金(年間 53 万円程度)支払を旗印に会費を徴収しているにも関わらず、必要金額の 2.8 倍の予算を集めています。請求中の会費はかつての国際展出品者の会(年会費 10,000 円、2012 年まで)雑誌「全日本郵趣」付きの正会員会費(年会費 13,000 円、2017 年まで)と比較し最大五割増の正会員 15,000 円 賛助会員 35,000 円です。分担金と本当に必要な若干の支出だけを追加して予算を組み立て、2012 年迄の年会費 1 万円以下(正会員)に下げるべきです。

業容を縮小しているわけですし、会員の負担を考えれば、理事は会費を無用に高くしない方法を少しでも考えるのが筋です。そのような理事もいるのかもしれないませんが『国際展の出品資格を得たければ支払わざるを得ないのだから別に安くする必要はない』とか『選挙で理事が決まるわけないのだから会員の懐事情など考える必要もない』と考える理事が多いという事でしょうか？

国際展出品権利を人質にしているのですから、短期的な視点ではそれでも会費は集まるでしょう。実際私も支払いました。しかし郵趣連合が 10 年ほど前にお金の問題で破綻し、また数年前に機関紙発行で大きな問題を起こしている歴史を認識して経営にあたれば、お金の使い方にもっと繊細でなければならないことを連合の理事は理解すべきです。「金だけ入ればいいや・・・」では会員の長期的な支持は得られません。

連合からは賛助会員としての私の提言に何度か連絡を頂きましたが重要な(1)会費の適正金額への値下げと(2)会長(理事)の選任等に関する会員の関与については、3/14 時点で無回答でした。より多くの皆様の関心を集める必要があると判断し、第一弾として本誌に掲載する事を決定しました。

納得いかない、一般社団法人 全日本郵趣連合 の 2022 年度会費請求

一般社団法人 全日本郵趣連合から、賛助会員である私に対して、2022 年の会費を求められることにも納得できないので、本ブログで訴えました。

【納得いかない理由の 1】PV を見る限り、高い会費の理由がない。
「2022 年度会費 (国際展分担金)」のお知らせ、という会長名義の文書に続ける必要があり、「皆様から頂戴した会費は、大部分を国際展出品者へあり」と書かれています。『第 5 期 一般社団法人 全日本郵趣連合 正副会長(国際展およびアジア太平洋郵趣連盟)会費』は 52 万円以下でしかなく、受け取りを受けて、正田会長の書く「大部分を国際展出品者の分担金および国内外で、請求するならば、正会員の年会費は 15,000 円 + 6,000 円、賛助会員は、経費費の計 15 万円を超える人限られます。それらの説明をせず、国際展出品者で説明がつかない。高いからダメだと書いているのではなく説明責任を果たしていないので、



「納得いかない、一般社団法人 全日本郵趣連合 の 2022 年度会費請求」(全文はクリックもしくは QR コード読み取りより読めます)

郵趣カレンダー

2022 年 3 月中旬以降に開催される郵趣イベント

今後予定されている催事は、季節・時期・地域を問わず急遽中止・変更される可能性があります。
ご来場にあたっては、各主催者が提供する一次情報（ホームページや代表電話）を確認の上、お越しください。

国際郵趣連盟の規則に基づいて審査が行われる競争切手展

開催日	切手展名称	会場	分類	出品 べ切
2022/3/26-28	スタンバックスジャパン 2022	郵政博物館（押上・スカイツリー）	日	締切済
2022/3/31-4/3	HUNFILEX 2022	ハンガリー、ブダペスト	世	締切済
2022/5/18-22	HELVETIA 2022	スイス、ルガーノ	世	締切済
2022/7/16-18	全日本切手展	すみだ産業会館	日	募集中
2022/8/4-9	INDONESIA 2022	The Indonesian Parliament Complex(インドネシア、ジャカルタ)	世	締切済
2022/11/4-6	JAPEX 2022	都立産業貿易センター台東館（浅草）	日	未発表
2022/11/8-12	CAPE TOWN 2022	International Convention Center(南ア、ケープタウン)	世	未発表
2023/3/16-19	NZ 2023	ニュージーランド、オークランド	ア	未発表
2023/5/25-28	IBRA 2023	Messe Essen, Hall 1+2（独 エッセン）	世	未発表
2023/8/11-15	TAIPEI 2023	Taipei World Trade Center(台湾、台北)	ア	不明
2024/3-4/-	MELBOURNE 2024	Caulfield Racecourse(豪、メルボルン)	ア	一旦中止
2026/5/23-30	BOSTON 2026	Boston Convention and Exhibitor Center（米ボストン）	世	未発表

分類 世：世界切手展 ア：アジア国際切手展 日：日本の全国切手展

一般切手展

開催日	地域	切手展名称	会場
4/22-24	東京	第 23 回トピカル切手展	都立産業貿易センター台東館
5/7-15	東京	沖縄復帰 50 周年記 念切手展	郵政博物館
6/11-12	東京	イギリス切手研究会切手展 2022	切手の博物館
6/18-19	東京	第 5 回南方占領地の フィラテリー展	郵政博物館
9/23-25	東京	第 9 回ヨーロッパ切手展	郵政博物館

※ 1 郵政博物館の開場時間は 10:30-16:30 ですが、最終入場時刻は閉場 30 分前です。なお切手展初日の開場時刻が 13:00 になるケースがあります。ホームページでご確認ください。 <http://kitte.com/>。

主要なオークション

開催日	主催者	回	会場
3/20	タカハシ・スタンプ・オークション	667	タカハシスタンプ
4/2	スタンベディアオークション	21	綿商会館
4/17	タカハシ・スタンプ・オークション	668	タカハシスタンプ
4/23	JPS オークション	539	スタンプショウ 2022 会場
4/29	スタンベディアオークション	春の文庫	(メール)
5/22	タカハシ・スタンプ・オークション	669	タカハシスタンプ
5/28-29	ジャパNSTAMPオークション	122	大阪駅前第3ビル
6/19	タカハシ・スタンプ・オークション	670	タカハシスタンプ
7/3	スタンベディアオークション	22	綿商会館

- * メールオークションとして開催される場合は、開催日が入札締切日となります。
 * 当社関連会社が提携するスタンベディアオークションへの出品締切は下記の通りです。
 第22回セール：2022/4/5、文庫セール：2022/5/1

切手フリマ・即売会

開催日	地域	名称	回	会場	開催時間
3/25-27	東京	JSDA 切手まつり	35	日本橋プラザ3階展示ホール	
4/2	東京	切手市場 スタンベディアオークション併設		綿商会館	9:00-17:00
4/22-24	東京	スタンプショウ2022		都立産業貿易センター台東館	
5/3-4	東京	切手市場		綿商会館	9:00-17:00
5/28-29	大阪	大阪駅前第3ビルバザール	69	大阪駅前第3ビル	詳細未定
6/4	東京	切手市場		綿商会館	9:00-17:00
6/4	名古屋	名古屋切手フリマ in 大須	12	第1アメ横ビル 4F	10:00-16:00

- * 会場住所 綿商会館：東京都中央区日本橋富沢町8-10
 第1アメ横ビル：名古屋市中区大須3-30-86

主なオンライン郵便例会

切手サークル名	代表者	使用アプリ	参加費用	オンライン例会開催日
日本切手研究会	横山 裕三	ZOOM	無料	第2, 4日曜日 21時 3/13, 3/27, 4/10, 4/24 5/8, 5/22, 6/12, 6/26
昭和切手研究会	斎 享	ZOOM	無料	第3日曜日 21時 3/20, 4/17, 5/15, 6/19
外国切手研究会	榎原 晃二	ZOOM	無料	第1, 3土曜日 20時 3/5, 3/19, 4/2, 4/16 5/7, 5/21, 6/4, 6/18
南方占領地切手コレクターズクラブ	守川 環	ZOOM	無料	第4水曜日 20時 3/23, 4/27, 5/25, 6/22

国際切手展の開催動向

特定非営利活動法人 郵趣振興協会

国際郵趣連盟および大陸別の郵趣連盟が公認する競争切手展（以下「国際切手展」と略す）の実行委員会は、2020年6月以降も、暫時延期をアナウンスしています。当協会ではホームページ（<http://kitte.com>）で速報を行っておりますが、以下でまとめてご案内します。

切手展の当初の名称	開催地	分類	当初 開催予定期間	現 開催予定期間
NZ 2020	ニュージーランド、オークランド	ア	2020/3/19-22	国際展は中止
LONDON 2020 2022	英、ロンドン	世	2020/5/2-9	2022/2/19-25
WSC<INDONESIA2020>	インドネシア、ジャカルタ	世	2020/8/6-11	2022/8/4-9
TAIPEI 2020	台湾、台北	ア	2020/10/23-27	2023/8/11-15
MELBOURNE 2021 2024	豪、メルボルン	ア	2021/2/11-14	2024/3/4-/-
CAPE TOWN 2021	南ア、ケープタウン	世	2021/3/17-20	2022/11/8-12
IBRA 2021 2023	独 エッセン	世	2021/5/6-9	2023/5/25-28
PHILANIPPON 2021	日、パシフィコ横浜	世	2021/8/25-30	アジア展に変更して開催
HUNFILEX 2022	ハンガリー ブダペスト	世	2022/3/31-4/3	当初予定通り
HELVETIA 2022	スイス、ルガーノ	世	2022/5/18-22	当初予定通り

■:2020年開催 ■:2021年開催 ■:2022年開催 ■:2023年開催 ■:2024年開催

この3ヶ月間の最大の情報は、LONDON 2022が予定通り2022年2月19日から25日まで開催されたことです。これに続く、HUNFILEX2022（ハンガリー）やHELVETIA 2022（スイス）についても、各実行委員会は、開催に向けて進めている旨の案内や通知を頻繁に発信しており、本年は国際切手展の復活の年となりそうです。

もっとも、競争展示会への参加となると、コレクションを現地に届ける必要が出てきます。従って、コミッショナーが現地入りすることを取りやめた切手展については、郵送による提出が義務付けられている文献部門を除くと、仮に展示がアクセプトされた作品であったとしても、除外されることになります。

実際に開催予定の展覧会の内、LONDON 2022とHUNFILEX 2022は、日本コミッショナーが現地入りしない展覧会に該当しますので、文献部門を除く日本からの競争部門への参加作品はなくなりました。従って、文献部門以外の部門について、日本からの国際展への参加は、5月に開催されるHELVETIA 2022が最初の展覧会になります。しかしながらロシアのウクライナへの軍事侵攻に伴い、欧州の情勢は日々刻々と変化していますので、今後どのような展開になるかは分かりません。まずは様子を見守りたいと思います。

それ以外の本年開催の展覧会の内、Melbourne 2022については、準備が着々と進み、一旦は各国コミッショナーも発表されましたが、3/15になり2024年3-4月への2年間の延期が決定されました。また、8月にインドネシアで開催予定のFIP展および11月に南アフリカで開催予定のFIP展については、開催の可能性が高いと予測される一方で、新たな情報は現在はありません。

また、当誌前号で、TAIPEI2020が2022年5月6日から10日までの新会期予定を2023年8月11日から15日に再度、延期したらしいが公式ホームページを含めて情報発信力が貧弱である為、確認できないことを報道しましたが、公式ホームページが立ち上がり、同日程が確認できました。ただ、同展覧会のホームページは現在再び見るができなくなっています。アジア展の情報発信は、概して欧米のそれに劣ることが多いので、これはその類のものと思われます。

World Stamp Exhibition HELVETIA 2022

HELVETIA 2022 日本コミッショナー 吉田 敬

欧州をコロナ禍が覆っていた昨年4月に、VSPHV（スイス郵趣協会）は、2022年に5日間の会期で世界切手展（FIP Patronage）を開催することを決定しました。場所はスイス南部のルガーノ市。4年前の2018年5月に、国内展にも関わらず1,500フレーム規模の作品を集め（PHILANIPPON2021の3倍に相当します）たNABA LUGANO 2018を実質的に仕切った、ルガーノ郵趣協会の面々が同一会場で開催する展覧会です。

この時のメンバーが当時から狙っていたのは、1974年に開催されたINTERNABA 74以来、半世紀近く同国で開催実績のない世界切手展の開催でしたから、まさに有言実行。強い意志で展覧会の開催に向け今も動いていると聞いています。

昨年12月のオミクロン株が登場により先行きが不透明になった時期もありましたが、2月下旬開催のロンドン展に間に合うかのように、我が国とヨーロッパの間も隔離なしで行き来できるところまで戻って参りました。軍事侵攻に伴う欧州の緊張が高まった場合は渡航も難しくなりますが、現時点ではできる限りの準備をした上で現地に赴き、ヘルベティア2022実行委員会の皆さんと力を合わせて、同展覧会を盛り上げたいと考えています。

展覧会名	World Stamp Exhibition HELVETIA 2022
競争展種別	世界展
展示会規模	2150 フレーム
開催期日	2022年5月18-22日

日本からの展示予定作品

Class	Exhibit Title	F	Name
伝統郵趣（スイス）	Switzerland postage due stamps 1883 - 1910	5	Ariyoshi Nobuto
伝統郵趣（スイス）	Classic Switzerland	8	Yoshida Takashi
伝統郵趣（欧州）	Lombardy Venetia the 1850 Issue	5	Saito Tamaki
伝統郵趣（その他）	Japan Chrysanthemum Stamps 1899-1910	5	Kato Shigeki
伝統郵趣（その他）	Ryukyu Dollar Currency Conversion Provisional Series	5	Kido Yusuke
郵便史（その他）	Indian Campaigns	8	Koiwa Akihiko
ステーションナリー	The Japanese Foreign Mail Postcards	8	Ando Gensei
ステーションナリー	Hawaiian Postal Stationery	8	Yamazaki Fumio
文献（単行本）	How to Make Your Exhibit for JAPEX		Enosowa Yuichi
文献（単行本）	Brazil Classic Philately		Shoda Yukihiro

展示作品は現時点の予定であり変更の可能性あります。



本誌95ページより「HELVETIA 2022 日本からの出品まとめ」を掲載しております。合わせてご覧ください。

FIAP International Stamp Exhibition Melbourne 2022

Melbourne 2022 日本コミッショナー 吉田 敬

Melbourne 2022 は 2022 年 9 月 8-11 日に開催されるアジア切手展(FIAP Recognition)です。出品希望者は、同展覧会の HP に掲載されている特別規則の原文 (PDF 7 ページ) を熟読した上で、国内出品締切日の 4/24 までにコミッショナーに書類を送付してください (yoshida@kitte.com)。

なお、概要に関しては出品者以外にも関心があると思いますので、便宜上必要な部分の抜粋を日本語で掲載します。

Melbourne 2022 特別規則 (全 15 条より抜粋) 第 8 条 フレームサイズと割り当て

第 1 条 目的 省略

第 2 条 開催団体・場所・時期 省略

第 3 条 FIAP 賛助とコーディネーター 省略

第 4 条 適用される諸規則など 省略

第 5 条 出品資格

第 7 条で示される出品クラスのうち、class 1, 11, 12, 14 を除くクラスに初めて出品する場合は、スタンベックスジャパン、全日本切手展、JAPEX などの全国切手展で過去 5 年間に金銀賞以上を獲得している必要があります。class 1, 11, 12, 14 の出品条件は原文をご覧ください。かコミッショナーにお問い合わせ下さい。

第 6 条 出品申し込みと出品許諾について

4 項 出品申し込みを行う者は、一作品につき一枚の出品申込用紙を、各国コミッショナーを通じて提出すること (国内締切 4/24)

3 項 文献以外の出品申込希望者は、申込用紙とタイトルページの両方を提出すること

5 項 出品可否の連絡は、2022.6.30 までに各国コミッショナーに通知予定である。

6 項 出品許諾後のキャンセルは原則として認めない。

7 項 出品料はコミッショナーを通じて、2022.7.30 までに実行委員会に納めること。

第 7 条 出品クラス (15)

クラス 2 (伝統郵趣) とクラス 3 (郵便史) は、さらに 1 (オーストラリアと植民地、ニュージー

1	チャンピオンクラス	9	印紙
2	伝統郵趣	10	オープンフィラテリー
3	郵便史	11	ユース
4	ステーションナリー	12	郵趣文献
5	航空郵趣	13	ワンフレーム
6	宇宙郵趣	14	現代郵趣 (1980 年以降)
7	テーマティック	15	絵葉書 (試行クラス)
8	マキシマフィリー		

ランド、保護領) 2 (アジア) 3 (それ以外) の 3 つに細分されています。

クラス 7, 11, 12, 13 も細分類されていますので、出品にあたっては特別規則の原文を参照して、ご記入ください。

1 項 切手コレクション展示パネル (フレーム) は、23cm * 29cm のリフを 4 列 4 段 (合計 16 リフ) 展示できるものを用意する予定です。この提示は A4 (210 * 297mm) よりも縦が短いことをお知らせします。

第 9 条 出品料

2 項 クラス 11, 12, 13 以外の出品料は、フレームあたり 65 米ドル。

3 項 クラス 12 (文献) は 65 米ドル。

4 項 クラス 13 (ワンフレーム) は米 95 ドル。
* なお、当項目は実行委員会への支払金額のみであり、コミッショナーに帯同せずに、コレクションの運搬を依頼する場合は別途費用が発生します (次ページ下段に詳細)。

第 10 条 セキュリティ対策

実行委員会は十分な安全を確保して作品を預かり展示会を運営するが、その一方で保険などは一切かけず、万一の場合も一切補償には応じない。従って保険をかけたい出品者は各自の負担で保険会社を見つけ締結すること。

第 11 条 展示物の取り扱い

1 項 作品は 9/7 朝までにコミッショナーによりピンルームに納品すること

2 項 文献部門の送付点数は一点につき 2 冊とし、2022/8/30 必着で郵送で提出すること。なお返却はしない。

3 項 上記 2 項の遅延、もしくは不適格展示物については展示せず出品料も返却しない

4 項 リーフには保護ラップをかけ、左下にナンバリングすること。フレームごとに封筒に入れ、記入済みのエントリースートを各封筒に貼り付けること。

第 12 条 審査と授賞 省略

第 13 条 実行委員会の権限 省略

第 14 条 出品者の当規則の承認について

出品申し込み書にサインして提出することで、当特別規則を受け入れたことになる。

第 15 条 実行委員会の住所 省略

(以上)

おことわり 3/15 午後、Melbourne 2022 実行委員会は、本展覧会の開催を 2024 年 3-4 月まで延期することを発表しました。詳細は郵趣振興協会 HP で発表するほか、次号以降でお知らせいたします。

日本コミッショナーの渡航について

全日本郵趣連合が、世界展 LONDON2022 へのコミッショナー派遣を突然中止した事から『出品してもまた突然中止になるのではないだろうか?』『LONDON2022 の様に出品料金が返金されず無駄になってしまうのではないだろうか?』という心配の声が、私の元に入る様になりました。

メルボルン展の成功の為にみなさんに作品募集を呼びかけますが、コミッショナーにとって、実行委員会は優先順位第2位です。最も優先順位が高い対象は出品者のみなさんの満足度とその財産であるコレクション（作品）であることを明言します。平時と言えない現在、出品者のみなさまに相応のリスクの存在を包み隠さずお話しした上で、作品募集を行いますので、よくご検討ください。

さて国内移動ですら有形無形の制限がある現在において、重く嵩張る荷物をもつての国際移動の負担や障害ははるかに大きいというのは、残念ながら事実です。また海外における COVID-19 感染の流行が2月以降下降線を辿っている一方で、ロシアのウクライナに対する軍事侵攻で、航空機をめぐる環境は混乱をきたしています。そこで、どのようなケースで渡航を断念し、どのようなケースは渡航するかについてコミッショナーの方針を明示します。なお、本方針は、HELVETIA 2022 の日本コミッショナーとして出品者に対して提示された内容を参考にまとめたものです。

渡航断念に至らないケース 以下4項目に該当する場合は、原則として現地に赴きます。

- ・入国時の隔離が必要（10日まで）だが、フライトが確保できた場合
- ・帰国時の隔離が必要な場合（14日まで）
- ・外務省の渡航中止勧告（感染症）のレベル3に該当する場合
- ・現地でコロナに罹患しそうな気分がする場合

全日本郵趣連合に問い合わせたところ、コミッショナーは委嘱であり、委嘱後の対応はコミッショナー次第のこと。実際に上記「渡航断念に至らないケース」よりもさらに軽い内容で渡航を取りやめた事例もあります。もちろん新たなウィルスの登場や戦いの拡大により、想定外の理由で渡航断念に至るケースが他にないとは言えませんが、現在の延長であれば、例示した4例を渡航断念理由にはしません。

次に渡航を断念するケース7例を挙げます。この内最初の4つは、かなりレアなケースです。

渡航を断念するケース

- ・オーストラリアが日本を入国禁止国に指定した場合
- ・日本がオーストラリアを渡航禁止国に指定した場合
- ・日本・オーストラリア間の往復フライトが確保できない場合
- ・オーストラリアおよび隣接国が交戦状態に入った場合
- ・オーストラリアが健康状態などを理由に日本コミッショナーを入国禁止とした場合
- ・日本が健康状態などを理由に日本コミッショナーを出国禁止とした場合
- ・HELVETIA2022 のコミッショナー業務でコロナ感染し、体調に重大な問題が生じた場合

ご留意頂きたいのは7項目です。国際展出品者はご承知の通り、私は5月末開催の HELVETIA 2022 のコミッショナーから帰国した3ヶ月後の Melbourne 2022 のコミッショナーとなりました。通常なら引き受けないのですが、他に候補がいらないとお聞きし引き受けた次第です。

並行して業務するタスク管理に問題はございませんが、万一 HELVETIA2022 でコロナを含む重病に感染した場合に業務継続が不可能になる可能性があります。この場合は代替のコミッショナーを探し、それが無理な場合はできるだけ Melbourne2022 特別規則第6条6項に抵触しない様に、コミッショナー派遣の断念を決定し、出品できないのに出品料だけ取られるという無駄を排除する判断をする可能性があります。この点を納得の上出品をお申し込みください。

なお、コミッショナーとの運搬契約（預け荷物扱い、有料）に付いては『必要経費を後で精算して請求されるのではいくら請求されるか不安』という声をお聞きました。本展覧会のコミッショナー就任前に公開された HELVETIA 2022 の運搬契約（2022年1月）では、請求金額を平時の倍額を上限の目安として提示した上で当面の費用はコミッショナーが自前で負担し、帰国後に決算を行い、上限以下の負担金額を請求する方式を導入し出品者に好評ですので、同様に予定です。

全国切手展

スタンペックスジャパン2022

特定非営利活動法人 郵趣振興協会

競争切手展は、欧州のフィラテリーから生まれ、世界の様々な国籍・人種のフィラテリストが参加する国際郵趣連盟（以下、FIP）の規範作りの下、永年に渡り進化し続けてきたフィラテリーの文化であり、審査競技です。

全国切手展「スタンペックスジャパン2022」は、この審査競技を適切に運用する競争切手展で、審査員の人選はじめ、我が国で開催される競争切手展の中で、FIPの審査基準に最も準拠する度合いが高く、審査結果が世界的に通用する競争切手展です。また、出品者への適切なフィードバックを通じてコレクションの発展に寄与することを目指すことも、本展覧会の特徴の一つです。毎年桜の咲く季節に開催しています。

展覧会の概要

名称：スタンペックスジャパン2022

会期：2022年3月26日（土）～28日（月）[3日間]

会場：郵政博物館（東京都墨田区・東京スカイツリータウン内）

規模：90 フレーム

主催：（特非）郵趣振興協会 /（公財）通信文化協会（郵政博物館）

協賛：スタンペディアプロジェクト

後援：カルトールセキュリティプリンティング社、切手市場、
一般社団法人 全日本郵趣連合、公益財団法人 日本郵趣協会

開場時間：10:30-16:30 ＊最終入場時刻は閉場時刻の30分前



スタンペックスジャパン2022実行委員会は、競争切手展の運営に注力するため、目録の発行については、協賛団体のスタンペディアプロジェクトに委託しています。

スタンペディアプロジェクトでは、全国切手展の開催の度に、フィラテリストマガジン号外「競争切手展参観ガイド」を発行してきました。

同様の取り組みをスタンペックスジャパン2022についても、同社の費用負担で行うと共に、配布についてもご協力いただく協賛をいただけることになっております。

この目録（左図 カラー74ページ予定）につきましては、会期中のご来場者先着300名に対してお一人一部、無料で配布いたします（予定）。どうぞお楽しみになさってください。

2022 年度 第 1 回 郵博特別切手コレクション展 沖縄復帰 50 周年記念切手展

琉球切手コレクターズクラブ

1972 年 5 月 15 日の沖縄の日本復帰から 50 周年を記念し、琉球切手コレクターの貴重なコレクションを持ち寄り、展覧会を開催することになりました。

展覧会最終日が、ちょうど復帰 50 周年の日にあたります。郵趣家だけでなく一般層のご関心も大きいと思いますので、今回は、一般客の来場機会の多い郵政博物館で開催することにしました。



沖縄復帰 50 周年記念切手展

郵政博物館における展示期間：2022-5-7（土）- 2022-5-15（日）

クラウド展示の開催期間：2022-5-7（土）- 2022-6-6（月）

展示作品（予定）

作品名称	F	出品者
琉球の郵便局使用例	5	大井道夫
琉球記念切手 B 円	8	木戸裕介
琉球記念切手 ドル	8	大井道夫
奄美使用例	3	秋吉誠二郎
琉球 B 円普通切手	8	木戸裕介
琉球航空切手	8	木戸裕介

展示作品は現時点の予定であり変更の可能性があります。展示は博物館もしくはクラウドで行います。



サブスク購入できる

郵趣雑誌の発行者等を応援するページ

2021年12月～2022年2月

IZUMI（発行：いずみ切手研究会）



386号を発行(12/19) 別仕立と別配達(石川 勝巳) 近代史を語る記念絵葉書-6(矢嶋 基之) 西京の N2B1 型印について(尾台 昭弘) 台湾の離島 澎湖諸島(山田 克興) 「・」 付ける? 付けない?(赤須 秋王) 標語機械印考(29) 貯金に関する標語(4)(清水 勝利) JAPEX 2021 参観記(長野 行洋) ほか

「いずみ切手研究会」例会案内	
例会開催日	原則として第3日曜日 午前9時-12時
会場	練馬区立勤労福祉会館（大泉学園駅近）
向こう三ヶ月の例会日	3/20, 4/17, 5/15
例会参加資格	会員限定（ダウンロード権利のみでは参加できません）

最近の情報（発行：小判振舞処）



205号を発行(12/25) 長田伊玖雄氏を偲ぶ 24名から寄せられた長田伊玖雄氏の追悼集

206号を発行(2/20) (報告) 小判切手ブルーのセットを入手して(2)(田畑 裕司) 3通の外郵カバー(城野 隆二) 北深川 N3B3S 初日印(平尾 勉) ほか

エハカキ（発行：日本絵葉書会）



79号を発行(12/25) 特集 コロタイプ、手彩色絵葉書を愛でる(平澤 佳依) 絵葉書をより愉しむために(十五)(高尾 均) 私の小早川秋聲(十二)(松竹 京子) 石橋(七)(林 丈二) ほか

郵趣仙台（発行：仙台郵趣会）



251号を発行(12/12) 私製封筒の現金書留(斎 享) 切手に登場した歴史上の女たち(18)(中島 斉) 詩と音楽(18)(佐々木 克夫) グリーンランド切手の話題(その3) 1938年シリーズ(その2)(小野寺 剛) JAPEXに「1 フレーム」作品を出品してみた! (佐藤 浩一) 宮城県の記番印-7 コニ五号~三〇号鈴木紀男氏のコレクションから(小関 幸生) 第1次国立公園切手(24)(池田 駿介) ほか

252号を発行(2/13) 東北各局の三日月型欧文印の早期使用データ募集(横山 裕三) グリーンランド切手の話題(その4) 1938年シリーズ(その3)(小野寺 剛) 宮城県の記番印-8 コニ一号~三二号 鈴木紀男氏のコレクションから(小関 幸生) ほか

「仙台郵趣会」例会案内	
例会開催日時	COVID-19の影響もあり、会場や時間が定まりません。参加希望者は torusai2@yahoo.co.jp までお問い合わせください。
会場	
向こう三ヶ月の例会日	(上記の通り)
例会参加資格	会員限定(ダウンロード会員も参加できます)

切手の友会報（発行：切手の友）



12月号を発行(12/14) 定額小為替証書及び受領証書(5)(竹之内 康雄) 英米の記念押印に感謝(飯野 明) 第6回関東郵趣サロン 楽しい切手展(友田 淳治) 泉麻人、ラジオ出演と著書(友田 淳治) 宮野禮一さんを悼む(友田 淳治) ほか

1月号を発行(1/9) 奈良の「寅の寺」まで一人旅(縄 美萌里) NIVEAの缶 つづき(飯野 明) 定額小為替証書及び受領証書(6)(竹之内 康雄) 20円切手3種貼りはがきの怪?(飯野 明) 日本橋局の機械ハト印と押印機絵入りハト印が廃止に(友田 淳治) レターパック封緘帯の備忘録(友田 淳治) 吉田敬さんと郵趣談義(友田 淳治)

2月号を発行(2/13) 英米の記念押印に感謝 つづき(飯野 明) 年賀はがき等、1組の収集(1)(竹之内 康雄) 日本橋局、欧文ハト印使用開始(友田 淳治) マンホールカードを求めて都内を迷走(続き)(友田 淳治) ほか

予定されている催事は、季節・時期・地域を問わず、全て急遽中止・変更される可能性があります。ご参加にあたっては、各主催者が提供する一次情報(ホームページや代表電話)を確認の上、ご参加ください。

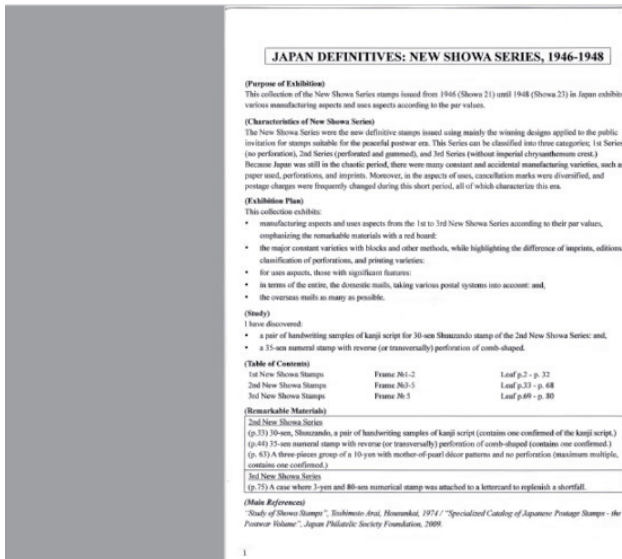
家にいながら、同好の士との例会に参加できます オンライン郵趣例会の主催者を応援するページ

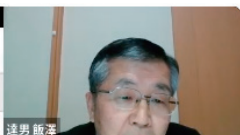
特定非営利活動法人 郵趣振興協会
オンライン郵趣例会振興プロジェクト

当協会では、2020年6月より、オンライン郵趣例会振興プロジェクト（担当理事：斎享）を設け、オンライン郵趣例会の技術・マーケティング支援を行って参りました。今回から、本ページを設けて、各例会の今の動向をお伝えすると共に、参加方法についてご紹介していきたいと思います。

昭和切手研究会 オンライン例会（代表者：斎享氏）

日本切手研究会からスピンアウトした専門例会で、昭和切手・新昭和切手及び同時代の郵便史を取り扱う。毎回10人前後が参加しており、各人が気軽に発表しているが、あわせて2021年9月から、毎回最初を講演にあてており、「第1次昭和切手コレクションフレーム別解説（菊地恵実さん）」が終了し、現在は「昭和切手・額面別解説（伊藤純英さん）」が引き続き行われているほか、「新昭和切手コレクションフレーム別解説（飯澤達男さん）」がはじまった。





達男 飯澤

講演を行う飯澤達男さん

昭和切手研究会
今後のオンライン例会の予定日 → 3/20, 4/17
[第3日曜日 21時] 5/15, 6/19

日本切手研究会 オンライン例会（代表者：横山 裕三 氏）

日本のオンライン郵趣例会で、2番目に古く、2020年5月に第一回例会を開催した。代表者の横山氏が司会をつとめ、毎回15人程度が参加する。

11月から、毎回最初の30分を、田畑 裕司氏による旧小判切手の講演に充てていた。同分野を収集しない人にも好評を博し、惜しまれつつ終了した。講演の終了後は、発表希望者に順に司会者が割り振りを行い、最近の入手物、自分のコレクション、質問したいマテリアルの紹介など、さまざまな話題を参加者で共有している。毎回一時間半ほど。

日本切手研究会 今後のオンライン例会の予定日 → [第2, 4日曜日 21時]	3/13, 27, 4/10, 24 5/8, 22, 6/12, 26
--	---

外国切手研究会 オンライン例会（代表者：榎原 晃二 氏）

日本のオンライン郵趣例会で最も古く、2020年4月に第一回例会を開催した。研究会の中での分業が進み、1人に負担がかからない様な運営がされており、例会の司会と内容報告のブログ発信は、主に木戸 裕介氏と北野 雅利氏により行われている。この工夫により開催された例会の数は2月で81回を数え、今なお月2回10-15名の参加者で例会は賑わっている。

2013年から毎年一回開催されるミニ切手展である『ヨーロッパ切手展』（今年は9月に郵政博物館で開催）の主催やオフライン例会の開催にも積極的な切手サークルで、オンライン例会は毎回一時間半ほどだが、盛り上がると二時間近いこともある。

外国切手研究会 今後のオンライン例会の予定日 → [第1, 3土曜日 20時]	3/19, 4/2, 16 5/7, 21, 6/4, 18
--	---

南方占領地切手コレクターズクラブ オンライン例会（代表者：守川 環 氏）

郵政博物館で毎年、南方展を開催している郵趣サークルによるオンライン郵趣例会。現在、月一で90分の例会を開催している。

比留間 晃則氏がコーディネーターをつとめているほか、三木 和也氏が例会内容報告のブログ発信を継続して行っている為、どのような内容が例会で話されていたか、見る事ができる。代表者の守川氏は南方切手に関する鑑定もでき、初心者への参加も歓迎している為、とっつきにくいと感じがちな南方切手に関心のある人は是非参加してみてはいかがだろうか？

南方占領地切手コレクターズクラブ 今後のオンライン例会の予定日 → [第4水曜日 20時]	3/23, 4/27 5/25, 6/22
--	--

[編集部注] ご紹介している各オンライン郵趣例会は、いずれも参加を幅広く募集しているオープンなサークルで、参加にあたり費用もかかりません。参加希望者は代表者に直接連絡をとるか、もしくは各団体を支援している郵趣振興協会 info@kitte.com までお問い合わせください。

私の発見・私の報告

林式・輕井沢

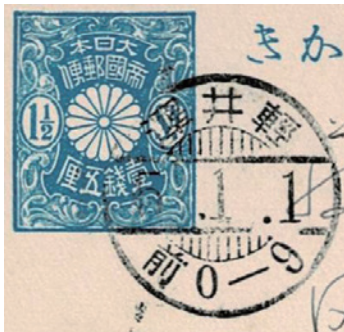
赤須 秋王

年末に収集品を整理していたところ、輕井澤局（長野県）の林式印影を確認したことから報告させていただきます。林式の特徴である、月日の区切り点の位置、裏写りの状況から、林式に間違いないと判断いたしました。

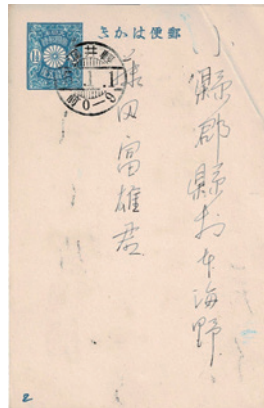
今回発表のデータは昭和5.1.1ですが、平川式の最古データが昭和7.1.1であることから、同局の昭和6年が空白です。機械印が配備されていたのか、配備されていたとした場合、林式か平川式か、または別の機械かと言う疑問が出てきます。

同地は避暑地、別荘地として明治期から有名な地域ですが、ご承知の通り夏季と冬季では滞在人口は大きく異なります。昭和5年当時の輕井沢町の人口は約7,700人ですが、夏季はその人口の数倍と言われるほど多くの方が訪れ滞在していると言われています。

ですので、年賀時期である冬季は町民のみで、それ以外の観光客等はほぼおらず、郵便物の取扱数も夏季とは比べ物にならないぐらい少なくなることから、現存物も少ないと思われます。このような背景から新データの発見は厳しいかもしれませんが、購読者のみなさまのご尽力で、是非とも、新データの発掘をお願いいたします。



拡大



(以下、参考)

これまでの小生承知の文献データでは、次のとおりです。

右書時代の機械印Ⅱ（関 利貞, 2007.7, (株)鳴美）

平川式 昭和7年、8年

M波 昭和9年以降

郵便消印百科事典（山崎 好是, 2007.4, (株)鳴美）

平川式 最古 昭7.7.22 最新 昭7.8.22

M波 昭9.7.27 (最古)

私の発見・私の報告

読者からの報告

和欧文機械印 1 期の O-8 新局ほか

水谷 行秀

これまでに報告されているデータに加え、新しい 1 期の O-8 使用局の報告があった。金沢中央で 1970 年 11 月 28 日というデータ。右の画像は少々ビントが合っていないが間違いなく O-8 である。



和欧文機械印 3 期中 2 期印誤使用

また、前号にて 3 期に 2 期印の誤使用データを全てリストして発表したが、早速お一人から報告をいただいた。まずは荒川。これは 1991 年 10 月 12 日で前号にて発表したものより 5 日早いデータである。これで少なくとも 12 日から 17 日の 6 日間にかけて使われたこととなる。これまで収友などからも 10 月 17 日のもの以外誰も所持しておらず、2 点目以降は期待していなかったが今回 2 点目が報告された。

同じ方からであるが熊本東と釧路中央を示していただいた。どちらもこれまでは 1 日限りのデータしか見つかっていなかった。今回熊本東 2 点と釧路中央 1 点の報告である。どちらもこれまで確認されているデータと同じ日付のものであるが、そこに確認点数が加わったことになる。熊本東では時刻表示が 12-18 と 18-24 で少なくとも午後いっぱい使われたようである。本ページの全ての報告者は加瀬誠氏です。



私の発見・私の報告

昭和 30 年以降の M 波使用局

水谷 行秀

以前「郵趣研究」108号と113号にて「戦後の和文櫛型印と同機械印調査」という表題にて当時判明している各種タイプのデータを発表した。その中で昭和30年以降に使われた和文機械印M波の使用局を全てリストした。(右図)これらに加えて今回彦根局を確認した(図7)。

豊島	図1	筆者蔵
川口	図2	筆者蔵
近江八幡	図3	筆者蔵
津山	図4	関利貞氏旧蔵
下関	図5	筆者蔵
白浜	図6	筆者蔵

これまでの確認局



図 1.M 波豊島



図 2.M 波川口

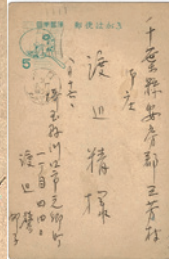


図 3.M 波近江八幡



図 4.M 波津山

大戦前後には資材不足もあり L 波、M 波、S 波が混在して使われていたが、昭和 24 年 10 月 1 日の消印大改正以降徐々に S 波に統一されていった。昭和 29 年にはごく一部の局しか見られなくなったため、昭和 30 年以降の使用局をリストしている。

また、白浜は昭和 50 年台と飛び抜けて遅い使用が確認されている。これまでは故丸島氏が郵頼にて作ったものばかりを目にしたが、今回一般信で更に遅いデータとなるものを見つけたので合わせて紹介したい (図 8)。



図 5.M 波下関



図 6.M 波白浜 55 年



図 7.M 波彦根

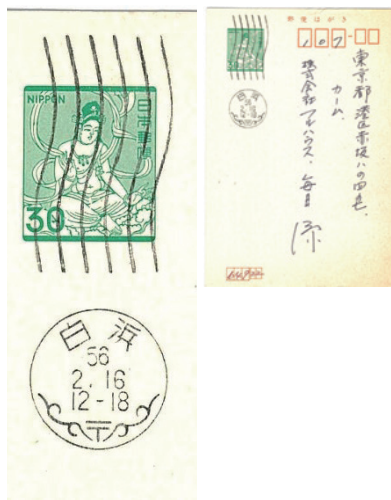


図 8.M 波白浜 56 年

南方占領地のフィラテリー (18)

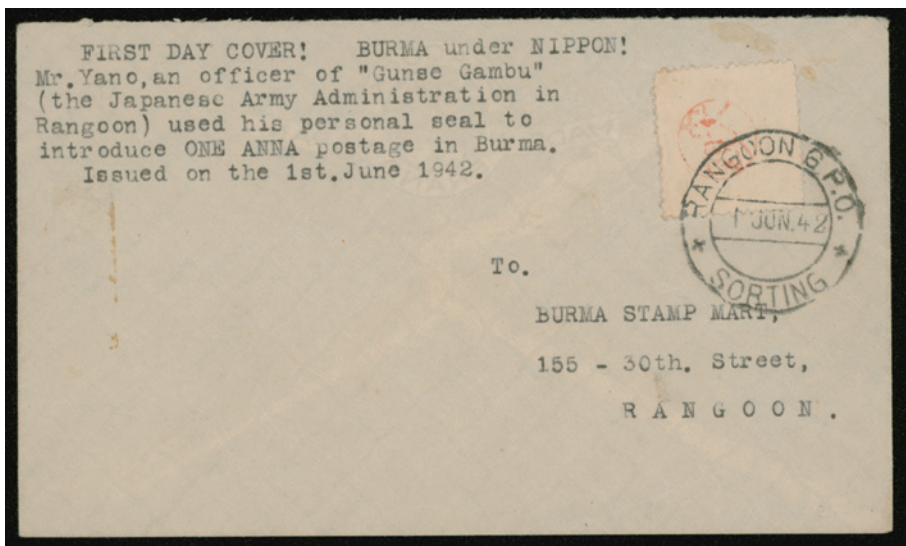
日本占領下ビルマにおける昭和切手の使用

守川 環

日本占領下ビルマでは、1942年6月1日に正式に郵便が再開されました。

当初の郵便料金は封書1アンナ、はがき6パイ(1/2アンナ)でした。開始当初は封書用の1アンナ切手(矢野切手、後に農耕切手)のみが用意され、はがきは従来の戦前のビルマ葉書が額面に関係なく6パイで販売されました。書留料金は3アンナで再開と同時に利用できました。

また、日本宛郵便については封書4銭、はがき2銭という独自の料金が設定され日本切手が無加刷のまま販売されましたが、現在までのところその使用例は未発表です。



1942 矢野切手 単貼り 初日カバー 日付印 1942-06-01 RANGOON GPO → Rangoon
ex-HASHIMOTO (スタンペディアオークション第20回 Lot.1571)

1942年9月22日、アンナ加刷もしくはルピー加刷切手10種類の発売されました。(表・図1)

治安の安定とともに郵便料の増加や印刷物【料金9パイ (3/4 アンナ)】の取り扱いにより他の額の切手の需要が必要となり日本から持ち込んだ昭和切手への加刷が行われたのです。



加刷	台切手	主な用途
1/4 A.	1 銭	
1/2 A.	2 銭	はがき料金
3/4 A.	3 銭	印刷物料金
1 A.	5 銭	封書料金
3 A.	7 銭	書留料金
4 A.	4 銭	封書+書留料金
8 A.	8 銭	
1 R.	10 銭	
2 R.	20 銭	
5 R.	30 銭	
4 A.	4 銭 +2 銭	封書+書留料金



表・図1 アンナ・ルピー加刷

印刷物の取扱開始時期がはっきりしていないため昭和切手の発行前のこのサービスについてはどのように行われたか不明です。おそらく定期刊行物の新聞【料金1パイ (1/2 アンナ)】などは料金別納方式がとられたものと思われます。

また、アンナ・ルピー加刷では種々のエラー切手が存在します。当時ビルマ郵政関係者の希望に応じて加刷をしてくれたという噂もあり、エラー切手の使用済みのほとんどが初日印であることから意図的要素を感じます。(図2)



図2 10 銭 一方加刷漏れベア

1942年10月15日、セント貨幣法の改正により、従来のアンナ標記は、セント標記に変更になりました。その為アンナ加刷切手7種類に、更にセント加刷が行われました。

郵便料金も改められ、小包料金も追加されました。また、暫定料金であった日本宛郵便もビルマ国内料金と同じに改められました。

3セント	はがき料金
3セント	印刷物料金
5セント	封書料金
15セント	書留料金
20セント	封書+書留料金
10セント	小包(250gまで)
20セント	小包(450gまで)

昭和切手への再加刷ではその方法に種々あります。

各額面ごとに異なった方法が取られ、現在判明しているのは以下の様である。

- 旧額面の抹消法 -



黒丸 (図3)



六角棒 (図4)



1本棒 (図5)



2本棒 (図6)



旧額面を抹消せず (図7)

- 新額面の表記法 -



新額面を加刷 (図 8)



新額面を加刷せずに旧額面を抹消して台切手の額面の銭をセントと読ませる。(図 9)



旧額面の一部を抹消して新額面とする。(図 10)

セント加刷 (1942.10.15 発行) の分類

台切手	アンナ加刷	アンナ額面の抹消方法					セント額面の表記法			セント加刷
		黒丸	六角棒	1本棒	2本棒	無抹消	*1	*2	*3	
1 銭	¼ A.	○ 図 3			○	○	○	○	○ 図 10	1c
2 銭	½ A.	○	○	○	○ 図 6		○ 図 8		○	2c
3 銭	¾ A.	○	○	○	○		○		○	3c
5 銭	1 A.	○	○		○		○	○ 図 9		5c
7 銭	3 A.	○	○ 図 4	○			○			10c
4 銭	4 A.	○	○	○ 図 5	○	○ 図 7	○			15c
8 銭	8 A.	○				○	○			20c

*1 新額面を加刷

*2 新額面を加刷せずに旧額面を抹消して台切手の額面の銭をセントと読ませる。

*3 旧額面の一部を抹消して新額面とする。

また、1942年11月25日シャン州政庁が開庁された際にはセント加刷切手3セント(青加刷)と5セント(紫加刷)が加刷色を違えて使用されました。

なお、アンナ加刷切手に更にセント加刷を行った切手を発行した1942年10月15日には、同時に、昭和切手(無加刷)へセント加刷した切手7種類も発行されました。

加刷位置

加刷位置については明確な規定はないが概ね旧額面の上に新額面を加刷しています。図 1 1 に標準的な加刷例を示します。



図 1 1

セント加刷切手は、翌年の農耕切手発行まで継続して使われるが、使用量の増加とともに無加刷の昭和切手も使用が開始された。この場合、「銭」は「セント」と読み替えて使用された。(図 1 2)



図 1 2 無加刷 1 銭と加刷 2 銭貼り KAMAYUT-RANGOON 22 DEC 42 ⇒ Kalaw

偽加刷

15c 加刷切手（台切手：基柱 4 銭）と 1R 加刷切手（台切手：地図 10 銭、図 13）は戦後すぐに作られた偽物である。

また、乃木 2 銭に 2C 加刷に図のようなタイプ違いを掲載している文献があるが、未使用、使用済いずれも偽加刷と考えられる。（図 14、図 15）



図 13 地図 10 銭



図 14 乃木 2 銭



図 15 7 種貼り 初日にもかかわらず 2C 切手に別タイプの加刷がされ、5C 切手は紫加刷であり、戦後製の偽物と考えられる。

江戸時代の国際郵便（5）

安政2年・アメリカ合衆国

吉田 敬

yoshida@kitte.com

1603年から1868年まで、徳川幕府が2世紀半にも及ぶ長期政権を維持できた要因の一つは鎖国政策です。この長い期間中、外国からの武器や思想は、人民はもちろん大名でさえも得ることがほとんどできませんでした。

もっとも、外国勢力にとって、四方を海に囲われている日本の鎖国を破ることは17世紀の技術を以ってでは難しかったものの、19世紀になると状況が代わり、1853年の米艦隊の来訪により、徳川幕府は外圧を跳ね除けることが不可能と認識するに至りました。

この結果締結されたのが日米和親条約（1854）です。この条約は、下田港の即時開港と函館港の一年後の開港を定めましたが、目的は貿易ではなく薪水や食料の補給であり、船舶の航行に必要な物資の供給や避難について定められていました。

日米間の交易が認められるのは日米修好通商条約（1858）締結後ですが、1858年以降1860年代前半までの日米間のやりとりは数えるほどしか見かけません。ましてや、日本人との交易行為が表向きは禁止されていた日米修好通商条約締結以前の期間（1854-1858）は、日本に着任した外交官や寄港 / 難破した船員そして閩商人に、公文書や信書を送付する需要がないわけではないものの、「ほとんど無いだろう」と考えていましたが、ありましたので、紹介します。



1953 琉球 ペリ来航百年



HAKODADA JAPAN JUNE 1855 → San Francisco 9/20 → Philadelphia

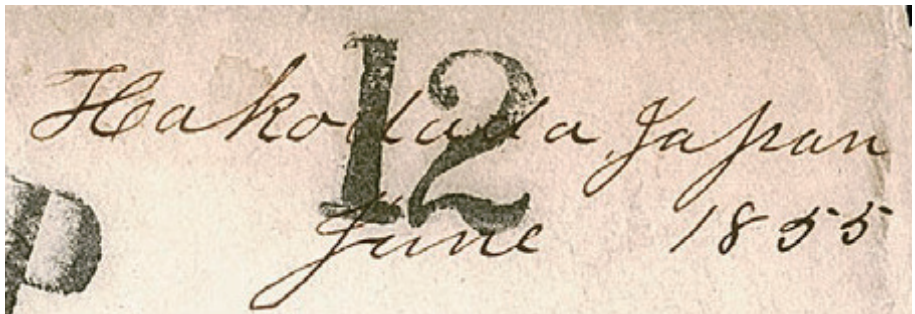
日米間に国際電話のない時代、日米和親条約の締結（1854.3.31）が米国内で報道されたのは数ヶ月先の事になります。筆者は NEW YORK DAILY NEWS, July 17, 1854 の一面記事に掲載されているのを確認しています。

この報道を目にした米国商人の中には、日本という新しいマーケットに商機を感じた者もいました。先にも書いた通り、日米間の交易はまだ認められてはいないものの、実質的な物品売買を取り締まることは難しく、闇交易も頭に入れての事でしょう。

そのような商人の一例として、帆船フート号, the Caroline E. Foote をチャーターした、Reed 氏を中心とする 6 名の米国商人（その妻 3 名 と子供 2 名も随行）がいました。

Reed 氏一行は、準備が整うと、条約港である下田港を目指し、1855 年 3 月に到着しました。下田港は確かに開港していましたが、前年 1854 年 12 月に下田を襲った安政の大津波により、街は壊滅的な被害を被り建物は 16 棟しか残っていませんでした。6 月まで下田に滞在したものの、貿易を睨んで設置しようと目論んでいた事務所は、下田に設置しても仕方ないとの判断に至り、もう一つの開港地である函館に移動しました。しかし、残念ながら函館でも商機を見ることはなく、チャーターした帆船フート号で 1855 年 6 月 23 日（安政 2 年 5 月 10 日）に函館を去りました。

前ページで紹介した書状は帰路の航海の直前に函館で書かれた手紙で、書状右上に、地名と年月が記入されています（下図）。



Hakodada Japan / June 1855

本書状の宛先地は米国東部のフィラデルフィアですが、帆船フート号はサンフランシスコまでの書状を運搬し 9/17 に米国郵政に引き渡しました。米国東西間の陸路の郵便網が確立していなかった当時は、西部から東部への郵便物はパナマ地峡経由で運搬されることが通常でした。本書状もそのルートを通ったと考えられます。書状表面の San Francisco / 20 SEP / CAL の日付印は、パナマ行きの船舶の出航日です。

また、この書状には日付印以外に二つのハンコが押されています。一つは「12」もう一つは「SHIP」です。このことからわかる通り、受取人（Samuel Wetherill, Philadelphia）からは 12 C が徴収されていますが、その内訳は、10 C が書状料金、2 C が船長への支払いです。

本書状は、ex-G.Kramer コレクションで、「日本から米国に差し立てられた最古の郵便物」と記録されています。この記述は正しく、米国の観点からはそうなるのですが、日本側の視点では、『米国に』の部分を『外国に』と置き換え「開国に伴い日本から海外に差し立てられた最古の郵便物」と表現できると思います。

フランス長崎局関連のカバーは 1859 年が最古ですが、プライベートに存在するものに限定すると全て 1860 年です。1855 年はダントツに古く、この様なカバーが存在していたことは今回初めて知りましたが、驚かされました。

カナダ宛て書状と印刷物の郵便料金

1883/1/1 (明治 16) ~ 1892/6/30 (明治 25)

森田 美佐子

外国郵便料金は、1897 (明治 30) 年 10 月 1 日より万国郵便連合加盟国、万国郵便連合非加盟国を問わず同料金となりますが、その前には名宛国や経路、郵便種別によって郵便料金が異なっていました。

例えば、1883 (明治 16) 年 1 月 1 日 ~ 1892 (明治 25) 年 6 月 30 日の期間には、香港を経由しプリンディシを経由しない連合加盟国宛ての書状 (15 グラム毎) の料金は 10 銭で、同じく香港を経由しプリンディシを経由しない連合加盟国宛ての印刷物 (50 グラム毎) の料金は 2 銭でした。

また、別の郵送経路であった香港とプリンディシの両者を経由する連合加盟国宛ての書状 (15 グラム毎) の料金は 2 銭高い 12 銭で、印刷物 (50 グラム毎) は 1 銭高い 3 銭でした。一方、アメリカ合衆国を経由する連合加盟国宛ての書状 (15 グラム毎) は 10 銭であったのに対し同経由の印刷物 (50 グラム毎) の郵便料金は 2 銭ではなく 3 銭でした。

その料金期間において、カナダ宛てはさらに個別の郵便料金の設定となっていました。戦前の外国郵便の名宛国に着目して過去のオークション誌も含めてチェックしていますが、1800 年代のカバーの数で言いますとアメリカ合衆国宛て、イギリス宛て、フランス宛て、ドイツ宛て等に比べて、カナダ宛ての使用例は市場 (郵趣界隈) に極端に少ないと思います。

カナダ宛ての書状 (15 グラム毎) はアメリカ合衆国宛てと同じ 5 銭であるのに対し、印刷物 (50 グラム毎) の郵便料金はアメリカ合衆国宛てが 1 銭であったのにカナダ宛ては 3 銭でした。つまり、両国宛ての書状は同じ料金なのに、カナダ宛ての印刷物はアメリカ合衆国宛ての 3 倍の料金に設定されていたこととなります。カナダ宛ての書状と印刷物の使用例をここに示します。個人的にカナダ宛てのこの料金期間の印刷物郵便は初めて見ました。やっと見つけたという思いです。

まず封書料金はアメリカ合衆国と同じ 5 銭料金で、小判封筒角形 2 銭に U 小判 1 銭切手 3 枚貼りで対応されています (図 1)。

図 1



図2は、カナダ宛て印刷物郵便です。在中国上海局のクロスロード印で抹消され、証示印はありません。この頃の印刷物郵便は些末郵便物として日付印（証示印）が押されないことが原則になっていました。

郵趣関係者での調査が進み上海のクロスロード印の使用期間はかなりわかってきていますが、このカバーでは幸いなことに差し出した企業の社用印の中に日付（1885年10月13日）がありました。その日付から3銭料金は、1883（明治16）年1月1日～1892（明治25）年6月30日の期間の50グラムまでのカナダ宛て印刷物郵便の適正料金になります。



図2（下に、封筒左下の社用印の拡大図）



上記の料金期間の後から万国共通料金になるまでの1892（明治25）年7月1日～1897（明治30）年9月30日の料金期間において、一足先にカナダとアメリカ合衆国の書状（15グラム毎5銭）、印刷物（50グラム毎1銭）を含めてすべての郵便の種類が同じ料金になっているのは興味深いです。

文献：山崎好是編，日本郵便料金大系，株式会社 鳴美，平成22年1月30日．

琉球の航空郵便 (8)

天女航空 18 円

木戸 裕介

今号は天女航空 18 円の使用例です。この額面は中々難しく、料金としては東アジア、東南アジア宛ですが、琉球からご近所のこの地域にはあまり用事がないらしく、単貼を 1 通集めるだけでも難しいと思います。天女航空で一番最初発行された 13 円、18 円、30 円の額面ではダントツで一番難しく、全ての琉球航空切手の中でも上位 5 位以内にランクインします。私はとりわけ意識して集めていますので、結構豊富に揃っていると思います。ここ 10 年で見かけたものは全て買っています。

図 1 は単貼適正使用例、フィリピン宛です。裏面に着印も確認できます。外信単貼はあとは香港宛を見たことがあります。

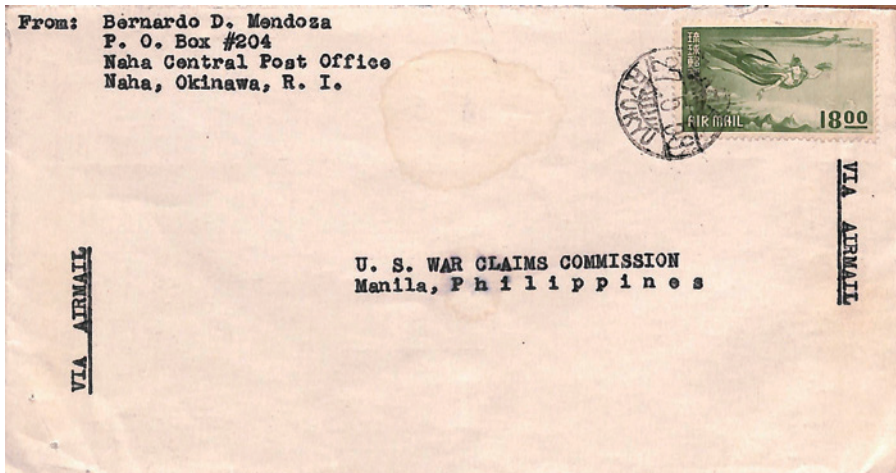


図 1

図2は18円3枚貼書留3倍重量便、同じくフィリピン宛です。越来局の欧文櫛型、書留キラー印が珍しさをより際立たせています。これは琉球切手を集め始めた当初、ヨーロッパのローカルオークションに出たと教えてくださった方のおかげで入札に参加することができました。思い出の MATERIAL です。当初は「あー珍しいだろうな」くらいにしか思っていませんでしたが、その後類似のカバーは現れません。買っておいでよかったです。

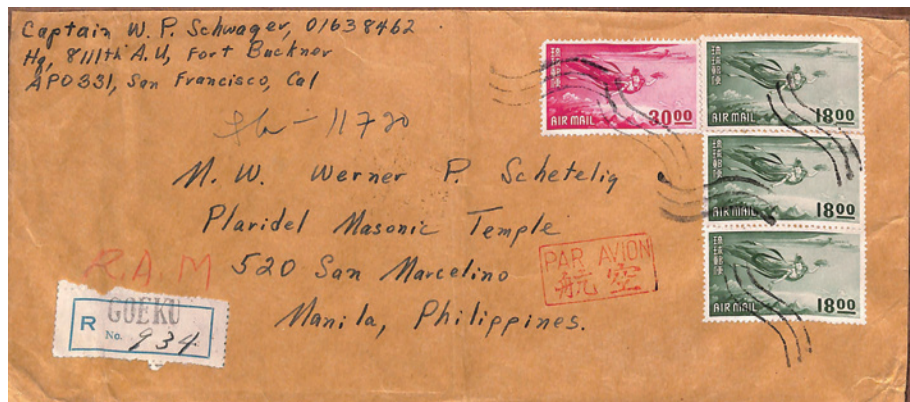


図 2

図3は宛先が APO アドレスなので一瞬どこ宛なのかわかりませんが、18円貼書留航空便で、部隊アドレスを調べると韓国宛です。韓国宛の書留も貴重と思います。



図 3

あとは加貼や多数貼ですね。内国使用例も2例あります。

図4は5枚貼で米国宛2倍重量書留料金(35×2=70+20)に合致する奇跡的な貼り合わせです。無理を言ってプライベートで譲っていただきました。まだ調べてはいないのですが、シェードが異なる2種類が貼っており、3回印刷のうちの第何次かがわかんと思います。18円は3回印刷され、シェード違い(要はスクリーン線数違い)、裏糊等が異なるのです。そろそろこの辺りの未使用、製造面も頑張らなくてはと思うのですが。



図 4

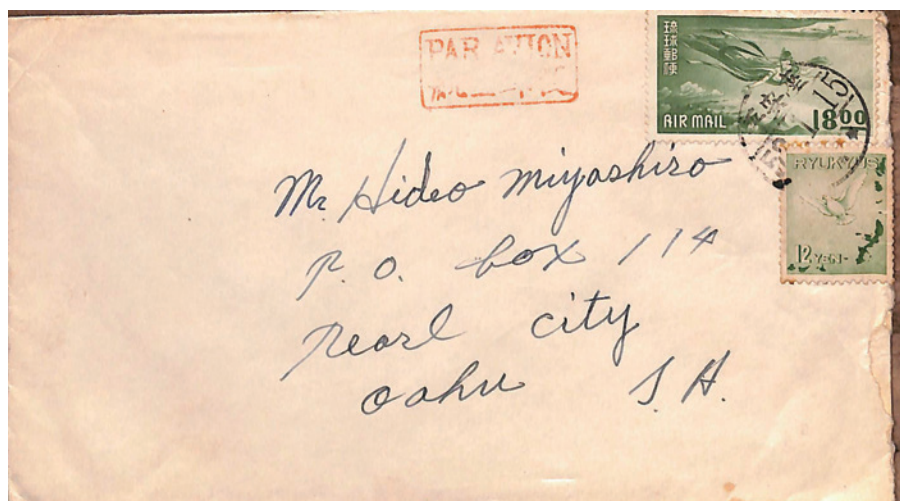


図 5

図5はハト航空 12 円との混貼使用例です。平安座の使用例で、離島使用が自慢です。新旧航空切手の共演で、色が揃っており綺麗です。ハトの頃と色の組み合わせは同じですね。低額から青→緑→赤と。この使用例は合計 30 円にしてハワイ宛として使っています。

図6はこれはよくあるやつです。ダイドーインターナショナルから出た使用例ですが、18 円を 2 枚貼って 36 円。米国宛 35 円料金時代の 1 円過納です。この貼り合わせは何通かもしくは何十通か流通していると思います。料金が合いませんが、基本気の利いたカバーがないのです。

図7は内国使用例です。これはやはり奄美ですが、内国 6 倍重量便。(3×6=18)。この辺りの重さの計算も奄美は真面目にやっていたようです。青鉛筆で 115g と記載があります。航空切手を内国重量便に使うのも珍しいですが、重さをしっかり計算しての 6 倍重量も奇跡的だと思います。

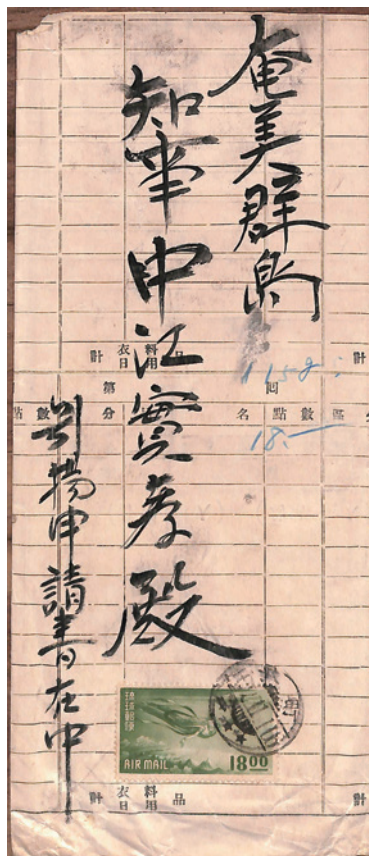


図 7



図 6

図8は、内国でのよくあるやつ。ケンザー商会宛の現金書留。宮古中央消です。10通位はあると思います。たまに流通を見かけます。

解説もそこそこに、8点のカバーを紹介しました。久しぶりに眺めましたが使用例でダブルリーフ2枚は埋まりそうなので、そこそこ見栄えがするとは思いますが、世の中にはまだまだ良いものがありそうなので、引き続き探し回りたいと思います。

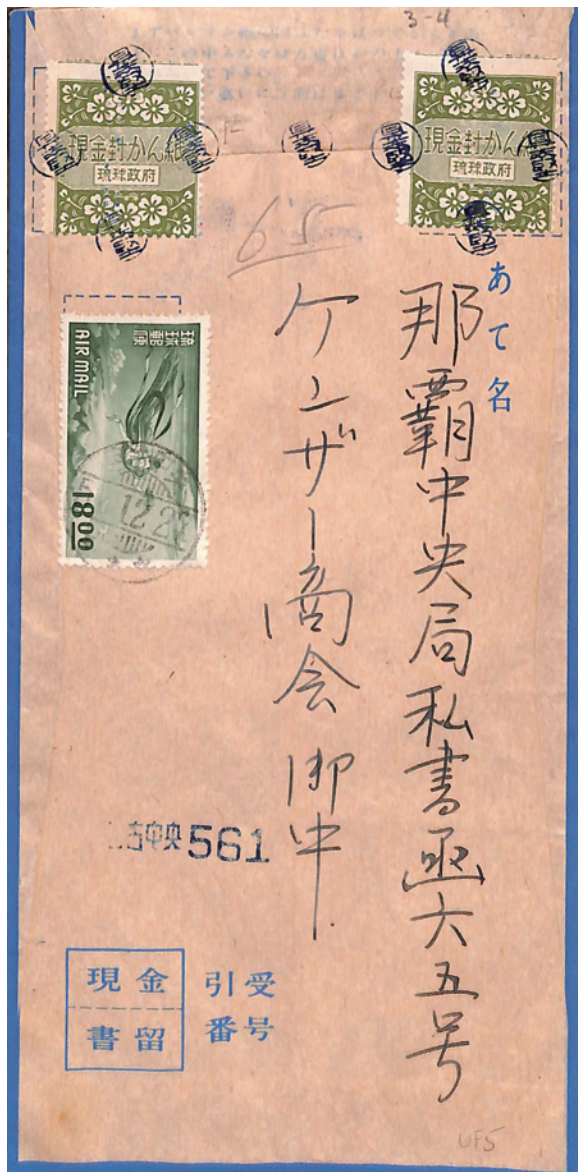


図 8

戦後の欧文櫛型印（11）

4大局の欧文櫛型印：その1…TOKYO

神宝 浩

今回から4回にわたって、外信便取扱量が多く、したがって使用した欧文櫛型印の種類も多い4大局（TOKYO、YOKOHAMA、OSAKA、KOBE）について、その印影をやや詳しく紹介していくこととします。

これらの局の欧文櫛型印については、すでにこれまでの連載の中である程度ご紹介したところではありますが、印影の掲載号が複数にわたっているなど一覧性に欠けるところもありますので、今回あらためて、4大局各局の欧文櫛型印を各局ごとにまとめて紹介します。印影によってはすでに掲載したものを再度掲載する場合がありますので、この点ご了解のほどよろしくお願いいたします。

最初は東京中央局です。戦後の東京中央局の欧文櫛型印をA欄の局名表示についてみると、「TOKYO」綴りのものが使用の中心ですが、そのほかに「TOKIO」綴りのもの、さらにはD欄に「CT」の文字の入ったもの、があります。

下の表は、その東京中央局の戦後の欧文櫛型印をA欄の局名表示に応じて3区分するとともに、C欄の国名表示によってNIPPON印とJAPAN印に分け、さらに材質によって金属印とゴム印に分けてまとめたものです。以下では、TOKYO綴り、TOKIO綴り、D欄CT入り、の順に実際の印影をやや詳しくみていきましょう。

【表】東京中央局 戦後の欧文櫛型印

C 欄	材質	TOKYO 綴り	TOKIO 綴り	D 欄CT 入り
NIPPON	金属印	C 欄 NIPPON 拡張タイプ C 欄 NIPPON 収縮タイプ	前期（1947）、後期（1949）	（なし）
	ゴム印	黒色印 紫色印 緑色印	（なし）	（なし）
JAPAN	金属印	基本的にJセリフなし 例外的にJセリフ付き（1947）	一部に存在（1951）	TOKIO 綴り TOKYO 綴り
	ゴム印	大型黒色印 中型黒色印 中型紫色印	戦後初期（1946, 1947） 紫色・灰味紫色印	（なし）

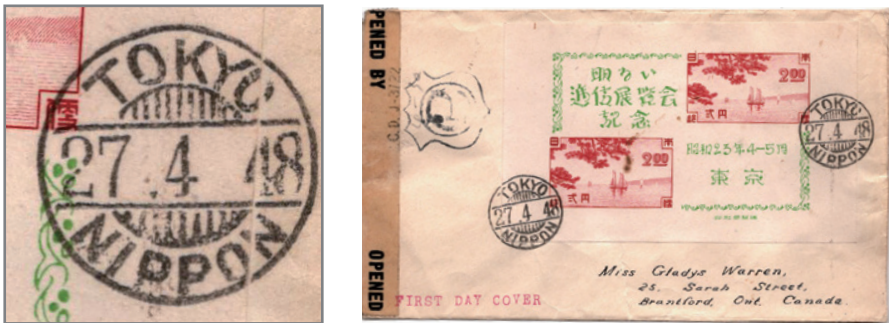
1. 「TOKYO」綴り

(1) C 欄 NIPPON

A 欄「TOKYO」で C 欄 NIPPON の印には金属印とゴム印があり、両方ともよく使われました。使用時期は戦後の外国郵便再開から 1949 年までが基本ですが、一部には 1950 年に入ってからの使用例もあります。

ア. 金属印

C 欄 NIPPON の金属印は、C 欄の NIPPON の文字が C 欄の枠いっぱいに広がっているもの（いわば拡張タイプ）と、枠の中心に集まっているもの（いわば収縮タイプ）の 2 種類があります。図 1 は拡張タイプの例で、FDC として東京通信展記念の小型シートを貼ったカナダ宛船便書状に C 欄 NIPPON 拡張タイプの金属印が押されたものです。



【図 1】 TOKYO 1948.4.27

一方、図 2 は収縮タイプの例で、1948 年 9 月の外信料金値上げ（船便書状 4 → 16 円）後に米国宛船便書状に C 欄 NIPPON 収縮タイプの金属印が押された例です。



【図 2】 TOKYO 1948.11.2

イ. ゴム印

C 欄 NIPPON のゴム印は、印色で分類するのが分かりやすいと思います。A 欄 TOKYO で C 欄 NIPPON のゴム印の印色には、黒色、紫色、さらには緑色があります。

図3は黒色印で、穂高16円切手など51円分の切手を貼った米国宛書留書状で、料金内訳は書状16円+書留35円=51円です。

図4は紫色印の使用例で、米国宛航空書状に紫色の TOKYO / NIPPON のゴム印が丁寧に押されています。新昭和の高額切手とともに農婦2円が6枚貼られています、このカバーは実は農婦2円の初日便となっています。料金内訳は書状16円+重量加算10円+航空135円(45円×3)=161円(1円過貼)です。

図5は緑色印の使用例で、オランダ宛の航空書留書状に TOKYO / NIPPON の緑色のゴム印が使われたものです。筆者の知る限りでは、戦後の欧文櫛型印で緑色印が使われたのは1949年3~4月頃の東京中央局だけで、使用例も少数のためこうした緑色印のエンタィアの収集は簡単ではありません。カバーの料金内訳は、書状16円+書留35円+航空110円=161円(2円過貼)です。



【図3】 TOKYO 1949. 1. 16



【図4】 TOKYO 1948. 11. 20



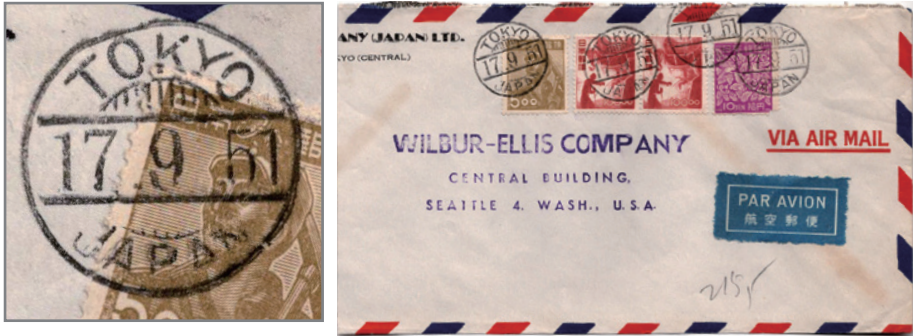
【図5】 TOKYO 1949. 4. 22

(2) C 欄 JAPAN

「TOKYO」綴りの C 欄 JAPAN 印にも金属印とゴム印があり、両方ともよく見かけます。このうち金属印には「J」セリフの注目すべきバラエティがあります。一方ゴム印には、印の大きさや印色の面でタイプ分類が可能です。

ア. 金属印

図6は TOKYO / JAPAN の金属印の代表的な印影で、米国宛航空書状に使われたものです。貼付切手は 215 円で、料金の内訳は書状 24 円 + 重量加算 14 円 + 航空 177 円 (59 円 × 3) = 215 円です。



【図6】 TOKYO 1951.9.17

図7は、京都展小型シートや民間貿易再開4円などを貼った米国宛航空書状で、1947（昭和22）年8月28日に外信航空便が再開された直後のカバーです。ここに押されている印は、C 欄 JAPAN 印であるうえ、「J」の字がいわゆるセリフ付きとなっていて、一般に C 欄 NIPPON 印が使われていた1947年8月の時点でこのような特異な例が存在することは注目に値します。



【図7】 TOKYO 1947.8.29

イ. ゴム印

図8は、直径26mmのやや大型のTOKYO/JAPAN印が、箱根温泉24円単貼の米国宛船便書状に押されたもので、印色は黒です。この印は1951年頃に使用されています。



【図8】 TOKYO 1951.8.18

図9は、同じく印色黒のゴム印ですが、図8よりも一回り小ぶりの印が長崎8円3枚貼の米国宛船便書状に押されたものです。印の直径は24～25mmで、図8の印と比較すると、B欄の年号活字が小さくなっています。この印は1952年頃に使われています。



【図9】 TOKYO 1952.1.9

図10は、大きさは直径24mmと標準サイズですが、印色が紫色のTOKYO/JAPAN印で、これがベルギー宛航空書状に使われたものです。この印の印影はD欄の楕型が大きく目となっているのが特徴で、そのためA欄の「TOKYO」の文字が多少つぶれたような感じになっています。使用時期は、図8や図9の印より一足早く、1950年頃となっています。



【図10】 TOKYO 1950.5.6

2. 「TOKIO」綴り

「TOKIO」綴りの印は、戦前には多く見られましたが、戦後はTOKYO綴りの印が一般的となっていて、TOKIO綴りの印の使用例は、ある程度限られた範囲にとどまっています。

(1) C欄NIPPON

TOKIO綴りのC欄NIPPON印は、金属印のみが知られています。使用時期は、2つの期間に分かれていて、「日本郵便印ハンドブック」（日本郵趣協会、2007、9）によれば「1946年末から1947年1月～3月頃まで」と「1949年10月～12月」とされていますが、前半の1947年に関しては7月頃まで使用例があります。図11は1947年5月の使用例で、料金4円の米国宛船便書状にTOKIO / NIPPONの金属印が押されたものです。

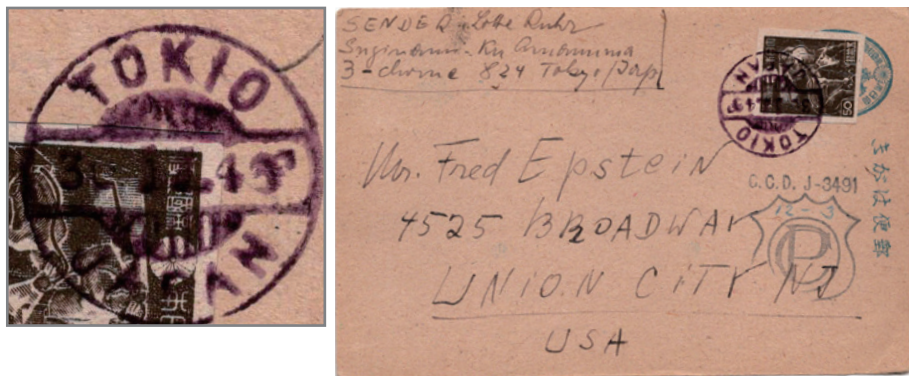


【図11】 TOKIO 1947.5.18

(2) C欄JAPAN

TOKIO綴りのC欄JAPAN印は、ごく一部に金属印の例もありますが、基本的にゴム印です。

図12はそのゴム印の使用例で、米国（ハワイ）宛の料金50銭の船便はがきに対して、紫色のTOKIO / JAPAN印が押されたものです。年号が一見49のようにも見えますが、料金から判断して「46」と考えられます。



【図12】 TOKIO 1946.11.30

こうしたTOKIO / JAPANのゴム印は、戦後の外国郵便再開後初期の1946年から1947年にかけて使用されていて、一般にC欄NIPPON印が使われていた時期にどうしてこのようなC欄JAPAN印が使われたのか、やや不思議な感じがします。

いずれにしても、TOKIO / JAPANのゴム印は、東京中央局の欧文櫛型印の中でも特異な存在と言えるでしょう。

印色は、手元の収集品から判断すると、当初は図12のように紫色だったものが、1947に入ってやや変化し灰味紫色になったように見受けられます。ちなみに、図12-aは、米国宛船便はがき（料金2円）に灰味紫色の印が押された例です。

一方、金属印の方のTOKIO / JAPAN印はなかなか姿を見ることがなく、筆者は未収ですが、印影が行徳国宏氏の「郵便の種類と使用例」（第3巻別冊、1993、3）p118に掲載されています。



【図12-a】 TOKIO
1947.4.24

3. D欄CT入り

東京中央局の戦後の欧文櫛型印には、以上のほかに、D欄に「CT」の文字が入ったタイプがあります。「CT」は Central Telegraph（中央電信局）の略称と思われ、本来は電信業務に使用される印が、郵便業務と電信業務の分離（1949年6月）後に、東京中央局で例外的に郵便業務に使われたのではないかと考えられます。このD欄CT入り印はC欄 JAPAN の金属印が知られているだけで、ゴム印やC欄 NIPPON の印は存在しないようです。A欄の局名表示には「TOKIO」と「TOKYO」の両方があり、「TOKYO」の方が希少です。

図13と図14は、ともに平等院24円ときき航空59円を貼った米国宛航空書状ですが、図13はTOKIO 綴りのD欄CT入り印であるのに対し、図14の方は、TOKYO 綴りのD欄CT入り印の使用例になっています。D欄CT入り印の使用時期は、1950年11～12月にほぼ集中しています。



【図13】 TOKIO / CT 1950.12.7



【図14】 TOKYO / CT 1950.11.15

大型現金書留封筒

行徳 国宏

まえがき—いつから大型封筒になったのか

会報に各種の原稿を長年投稿してきたが、掲載内容に十分に耐えられるような郵便物を見つけ出すのは容易ではない。雑多な郵便物が詰まった箱の中から「予想もしなかった自称「駄物の珍品」」は簡単には見つからない。だから、出かけても空振りばかりでしょ」と言われる。しかし、私は「予想もしなかった自称「駄物の珍品」」に出会いたい、そして「でしょう?」と言って説明してみたいのだ。だから無駄を承知で出かけている。

♪ 無駄は無駄たまに楽しい無駄もある ♪

現金書留封筒を使用した書留郵便というと、収集家の間では、郵便料金は現金書留郵便に同封される現金の多寡に応じて段階的に変わるから適正料金、適正使用がなく、面白味に欠ける。通常書留郵便に比べて、一段も二段も格が低い郵便の種類と受取られ、動植物国宝シリーズ切手の収集家の間では関心が向けられてこなかったし、現に向けられているとは思えない。

ところで、現在、現金書留封筒に定形外サイズのものが存在していて、局で販売されていることをご存知の方は多いと思われるが、現物を見たことがない、利用したことがないという方もまた多いし、全く知らないという方もおありだろう。現行ですよ。

1 大型現金書留封筒の発行

関西、四国方面では、横幅の広い慶弔用「のし袋」を利用していた。現金を同封した「のし袋」を現金書留郵便で送金しようとすると、のし袋のままでは現状の現金書留封筒が小さすぎるため、広幅の様式のものを出して欲しいという要望が出ていたようだ。

そうした要望に応じて、51年1月25日の郵便料金改正後の54年9月10日、これまでの寸法を一段大きくした現金書留封筒が発行されることになった。

新様式の現金書留封筒の発行

「(のし袋)もスッポリ入る新様式の(現金封筒)10日から発売(現金封筒)の様式などが改正され、新様式封筒(図版)が(昭和54年)10日から発売される。現行の現金封筒(横98[㍥]×縦190[㍥])を大型化し、一般からの要望の多い標準サイズの慶弔用のし袋を折らずに封入できる横119[㍥]×縦197[㍥]のものにした。損害要償額も封筒裏面に書き込めるようになった。1枚20円。

なお、11月10日までの間、現行の現金封筒(これは10円)のストック分は売りさばかれる。」(出所:『通信文化新報』54年9月5日号)図1の「のし袋」と現金封筒は同上の『通信文化新報』に掲載されたもので、二度コピー使用したモノクロ図版であり、鮮明度に欠けるがご理解下さい。



図1

昨年 11 月のジャベックス 2021 のあるブースで、各種現行カバー、初日使用カバーが入っている箱に出会った。

郵趣家相互間に発着した各種現行カバーに混じって、54 年 9 月 10 日日付けの大型現金書留封筒が何通もあった。

一眼見て『大型現金書留封筒の初日便だっ!』何通もあるから、どれにするか取り出してみたところ、図 2 を見つけた。長い間調べて入手を試みてきた書留バーコードラベル貼りだ。しかも、本所局引受ときた。

本所局では 54 年 9 月にバーコードラベルを使っていたのか? 56 年ではなかったのか? 買い損なったら大変だ。買ってから調べてみよう。主題の大型現金書留封筒の文を作成して投稿してみたい気持ちになった次第である。

早速、図 2 の説明から始める (本所 54. 9.10.8-12/130b) アルミ箔の書留番号票が先行試用されていた時期 (54 年)、郵務局郵便機械化企画室では、同時に書留郵便物の機械化処理の実用実験を行っていたが、54 年 6 月 25 日から本所局とその周辺 11 局を指定して実用実験を開始した (『丸島報告 No.333 と 494』に詳しい説明がある)。

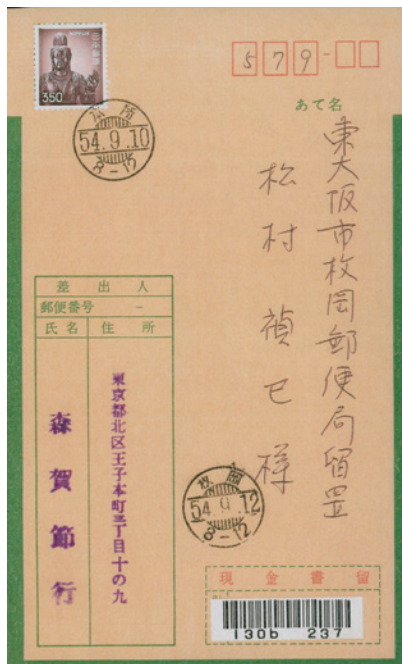


図 2 本所 54.9.10

幸い、54 年 6 月 23 日付の『通信文化新報』に報道資料が写真付きで掲載されていたので、以下に引用する。

「バーコードによる書留通常の機械処理郵便事業では初の試用東京・本所局と周辺 11 局 (無集・特定) では、郵便事業では初めてというバーコード (棒記号) を利用しての書留通常郵便物処理機器の実用実験が 25 日から東京・本所郵便局と集配区内無集配特定郵便局で始められる。

郵政省郵務局郵便機械化企画室では、書留通常郵便物の処理を効率化するための機器類の開発を進めてきたが、同郵便物の引受と送達に際し、1 通 1 通について記録している引受局記号と引受番号をバーコード化することにより、引受から差立までの記録、査数、集計と、照会・事故などの場合の検索作業を機械化する機械・器具類の実用実験機をこのほど完成、実験スタートの段階を迎えた。

1 引受局記号・引受番号のバーコードによる表示本所局と無集配 11 局 (隅田吾妻橋、隅田江東橋、隅田太平町、隅田菊川町、押上駅前、隅田両国三、本所二、隅田横川、隅田緑町、隅田石原、墨田区役所内) で引き受ける書留通常郵便物につき引受局記号・引受番号をこれまでの郵便自動番号器などによる表示に代え、白線の棒 (バー) で表すバーコード・ラベルをその郵便物に貼りつける。(以下略)

(詳しくは筆者著『現行切手第 2 巻』末 07 ページを参照されたい)。

ここでバーコードラベルの記号について説明する。

ラベル記号 130b は手動式ラベル貼付け器を使用したもの。ラベル幅には 8 ミリと 12 ミリとがあり、図 2 は 8 ミリの方ということが分かった (『丸島報告』56 年 5 月 30 日付け No.494)。図 2 を差し出された先輩、記号、番号を調べて発表された先輩諸氏に感謝しなければならない。お付き合いがあった両大先輩のお名前とお顔が浮かび懐かしい。



その後、大型現金書留封筒は以下のように改正された。以下、清水敏之氏『価格表記封筒 / 現金封筒』(株) 鳴美、平成 22 年 10 月 10 日発行を参照する。

- (1) 56 年 1 月 20 日の郵便料金改正時に発行。
この時の現金書留の要償限度額は 10 万円から 20 万円に改められた。
- (2) 58 年 11 月 1 日、様式、説明文の一部が改正された (図 3)。
 - ① 表面の差出人枠の住所と氏名の仕切線が『実線一』から波線『…』に変わった。
 - ② 裏面の『使用上のご注意』が縦書きから横書きになった。
 - ③ 付箋の (丁) 票の「摘要」が左から右寄りにかわった。
- (3) 61 年 7 月 1 日、様式を大幅に改正し、裏面貼付用の付票を表面に貼付するようにした (図 4)。

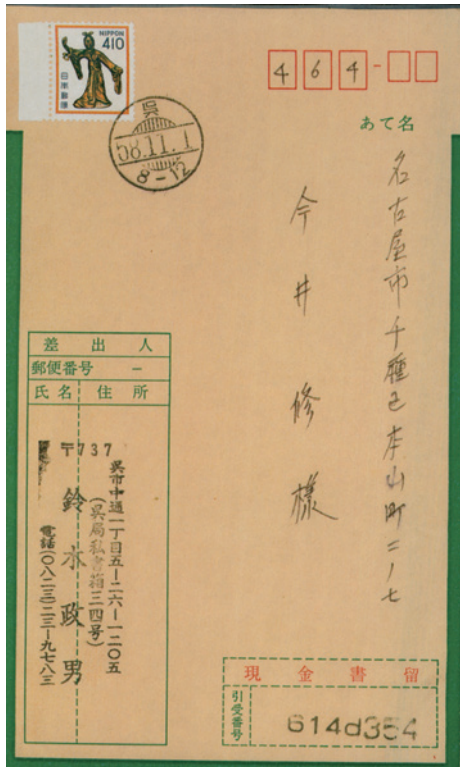


図 3 呉 58.11.1



図 4 大阪中央 61.7.1

2 定形外現金書留封筒の発売

「お祝いにも便利な定形外の現金封筒を発行中型の水引きのし袋も収納できる、定形外の現金封筒が平成7年12月15日(金)に発売された。」現金書留封筒史上初めての定形外現金書留封筒の発行である。「この大型現金封筒は、角形7号の縦を若干大きくしたサイズ(横142⁵/₈ x 縦197⁵/₈)で、従来の角形8号の現金封筒(横119⁵/₈ x 縦197⁵/₈)を一回り大きくしたものだ。中型の水引付きのし袋のほか、のし袋を数枚一緒に同封できるようにになっている。定価は従来と同様20円だが、サイズが定形外のため基本料金が違ってくる。また表面の現金書留票自体の様式は従来と変わらないが、切手貼付欄には(横書きで)「定形外郵便料金となります」の注記が入っている。」

(『郵趣』1996年1月、11ページから引用。)

国内切手展や即売会、東京の「切手市場」に出かけた時には、雑物混在の箱や使用済み現金書留封筒を納めたダンボールなどがあれば、発見のチャンスがあるかもしれないと、定形外現金書留封筒を物色してきた。しかし、努力虚しく1通も見つからなかった。そんな折り、ある店で図5を見つけた。

図5は店頭にあった初日使用例である(平成7年12月15日)。定形外現金書留封筒(図5)が手に入ったことから、本文の後半ができ上がった。本誌(紙版)A4版は図5を実寸で掲載できるスペースがあるので、図5がどれ程大型かが分かるよう掲載してみた。

以下、定形外現金書留封筒の歴史を辿ってみる。

定形外現金書留封筒が発行された時は、郵便番号は5桁であった。図5の日付け以降の使用例、例えば郵便便であっても、手に入れたいと探してきた。「切手市場」のブースでは、現行ものですよ、作り物ばかりですよという返事が帰ってくるだろうことを承知で探してきたが、全く見つからなかった。それならば、郵趣家相互間で差し出すしか方法はなさそうと、少数ではあるが、交換差し出したし、郷里へ送金する機会がある時は、必ず定形外現金書留郵便を利用してきた。こうして現物は少数残すことができた。

図6は印字90円切手6枚貼、540円料金の使用例。印字切手の使用盛んな時に交換差出したもので、540円の内訳は定形外120円+書留料420円(1万円まで)。当時の郵便番号は5桁であり、郵便番号のことは予想していなかった。

平成10年2月2日、郵便番号7桁制が開始された。そして、5桁枠の郵便番号枠を7桁に改めた現金書留封筒が一早い1月5日に発行された。その結果、郵便番号5桁の定形外現金書留封筒の使用期間は2年と1ヶ月ほどになった。この短期間の一般郵便使用がどれだけあるだろうか。図7は郵便番号7桁になった平成17年の使用。



左) 図6 山梨清哲 9.12.25
右) 図7 鴻巣人形町 17.5.6

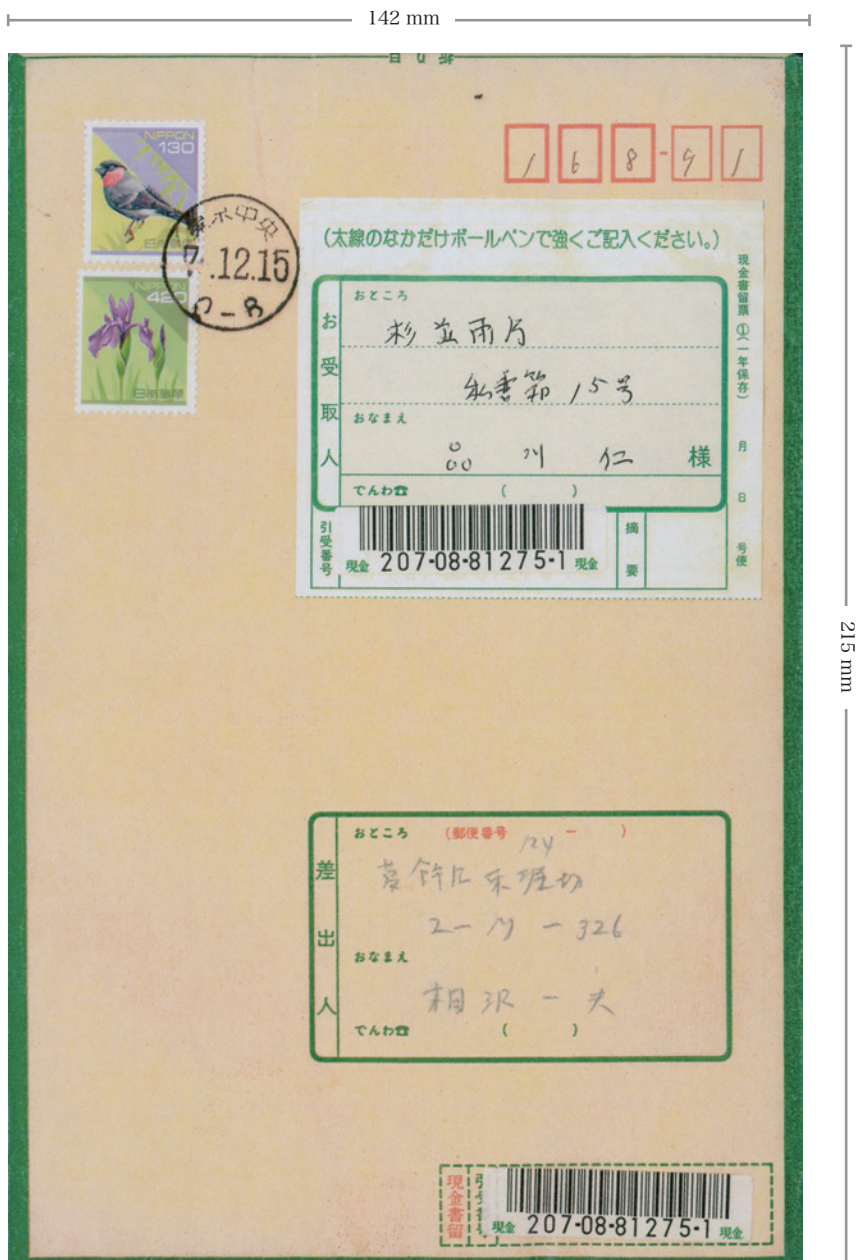


図5 東京中央 7.12.15

郵便番号7桁の定形外現金封筒が発売されてから早いもので、平成末までに20年が過ぎた。この間、封筒の表裏の表示文が若干変更されたことが、清水敏之氏の『価格表記封筒 / 現金封筒』に解説されている。

- (1) 発行時：「従来のものは売捌きを中止した」(74 ページ)
- (2) 12 年 8 月 1 日：「省庁再編に伴って郵政省は総務省の下に置かれて郵政事業庁となったので〔郵政省〕の表示は〔郵便局〕となった (75 ページ)。
- (3) (発行日不明だが、18 年 10 月同封) 付票 14 の住所欄に英文が入った。
- (4) (発行日不明) 現金書留付票片が「七年保存」から「一年保存」へ。

3 今現行の定形外現金書留封筒

郵便番号7桁が施行されて現在に至るが、令和3年8月、実家のお盆に少しばかり送金することにした。現金書留封筒を求めたところ、図8の濃い茶封筒を見せられた。一瞬、戦後間もない頃の茶封筒を思い出した。実際には見栄えに関わらず腰の強い紙質であることが分かった。窓口局員の説明では、7月に在庫がなくなり、鴻巣本局に注文したところ図8が配布されたという。完封は10枚。帯封に「2021年5月製造」(図9)とあるから、図8は初期使用と言えるだろう。



図8 鴻巣人形町 令和3.8.12

令和3年9月から速達料金が290円から260円に値下げになることになり、260円切手が8月1日に発行されたばかりであった。そこで、290円と260円切手を混ぜ貼り使用で差出した(図8)。

現行の郵便料金は定形外120円+書留料(1万円まで)435円=555円。新旧速達料金用切手を組合せると、290円+260円+5円切手でピッタリ555円。速達料金用切手を書留郵便に使ったのでは、発行目的通りの使用例にならないという異見が出るだろうことは承知の上。そこで、290円と260円切切手の速達郵便ではなく、書留郵便使用の方を差し出してみた。両切手の組合せ使用期間は8月中の1ヶ月間になる。

現行切手は卒業したつもりでいたが、目の前に今現行があると、黙っておれない持病を発症させてしまった。

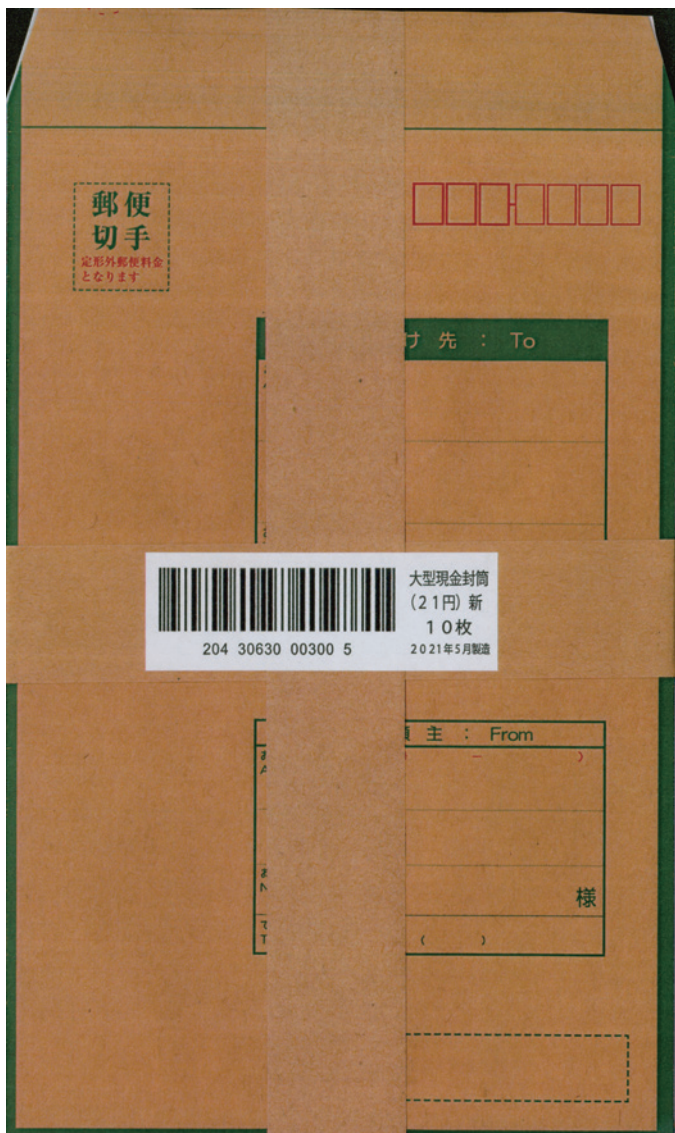


図9

FUJICOLOR POST CARD 昭和 64 年用年賀はがき

石田 徹

FUJICOLOR POST CARD 年賀葉書についての既存報告

富士フィルムのはがき印刷サービスは、各個人の写真で年賀状・ポストカードをつくるサービスだが、通常では土台となる官製はがきは特別なものではない。しかし、昭和 64 年用年賀はがき 40 円には、「FUJICOLOR POST CARD」という商品名を印面やクジの地模様などと同時印刷したものがあり、はがき 200 枚の官封には「(委) フジカラー」と印刷され、トキワ印刷所 1988 年 8 月 26 日の封印がされた B1652 組の包装紙と、B1654 組のはがきが報告されている¹⁾。

続いて B1648 組から B1654 組までの間の 5 組までが「FUJICOLOR POST CARD」の商品名付きで印刷されたとみられ、1 組あたりの枚数は 100 万枚なので、総枚数は 500 万枚となり、これらの組以外で商品名が入ったものは富士フィルム側で加刷したものと同社は説明していると報告された。

合わせて昭和 64 年用年賀はがき 40 円全体は丸島一廣氏の調査により、下記の印刷所で印刷されたことも報告されており、この FUJICOLOR POST CARD 年賀葉書はトキワ印刷製ではないかとされた²⁾。

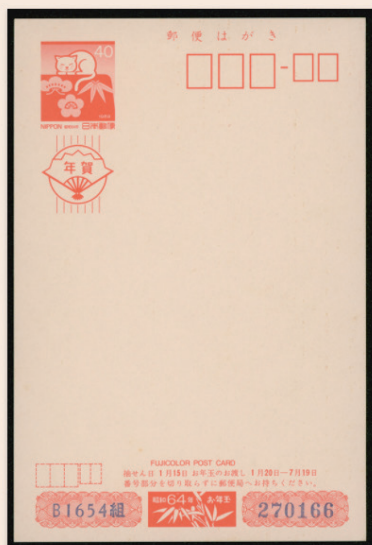
組	印刷企業等	備考
B0001 - 0380 組	大蔵省印刷局	
B0381 - 1340 組	凸版印刷・大阪	
B1341 - 1647 組	凸版印刷・九州	
B1648 - 2400 組	トキワ印刷	
B2401 - 2841 組	大日本印刷	
B2815 - 3138 組	共同印刷	
B3139 - 3215 組	凸版印刷	4 面連刷
B3216 - 3330 組	トキワ印刷	4 面連刷

ちなみに昭和 64 年用年賀葉書全体の発行枚数は、31.38 億枚、4 面連刷 1.92 億枚とされる。

最近のオークションにも FUJICOLOR POST CARD 年賀葉書が B1654 組でトキワ印刷製の組番号と同じものがあったが、オークション誌の記述によるとこちらは裏面白紙であったという³⁾。そうであればプリントが貼付されずに出現している事は注目に値する。

というのは FUJICOLOR POST CARD は、裏面にプリント貼付した上で、葉書四辺を裁断仕上するため、縦横の幅が各 3mm 程度小さくなるため、この裏面白紙の年賀葉書は通常の年賀葉書のサイズ (148×100mm) であった可能性がある。さらに続いて別のオークションにも同じく B1654 組の FUJICOLOR POST CARD 年賀葉書が出品された⁴⁾ので、入手された方は情報提供願いたい。

また、B1334 組で、凸版印刷・大阪の例もあるが、上記の報告からか富士フィルム社大阪が購入して FUJICOLOR POST CARD を自社で印刷したのであろうとされている⁵⁾。



16回 ロット 465

最低値: 5,000 円
落札値: 5,000 円

カタログ番号: JPS NC75

[ステーショナリー] 1988 昭和64年用年賀40円葉書 「FUJI COLOR POST CARD」版 (くじ上部に表示) トキワ印刷所製・富士フィルム社一括納入分、裏面も白の完全な未使用
カテゴリ: 年賀葉書

ダウンロード: [画像1] [画像2] NEW!!

Lot.465 のオンライン下見
=>こちらの下見会場で、どうぞ!

2 枚の高解像度画像をルーペで拡大してご覧いただけます



390 年は83 昭和64年用・年賀葉書40円 (FUJICOLOR POST CARD) 銘付 未使用 (ref.郵便 1989.10 月号)・・・ 3,000

(落札値 6,200 円)

最近のオークションにおける FUJICOLOR POST CARD 年賀葉書の出品例
上: スタンペディアオークション第16回セール Lot.465 (2021/1/9)
下: タカハシスタンプオークション第664回セール Lot.390 (2022/1/16)

FUJICOLOR POST CARD 年賀葉書はトキワ印刷製のみか

しかし、筆者も当時受け取った年賀はがきの中に、この FUJICOLOR POST CARD 年賀葉書を見つけており、フジフィルム勤務の知人に詳細を尋ねたところ、B0056 組と B0060 組の未使用を頒けていただくことができた。

この組番号は上記によれば、大蔵省印刷局製であることを示している。裏面のプリントは B0056 組がゼンマイに「新年のご挨拶を申し上げます / 一九八九年元旦」縦書、B0060 組が梅に同文横書きであり、図と挨拶文のみが添えられており、住所氏名の無いことから、富士フィルム社内でテスト的に作られたものではないかと感じている fig.1, fig.2. この辺り詳細も解明できればと思う。



fig.1 B0056 組大蔵省印刷局製、裏面ゼンマイ、差出人住所氏名なし



fig.2 B0060 組大蔵省印刷局製、裏面ウメ、差出人住所氏名なし

ほかに使用済では、B2808 組と B2809 組を確認しており、こちらは大日本印刷製ということになる fig.3。これら FUJICOLOR POST CARD 年賀葉書の裏面のプリントは葉書より大きめに仕上げて貼付けた上で、葉書四辺を裁断仕上するため、通常の年賀はがきよりも縦横の幅が各 3mm 程度小さくなっている。



fig.3 B2808 組と B2809 組大日本印刷製

FUJICOLOR POST CARD 年賀葉書の背景と課題

年代を遡れば 1980 年代、年賀はがきが郵便局で早々に完売する一方、裏面に絵柄を印刷した年賀はがきが文具店、コンビニで上乘せ料金で発売されるようになり、これを好まなかった郵政省は「絵入り年賀はがき」を昭和 58 年に発売したが、多様な裏面印刷を自前で提供できない事を理解し、大口印刷顧客の便儀を計るため印刷に使いやすい 4 面連刷の葉書を昭和 63 年に発売した経緯があった⁶。

さらに法的にも、昭和 63 年には郵便規則第 16 条の「郵便葉書に添付できる物の範囲の制限」が改正され、葉書に薄い紙又はこれに類する物を添付し、全体の重量が 2 g 以上 6 g 以内で、容易にはがれないように全面を密着させれば、郵便葉書として差し出すことが出来るよう改正され、同年 4 月 1 日から施行された^{7 8}。

その上で、昭和 64 年用にはフジカラーポストカードの販売戦略に合わせて、FUJICOLOR POST CARD の商品名印刷を大量に受注した事が解る。

なお、「丸島報告」に「調布管内 1 番の利用会社フジカラー（写真貼付年賀葉書作成中）に度々補充され、B0001 組 4000 枚を確認した」⁹とあるが、ここでは FUJICOLOR POST CARD 年賀葉書には触れられていない事からも、B0001 - 0380 組の大蔵省印刷局製が全て FUJICOLOR POST CARD の商品名印刷をされた訳では無いように思われる。ここで、「1 番の利用会社フジカラー」というのは、調布にあった「富士カラー現像所」のことで、年末に全国からの写真付き葉書を作成しており、年賀葉書の裏面に申込者からの写真を引き伸ばし、賀詞や住所、氏名を加えたプリントを糊付けしていたもので、大量の葉書を郵政から調達しており、他の年賀はがきと区別できるように、富士カラー注文の葉書を別刷にしたと思われ、現像所にはこの葉書がトラックで運ばれてきたとの事である。

以上の様に大量に印刷されたはずの FUJICOLOR POST CARD 年賀葉書だが、なかなか現物を

見ないのは、郵便局で一般販売されたものでもなく、あまりにも関心が低く知られていなかった事に加えて、当時は以前より昭和天皇(昭和64年1月7日没)の病状悪化による賀詞交歓を控えるムードが広がり、平成1年1月10日には、「寒中見舞はがき」までが発行されるといった当時の状況も幾らか影響を与えているのかも知れない。

今回掲げた図に見るように、この大蔵省印刷局製や大日本印刷製とされる FUJICOLOR POST CARD も、同時印刷の様であり加刷には見えない、また筆者は加刷されたものを実見していない。

トキワ印刷製以外にも、大蔵省印刷局製や大日本印刷製、あるいは凸版印刷・大阪製のものも存在しているのではないだろうか。この FUJICOLOR POST CARD 年賀葉書をお持ちの方は情報提供いただければ幸いである。

- * 1 89年の年賀はがきに「フジカラー版」(郵趣1989年10月号所収)
印面と同時に印刷された? 富士フィルムの商品名 阿部洋一(日本フィラテリー1989年10月号所収)
- * 2 トキワ印刷所製「フジカラーポストカード」印刷数は500万枚か
編集部(日本フィラテリー1989年11月号所収)
- * 3 スタンペディアオークション第16回 2021年1月
- * 4 タカハシスタンプオークション第664回 2022年1月
- * 5 お年玉付き年賀葉書を集める 行徳国宏著 2009.1
- * 6 年賀郵便の歴史 吉田敬 Stampedia 2016.1
- * 7 郵便実務六法 東京法令出版 加除式
- * 8 戦後の郵政資料第5巻 行徳国宏著 2008.3
- * 9 丸島報告 No.907 (平成11.1.20) (「丸島報告」復刻、鳴美スタンプ商会、平成3年刊所収)

スタンペックスジャパン 2022

STAMP EXHIBITION

STAMPEX
JAPAN
2022

全国切手展 3/26(土)~3/28(月)

主催:(特非)郵趣振興協会/(公財)通信文化協会(郵政博物館)

協賛:スタンペディアプロジェクト

後援:カルトールセキュリティプリンティング社、切手市場、

(一社)全日本郵趣連合、(公財)日本郵趣協会(50音順)

NATIONAL PHILATELIC EXHIBITION
AT THE POSTAL MUSEUM JAPAN TOKYO SKYTREE TOWN SORAMACHI

競馬場で切手展？

ちょうど5年前の今頃、アジア展としては別格に Well-organized な国際切手展が、豪州メルボルンで開催されました (2017.3.30-4.2)

「会場が競馬場？」「パルマレスは水族館？」到着するまでは一体どんな展覧会になるのやら・・・と心配していましたが、オーストラリアでは競馬は紳士の嗜み、水族館でのパルマレスは着席のコース料理と洒落のきいたものでした。

そうそう、永井さんが Private Printing Period in Victoria 1850-1859 でナショナル・グランプリに輝いたのもこの切手展でした。あの晩は日本人で異国に集まり楽しく過ごしたのはよい思い出です。

コロナに加えて戦争が始まり、世界情勢は混沌としており、切手展どころではない地域もあるでしょう。この様な中で5年前と同じ場所でアジア展が開催されることになりました。開催までは色々な問題も生じると思いますが、素晴らしい展覧会になることを期待しています。本展覧会へのご出品を希望される方は、本誌 P.14-15 をよくお読みの上、お申し込みください。

メルボルン 2022 日本コミッショナー 吉田 敬



会場となるメルボルン Caulfield 競馬場



2017年に出品者に与えられたメダル



グランプリに輝く永井さん



ウォンバットのぬいぐるみ



水族館で開催されたコース料理のパルマレス クセアリの展示フレーム



おことわり 3/15 午後、Melbourne2022 実行委員会は、本展覧会の開催を 2024 年 3-4 月まで延期することを発表しました。詳細は郵趣振興協会 HP で発表するほか、次号以降でお知らせいたします。

日本切手による郵便史収集視（私）点

―第4種郵便を題材にして―

行徳 国宏

郵便物は大きく2つに分けて視ることを、私の収集視点として提案してみたい。

すなわち、郵便内容物は書状（信書）と書状以外の、例えば官公署や会社商店などが差し出す印刷物等とに分けて収集する視点のことを述べてみたい。

1 郵便物に同封される郵便内容品にはどんなものがあるか

郵便創業以来、郵便物は、書状（信書）を取扱うものとして郵便料金が定められた。その後、郵便葉書が利用されるようになった。郵便物の中心は書状と葉書となった。

明治16年1月1日、郵便条例が制定され、郵便物は4種類に分けられ、それぞれ取扱方法、郵送する内容品が規定された。

第1種郵便は、書状で封緘したもの、他の3種類の郵便物でそれぞれの規定に違反したものを含めたものとした。第2種郵便は郵便葉書、第3種郵便は「毎月1回以上発行する定時印刷物及びその付録」、そして第4種郵便は「書籍、帳簿、各種の印刷物、写真、書画、罫紙、営業品の見本及び雛形」を取り扱う郵便とした。

上記4種類の郵便物を、私は郵趣家の目線、収集方法から大きく2つに分けられると考え、視（私）点を述べて、大方のご意見を拝聴したい。

第1種郵便は、同封される内容品が差出人個人の信書（私的通信文）であろうと、その他の郵便内容品であろうと、他人に公開したくないことを理由に「封緘」する限り、通信の内容の秘密保持ができる第1種郵便とした。そして4種類の郵便物の中で最も高い郵便料金が設定された。

第2種郵便葉書は、個人の通信内容を裏面に公開する代わりに、郵便料金を第1種郵便の半額と定めた。いずれも個人の通信文を取り扱う郵便物として、また全郵便物の中心的存在として、郵政省では「高等信」と呼んだ。

これに対して、第3種と第4種郵便は、同封される内容が主として、「それぞれの種類の性質によって、社会的、文化的、経済的な面から、国民文化の普及・向上に寄与できるとして」、郵便料金を政策的に第1種郵便料金よりも低廉に定めた。この第3種と第4種郵便、その後創設された第5種農産物種子を引くくめて郵政では「三種郵便」と呼んだ。

こうして規定された4種類の郵便物に対して、各種郵便料金額の郵便切手が発行された。郵便切手の額面の中心は、第1種と第2種用であって、郵便料金が改正された時はこの2種用の額面切手は新しい図案と額面とで発行されてきた。

収集家は、各額面切手の使用例を、郵便料金別・郵便の種類別で、また同時代の日付印（消印）で収集してきた。また、同時代の切手の印刷技術、印刷水準、紙質を調査研究して切手の製造面を未使用切手で収集・展示することになった。

こうして、切手の使用面、日付印及び製造面を総合したコレクション全体が完成した。切手の全ての収集と研究調査結果は、先輩収集家によって文献や専門カタログで上梓された。現在収集中の収集家やこれからの収集家にとっては、専門カタログがあるため、各額面切手ごとにどのように収集したら作品として完成できるか、そのために手に入れるべきマテリアルもカタログに説明があり、

求めたい珍品・希少品も開示されていて、相場はどれくらいかなど、参考にできる。また作品集も出版されていて、参考書は揃っている。シリーズ切手の作品は、切手展の作品部門では「伝統郵趣」に含められている。

2 郵便物に同封される郵便内容物の視方

伝統郵趣手法による収集視点を文頭の視（私）点から言えば、郵便物はそれに同封された内容物の種類が何であれ、全て「信書郵便物」として取り扱われ、最も高い郵便料金が課された。もちろん、額面切手の中には郵便の種類に即して発行された額面切手もあり、その使用例を示すために「郵便内容物」を表示した郵便物も含めることも必要になっているが、「郵便内容物」そのものに言及しているものではない。

他方、郵便物に同封された内容品が信書以外のものとなると、官公署や会社が発行する各種の印刷物（第3種と第4種郵便）の他、農産物種子（第5種郵便）がある。内容品を収集対象として作成された作品では「第3種郵便」がまず思い浮かぶ。

過去にも作品がいくつか発表展示された。しかし、内容品が印刷物であるとして出品されているが、内容は郵便料金が低料額面の5厘や1銭切手貼りの使用例の作品であり、シリーズ切手別・発行順に1枚貼で作品が展開された。収集部門でいえば、シリーズ別・額面切手別と受け取られ、郵便史作品というよりもむしろ伝統郵便と捉えられている。

次に郵便物に同封された内容品が多方面に亘るものに第4種郵便がある。第4種郵便に同封できる内容品は郵便規則に明定されていて、一品一品掲載するとかかなり複雑になるが、官公署や会社が差し出す各種の印刷物の他、書画、短冊、商品見本の印刷物、商品見本そのもの、写真、書籍、雑誌など広範囲に亘っている。こうした内容品は社会、文化、経済の発展に寄与するものとして、郵政では郵便料金を政策的に書状（信書）よりも低料金に設定した。

この内容品を収集の目線にしてどのように利用拡大してきたかを郵便物で収集してみると、郵便史作品に展開できると考えた。先輩収集家は、第4種郵便を郵便史収集の対象として収集しなかった。理由は明快である。まず第一に、第4種郵便の郵便料金と関連額面切手のことを考えたであろう。

明治16年1月1日に郵便条例で制定された第4種郵便の郵便料金は2銭で、この金は昭和12年4月1日の郵便料金改正まで約50年強の間、同額で続いた。この期間中、各図案のシリーズ2銭切手が次々に発行された。長期間同じ料金というのは、収集する上で各シリーズの2銭切手貼りの使用例が延々と続くのはつまらないというのが収集家の心情であったようだ。

第二に、第4種郵便に同封される内容品が内容品だけあって、封筒が大きい、茶封筒使用が目立つ、作品にしたら見た目が良いはずはない。第三に、特殊取扱された郵便物をほとんど見かけない。従って、ガラクタの「集大成・寄せ集め」エンタイアであって、作品に仕上げるのが難しい。例え、作品に仕上げるのができたとしても、恥をかくのではないか。こうした先入観が第4種郵便の収集を思い留まらせてきた。

しかし、郵便内容品が何であれ、郵便の歴史がある郵便物であるから収集の対象になるし、郵便史作品にできるという要素はある。具体的な事例を出して説明した方がわかりやすいと思うので、菊2銭切手を例に挙げてみよう。

3 菊2銭切手の発行目的・額面通り、郵便料金通りの使用例

菊2銭切手をどう集めるか、集めるとしたらどんな手法、目線が必要か。菊2銭切手を発行当初の使用期間を含む郵便料金と郵便の種類とで集める方法は今も主流になっている。

菊2銭切手は明治32年1月1日、第1種書状料金用として発行された。この時の第1種書状料金は2匁ごと2銭であった。同年4月1日、郵便料金が改正され、第1種書状料金は4匁ごと3銭となった。当該切手が第1種書状料金用として適正使用された期間は1月1日から3月31日までの3ヶ月間となった。菊2銭切手を収集する時、この3ヶ月間の使用例は、発行目的通りの初期使用、短期間使用、そして何よりもこの切手の代表的な、無くてはならない存在になっている。

菊2銭切手の発行初期の1枚貼使用例は他にも存在する。その発行当初の第4種郵便の料金は2銭であった。収集家が敬遠するのは、第4種郵便料金はその後昭和12年3月まで2銭だから、菊2銭切手の使用例はインパクトに欠けるのである。

菊切手を5フレーム作品に仕上げる場合、菊2銭切手は4リーフは作成しなければならない。郵便料金通りの使用例には、第4種印刷物と第1種無封郵便がある。確かに郵便料金通りであるが、どちらも多く残されていて、当該シリーズ切手の収集家にとっては駄物エンタィアである。レベルの高い作品にするのに含めるかどうか一考しなければならないだろう。

発行目的通りの使用例が見つからないとすると、その他の郵便の種類への1枚貼と混ぜ貼りしたものか、2枚以上の複数枚使用されたもの、国内郵便使用では書留郵便、配達証明郵便など特殊取扱い郵便への額面切手の複数貼りが混ぜ貼り、また外国郵便への複数貼りが混ぜ貼り使用を収集対象にしなければ、4リーフを構成することはできない。こうしたありふれた使用例を避けるためには、消印で特色、見栄えを発揮しなければならない。国内の郵便印では珍しい、希少な局の日付印、外国郵便への欧文印でも Tokyo や Osaka といった主要局の消印ではなく、地方都市の欧文印使用のもので希少性を高めなければならない。

ともあれ、該当額面切手の郵便料金、郵便期間と日付印については、専門カタログや文献に発表され、同じシリーズ切手を収集した展示作品も発表されているから、情報は十分揃っている。あとは、個人的にどんな情報を持っているか、どれだけ資金投下できるかにかかってくる。

4 同封内容品と使用期間とから見た菊2銭切手貼りエンタィア

では、菊2銭切手を、郵便内容品の名称が表示された郵便物によって収集する目線はどこに置いているのか、私見を図版を使って説明してみる。

第4種郵便物で取扱われる郵便内容品については、郵便規則に明定されている。明治33年10月1日施行の郵便法（法律第54号）では、第4種は「書籍、印刷物、業務用書類、写真、書、画、商品見本及雛形、博物学上の標本」とある。

第4種郵便に同封される内容品の全種類を集めると、リーフ数が増えすぎるので、内容品そのものが同封されているもの、或いは内容品は同封されていないがその名称が封筒の表面に表記されているものかを選びながら、同封内容品の種類を異にするものを選んでみた。図版に使用する郵便物を日付印の順番で開示してみる。

4.1 丸一型日付印

図1は、内国通運株式会社新橋支店差出で、丸一型鉄道郵便印（東京神戸間廿六年六月廿八日/下り四便）で引き受けられたもの。郵便の種類が表記されていないが、この時期の2銭料金は第4種郵便しかない。なぜ「第4種」のゴム印が押捺されていないか不思議に思われるだろう。

引受局の窓口では、2銭料金の封筒だから当然第4種郵便だと判断して「第4種」のゴム印を敢えて押捺しなかったのかのではないか。第4種のゴム印が押捺されたものを少しずつ見かけるようになるのは、私の収集体験からであるが、およそ明治43～44年頃からである。

明治40年4月1日、第1種無封郵便が第4種郵便と同一料金の郵便の種類として利用され始めたため、当局では郵便の種類別を区別する必要から「第4種」のゴム印を押捺するようになったと判断できよう。

逆に見ると、明治40年以前引受の菊2銭切手貼付の郵便物に「第4種」と手書きしたものが約20通に1通くらい存在しているが、これは差出人が宛先住所を記載する時に種別を手書きしたものである。

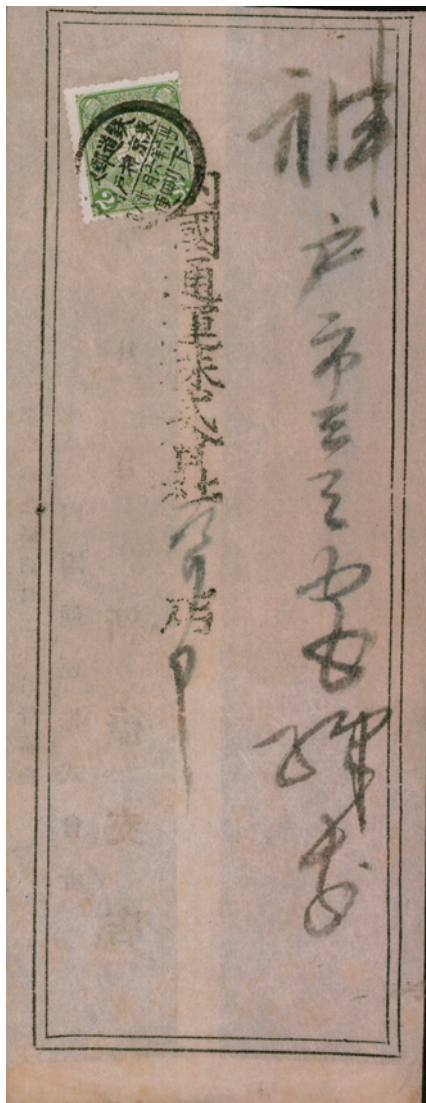


図1 東京神戸間 36.6.28/下り四便

4.2 丸二型日付印

丸二型日付印が菊2銭切手貼り郵便物に押捺されたものは多く存在しているので、作品に使用するにはひと工夫が必要になるろう。

丸二型日付印を使用した局の中で、東京局と大阪局には「中央」を冠した使用時期が存在していたことはご存知のところであろう。「東京／中央」と「大阪／中央」の日付印は、明治36年4月1日から同年12月5日まで使用された。(山崎 好是氏編『郵便消印百科事典』中、13 丸二型日付印、271ページ。)

図2は「東京／中央 36-6-30 后 2.20」引受の下野上三川宛で、すでに所蔵していたもの。図3は大阪／中央 36-4-18 前 11.50」引受の滋賀県彦根宛。昨年10月の「切手市場」のブースで、雑物入り箱の中から見つけ出したもの。買値を述べる程のものではない。2局が同時に揃えられたのはラッキー。どちらも種別表示はないが、第1種無封郵便はまだ実施されていない時代のものである。図3と図4（後述）を作品リーフに並べるつもりでいる。

図4は菊1銭切手2枚貼で「東京／中央 36-11-2 前 9.40」。これには「営業品見本」の楕円形のゴム印が押されている。中に商品見本の印刷物が同封されている。図4はすでに所蔵していたが、作品と私家本には使っていなかった。「中央」入りの図3と図4は、丸二型日付印の使用開始月と11月の後期使用例として第4種郵便の作品に加えることにしている。

第4種郵便を見つけ出す場合、表面に内容品の名称が表記されているものの他、内容印刷物そのものが残ったままになっているものも散見されるので、内容品が残っているかどうかをチェックしてみるのも、収集の秘訣にあらう。また、第4種郵便を収集する場合、郵便料金として使用される額面切手の1枚貼にこだわる必要はない。混ぜ貼りであっても、料金が一致していればよいのだ。額面切手の使用例を集めているわけではないから。

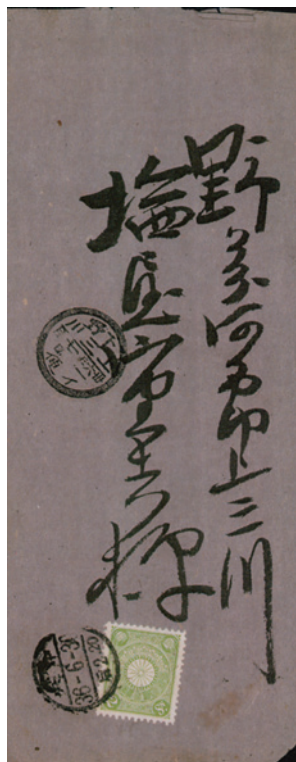


図2 東京中央 36.6.30

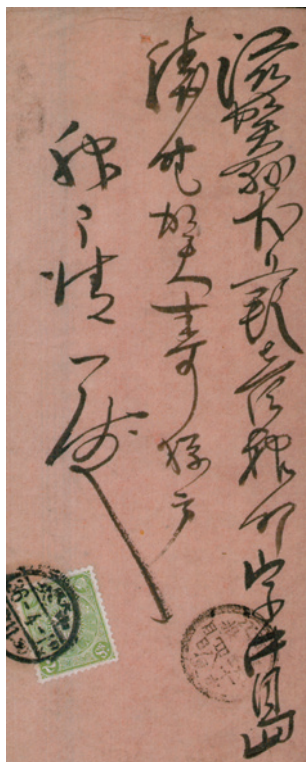


図3 大阪中央 36.4.18

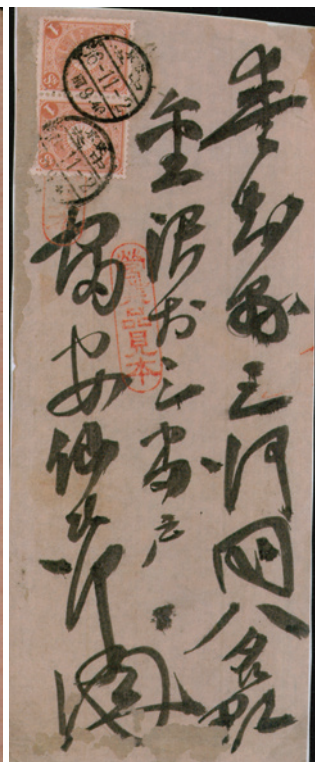


図4 東京中央 36.11.2

4.3 櫛型日付印

図5の「エンタィアを読む」ことから始めてみよう。図5は、台湾基隆局、明治40年12月30日引受け。封筒下部が傷んでいたのか、一部カットされていた。見栄えは良い方とは言えないが、封筒横幅が10センチあり、当時の平均的な横型封筒としては大きい方である。「写真在中」の手書き表記があったから即購入した。横幅9センチ葉書と同サイズほどの写真が同封されていたのではないだろう。

明治40年12月(T.)、一般の人が海外への旅行、仕事での出張、駐在するような時代ではなかった台湾(P.)から、当時の庶民の手には届かないほど高価な写真を送付した(O.)差出人は、どんな職業、地位・肩書きの人だっただろうか。こうした三拍子揃った(T.P.O.)”千載一遇”を読めるエンタィアに出会ったのだ。

明治20～40年頃に内地相互間に「写真在中」の表記をして写真を送付した2銭料金の郵便物の差出人、受取人は、まだ一般庶民ではなかった。私の収集体験から言うと、台切手がありふれた額面の新小判2銭切手と菊切手2銭貼のものは「写真在中」の表記があっても、単なる新小判切手と菊切手貼りにすぎないのだ。

「写真在中」の表記のエンタィアを求めて、雑物エンタィア入りの箱、バインダーの中を探し、店のオーナーに声をかけてきたが、20年ほどかけてやっと数通手に入ったにすぎない。それも国内使用ばかりであった。以下に述べる郵便史の三大構成要素(factor)の一つであるルート(郵便経路)を視野に入れながら探した結果、台湾差出し「写真在中」の図5に出会ったのである。時代、場所、機会の三拍子が揃った「写真在中」だからこそ、作品には「貴重品」である。貼付切手を視るのではなく、郵便物たる「エンタィアを読む」ことが郵便史の作品には必要な視点である、とこのように考えている。

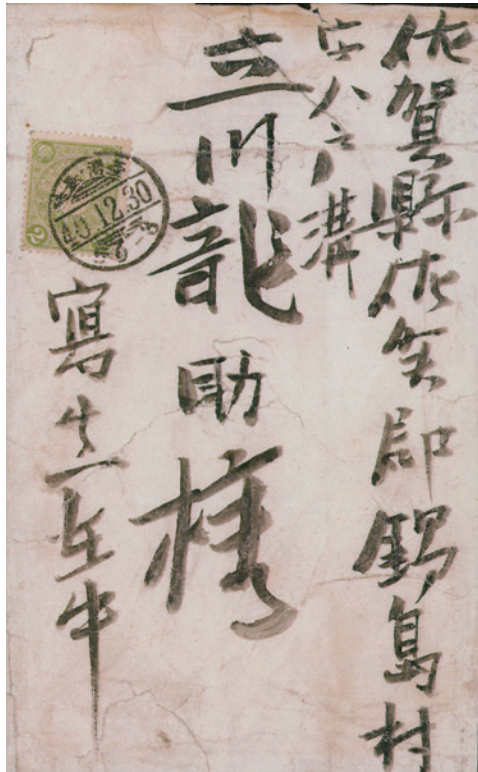


図5 台湾基隆
40.12.30

5 郵便史収集に求められる郵便構成要素 (factor)

伝統シリーズ切手の収集には、先輩収集家が研究発表した文献があり、それに基づいて集大成された専門カタログが作成されているから、収集の近道は整えられている。

これに対して、第4種郵便では、郵便内容品が収集対象になるが、それを参考にする専門カタログがなかった。従って、郵便史の郵便内容品の取扱を定めた郵便規則類、他の郵趣文献に発表されている各種情報、そして何よりもまして、郵便物そのものの時代的、社会的、文化的背景を、自分の収集経験、知識から加えて行かねければならない。自分で収集した郵便物一つずつ選別、確認、整理しながら、自分なりの「専門カタログ」を仕上げていく訳だから大変だし、時間もかかる。しかし、その過程で色々な勉強をさせてもらった。視野も広がってきた。

こうして自作した「専門カタログ」に、さらに郵便史作品を構成するのに必要な「三大構成要素」(内容によってはさらに必要な構成要素)を加えなければならない。

大構成要素とは、ルート(郵便経路)、レート(郵便料金)、キャンセルーション(消印)。郵便史の構成要素に「郵便切手」は含まないこととなっているが、それは郵便切手の未使用・製造面を含まないということである。

私は郵便切手は郵便料金の要素に含めたものとして考えている。つまり、郵便料金を示すには郵便物に貼付された郵便切手の額面額が必要不可欠であり、額面切手の合計額が郵便料金に合致していればよいのであって、何も郵便料金通りに額面切手が1枚貼で貼付、合致しなければならないことではない。2枚以上の額面切手が組み合わさって郵便料金額になっても構わないのである。

第4種郵便には上記の三大構成要素の他に、郵便内容品の差出人の職業、封筒の様式なども必要に応じて加味しなければならないと考えている。

郵便史の構成要素の一つに差出人の職業、肩書きが挙げられる。差出人と「写真在中」の関係に触れておかねばならない。

郵便内容品の一つである「写真在中」の表示では、写真業、写真館が館内で撮影した写真を現像・同封(在中)して差し出したもの、あるいは一旦受け取った写真を第三者に送付する時、「写真在中」の表示をした個人差出のもの他がある。「写真在中」には変わらないが、こうした送付の関係があることも承知しておかねばならない。

図5の差出人は裏面に住所の表記がなく、地名だけの記入であるから、恐らく旅行者か、出張者であろうか。それでも「写真在中」第4種郵便には違いないのである。

主題の日本切手による郵便史視(私)点として、私は第4種郵便という郵便の種類を作品に仕上げたが、これは日本切手による日本郵便史作品の一分野と捉えている。

6 「郵便の種類別」収集とこれからの郵便史収集に向けて

「郵便の種類別」の作品が郵便史の部門に出品される傾向が出てきたし、今後もその傾向は一層高まると思われる。一つの郵便の種類を制度面から、創業から集中収集ができる分野だからである。

郵便の種類別で過去に出品された作品の中で、通常郵便では、第1種郵便、第2種郵便葉書、第3種郵便の他、小包郵便があるが、最近では新たに第1種無封郵便と第4種郵便とが加わった。こうした通常郵便の作品では、通常郵便の取扱を定めた基本的な郵便規則で、他の郵便の種類にも共通する郵便規則を含めて「専用カタログ」が各作品に自作されている。

他方、特殊取扱郵便の方では、訴訟書類郵便、配達証明郵便、内容証明郵便、速達郵便などが作品として展示されてきた。こうした特殊取扱の郵便の種類には、独自の郵便規則があり、各郵便料金改正、郵便料金、郵便料金期間にも通常郵便とは違った特殊性、独自性がある、一般的（汎用的）な「専用カタログ」に加えて、出品者独自の「専門カタログ」がそれぞれ構築されている。特殊取扱郵便には何人かの収集家がチャレンジされ、立派な作品が発表されている。

上記の特殊取扱郵便の種類を考えていただきたい。どれも長年収集されてきたものが多く、現役時代の今も収集が続けられている方、あるいは定年・年金生活者になってから引き続き収集が続けられている方があって、ライフワークの収集作品にもなっているものがほとんどである。

これから上記のような郵便の種類のどれかを収集開始し、作品にまで高めたいとすると、第一に10年以上の時間がかかることは承知しなければならない。時間と資金があってもモノがどれだけ集めることができるか。容易に踏み込むができるような郵便の種類ではない。

考えられることは、個人的に関心のある分野を開拓すること、また全く新しい分野を見つけて、チャレンジしてみる。例えば、戦後に限って言えば、速達郵便、書留郵便、切手付き封筒と簡易書簡、第4種郵便（その後の第5種郵便）、簡易書留郵便など。収集を続けたいと考える以上、何かにチャレンジするのも楽しいことだと信じている。

スタンプックスジャパン 2022

STAMP EXHIBITION

STAMPEX
JAPAN
2022

全国切手展 3/26(土)~3/28(月)

主催：(特非)郵趣振興協会 / (公財)通信文化協会(郵政博物館)

協賛：スタンペディアプロジェクト

後援：カルトールセキュリティブリンディング社、切手市場、
(一社)全日本郵趣連合、(公財)日本郵趣協会(50音順)

NATIONAL PHILATELIC EXHIBITION
AT THE POSTAL MUSEUM JAPAN TOKYO SKYTREE TOWN SORAMACHI

テーマティックコレクションへの挑戦（２）

吉田 敬

yoshida@kitte.com

意外と反響がありました。。。。

本連載は、前号（第33号）から執筆を始めました。筆者にとってテーマティック部門は未知の分野です。したがって、テーマティック作品を長く収集されてきたフィラテリストの皆さんの参考になる部分は少ない記事だったと思います。それ以上に、フィラテリストマガジンの読者にテーマティック作品に関心ある方は少ないと思っていました。しかし予想に反して個別記事指名でご感想を複数の方からいただきました。気を良くして、初心者記事の執筆を続けていきたいと思っています。

ストーリー構成上外せない「トピカル視点の切手」の展示

連載第1回でも書きましたが、テーマティックでは展示マテリアルが安価な最近の記念切手だった場合、本当にこれを展示して良いのか？悩まされることが多いです。実際、JAPEX2021 にフランスの歴史に関する作品を出品した際、私の展示分量は3フレームと少ないに関わらず、売却したらせいぜい50円程度の価値しかない切手の展示数は100を優に超えました。

伝統郵趣や郵便史で競争展に参加し上位入賞を真剣に狙っている人であれば、この異常性は共感できるのではないかと、思います。もちろん一枚30円程度で掘り出した切手を展示することはあると思います。しかしそれは消印や製造が珍しいと思ったからで、どのディーラーでも30円で売っているありふれた切手ではありません。

国際展を目指しているのに、こんなことで良いのだろうか？とも思いましたが、ストーリーを語るにあたって、外せないケースの切手は当然出てきます。こういった場合、ストーリーに重点を置く方が良いのか？それとも切手のRarityを追求した方が良いのかは、JAPEXに出品してクリティックで審査員に質問したいポイントでした。

幸い、この点については明確なご回答をいただき、捻った高価な切手よりも安価であってもストーリーの理解を助ける切手をまずは選択した方が、審査員の頭には入りやすいとの事でした。

たとえば、高校の教科書にも出てくる、ボストン茶会事件（1773、急進派が停泊中の英東インド会社の船舶に乗り込み、茶箱を海に投棄した事件）は、アメリカ独立戦争の象徴的な事件です。

独立200年記念で右の様な記念切手がアメリカから発行されており、ジュニア時代にエコノミー集めていた程度の私ですら、その存在を知っていました。



Boston Tea Party in 1773

ひょっとしたら、ボストン茶会事件を描く、より良いステーションナリーや消印もあるのかもしれないと思いますが、図案のインパクトも含めてトピカル視点でこの切手を超えるマテリアルは現時点ではあまり望みがありません。というのは、ebayで「Boston tea party stationery」や「Boston tea party cancellation」と検索しても、この切手の記念カバー程度のものでしか表示されないからです。

1773年当時のBoston 発英国行きのスタンプレスカバーは比較的入手しやすいと思いますが、単にそれだけではテーマティック作品に展示するに足るマテリアルの要件は満たしません。英国側の植民地総督だった Thomas Hutchinson が郵便特権を持っていた場合に、事件（1773/12/16）前後に差し出されたスタンプレスカバーがあれば合わせて展示は可能かもしれませんが、それでもストーリーを審査員の頭に入れる為のビジュアルとしては、記念切手に優るものはないと思います。

この様な時に Rarity での減点を避けるために活用できるのはエラー切手です。日本の記念切手でも最近ではエラーや福耳の切手がオークションに出回る様になりましたが、これは世界共通の様です。「ボストン茶会事件」を描く米記念切手についても、eBayに下の様な、一色印刷ずれエラーがリストされていました。（邦価 3 万円）この切手を見ているとただ単に展示だけでなく、印刷方法を解明し、エラー出現理由を明記したいという伝統郵趣家の血が騒ぎます。



米 ボストン茶会事件 黒色印刷ずれエラー切手ブロック（上段）とその拡大図（下段左）・ノーマル（下段右）

さて、JAPEX2021 の出品作品で、ボストン茶会事件切手を含む米国独立戦争を展示したリーフ (P.13) をご覧に入れます。このリーフには実はすでにエラー切手が一枚展示されています。最上段左の青色一色漏れ切手です。なお、審査員が 20 世紀の切手を全て知っている等の思いこみは出品者の傲慢だと私は考えているので、エラー切手の右にノーマルな切手も展示しています。

印刷ずれ、目打ずれ等は気付きやすいエラーですからノーマルと並べて展示する必要はありませんが、わかりにくい切手の場合には対比を示してあげないと、見過ごされてしまう可能性が高いと思ったからです、この点はクリティークでもその通りとの講評をもらいました。

第 2 章 18 世紀後半の、植民地獲得競争における致命的敗退と財政危機 (2-d) 英国弱体化の観点から、フランスは米国独立戦争を支援 (P.13)

2 d

Fatal Defeat in the Colonial Acquisition Race and Financial Crisis in the late 18th century

France Supported American Revolutionary War of Independence to Weaken GB

GB increased taxation to the **thirteen colonies** caused big complains



A map showing thirteen colonies (c)
1976 blue omitted on the left and normal one on the right





Boston Tea Party in 1773

The Independence War Started in 1775

Battles of Lexington and Concord in 1775, followed by G. Washington's nomination as a commander



1847 10c



Diagonal bisect usage of 1847 10c depicting G. Washington, about 10-20 known
Tied by orange circle grid, PROVIDENCE, R.I. to NY, May 20, 1852



1842 US City Despatch Post, NY UL-corner stamp and Proof with a black pen stroke, The first stamp depicting G. Washington,

France joined the American Side in 1778 to weaken GB, and the war ended in 1783 with an independence of the USA.

It was good for France and the **Statue of Liberty** was presented to the US by France in 1884 for centenary of the independence

United States Declared Independence in 1776, however the war continued.



1954 US 3c perforated on pre-folding printed paper



Marquis de Lafayette [1757-1834] came from France to fight against GB



GB surrender at Yorktown in 1781

前号 (本誌第 33 号) で紹介したリーフ (P.14) の 1 ページ前のリーフ。「フランス革命」の原因となった財政危機の一因は、米国独立戦争への支援だった。「米国独立戦争」は、それだけでもテーマチック作品になり得る、世界史の大きなテーマで、実際、古今東西から色々な切手が発行されており、リーフ作りの材料には事欠かない。しかし、トピカル視点の切手の展示は外せないが、安価な切手ばかりになると審査上の印象は下がるだろう。エラー切手の使用はその弱点を補ってくれる。

このリーフを見ていくと、あと2枚ほど安価な切手があることに気がきます。そのうちの一枚の切手は『ラファイエット公爵』を描きます。アメリカ独立戦争でヨークタウンの戦いを指揮したフランス軍人で、後のフランス革命における重要人物であるため、日本での知名度は低いものの米国では歴史上の有名な人物です。

この為、米国では1952年(図左)と1977年(図右)の2度、彼を描いた記念切手を発行していますが、JAPEX2021ではより古い方がマシだろうと考えて1952年発行の切手を選択しました。



そうしたところ、1977年発行分について、あるオークションセールで、右の様な目打ずれエラーが売られているのを見つけました。エラー切手と言うには弱い為、お値段も安価ですが、少なくとも30円ではありません。テーマティック作品で安価だが欠かせないトピカル視点の切手を展示するには十分なマテリアルだと思っています。



テーマティック作品作りに関する私のバイブルは、「競争切手展に出品するリーフの作り方 テーマティックコレクション 編(榎沢祐一著、スタンベディア、2018)」です。筆者の榎沢さんから「初めて間もない時間は、安価な未使用切手でも良いので、まずは一度作品を完成させるべき」とのアドバイスをもらったことがあります。伝統郵趣や郵便史など左脳で作品を作ってきた展示者には特に当てはまる至言だと私は感じています。

その一方で、一度作った作品を見直す中で展示マテリアルを一つずつ強化していくのが、テーマティック作品における「年季」ではないかとも思います。エラー切手を探すプロセスを通じて、左のページで紹介したリーフのRarityに対する減点を減らすことが可能なことが判明しましたし、他のページでも同様の取り組みができると考えています。

また、安価なノーマル切手だけの展示を減らすことの副産物として、マテリアルの多様性を追求できる余地が広がることが挙げられます。

記念消印やカシエ入りステーションナリーは、安価でフィラテリックなものが多いです。しかしカタログが広く普及している切手と異なり、情報が少なく、展示することによりマテリアルの多様性を訴求できるメリットもあります。

同時に展示する切手がノーマルでなければ、記念消印等は安価でも、審査員に対して全て安価に揃えた展示と見なされず、かつ多様なマテリアルの使用をアピールできるので、これもエラー切手活用の副産物だと思います。



eBay に出品されていた独立 200 年関連記念消印
Boston Tea Party の文字入り

木戸裕介氏著「朝鮮初期櫛型印に関する発見と考察」への補足

中野 健司

2013 年、本誌創刊号に掲載された木戸裕介氏の「朝鮮初期櫛型印に関する発見と考察」は、私にとって非常に参考になり、自分なりに調査するきっかけを与えてくれた、貴重な論文です。本稿では、調査の過程で接した情報を基に、同記事の補足を試みたいと思います。



朝鮮初期櫛型印に関する発見と考察（木戸裕介、フィラテリストマガジン創刊号、2013 年 12 月）

1. A 欄『韓』、C 欄局名入タイプについて（非郵便印か否か？）

補足の一点目は、木戸論文の

図 3 は、茂山局の A 欄『韓』、C 欄局名入の変形櫛型印を押した軍事郵便使用例です。時刻表示がないため非郵便印の誤用という推論も立ちますが、A 欄『韓・局名』の印影が存在する局において図 3 のような印影が併存して確認された例がないため、郵便取扱量が少なく、時刻表示の必要のない局などはこのタイプの印類を使用していた可能性が高いです」

との部分（本誌創刊号 29 頁）についてです。

その後の調査で、「A 欄『韓』C 欄局名入」タイプと「A 欄『韓・局名』」タイプとの並存が、釜山郵便局の草梁出張所で確認できました（図 1 と図 2）。

同所は、明治 37 年 2 月 19 日郵便受取所として開設、同年 12 月 1 日に出張所に変更、40 年 1 月 1 日に郵便取扱所に変更されています。並存するとすると「A 欄『韓』C 欄局名入」タイプは非郵便印なのか、それにしては郵便使用が多く残されているから特に区別なく併用されたのか、今後の研究課題です。

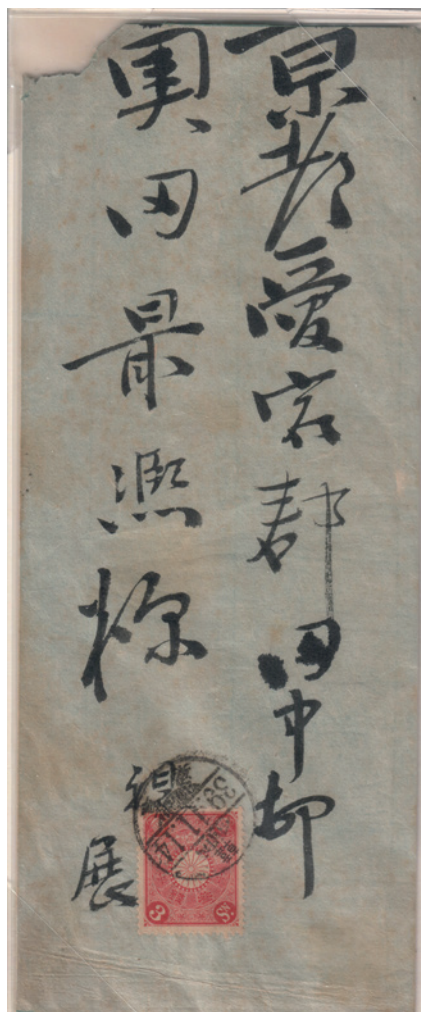


図 1

A 欄「韓」C 欄「草梁」39.11.14

図 2

A 欄「韓・草梁」39.6.29

2. D 欄「扱」入りについて

(1) 使用した取扱所

補足の二点目は、木戸論文の

黄州・天安・禮山（ハンドブック上の礼山）の3都市には、受取所と取扱所が並列存在している時期があったようです。筆者は最近新たに『韓・蔚山』のD欄『扱』入りのカバーを入手しました。（図6）この局での使用例は今までに発表されていないようです。そして、この蔚山もまた、先に述べた①、②の特徴と合致します。上記の特徴と合致する都市においては、『扱』入りの印影が新たに発見される可能性も高いです。印影が糊にまぎれて 非常にわかりづらいので、みなさんの手元にも潜んでいる可能性も大いにあります。

この部分（本誌創刊号 31 頁。木戸論文にいう「①、②の特徴」とは、「①日韓通信合同時、臨時郵便所として接収されたこと ②郵便受取所が設置されていること」を指す）についてです。

これに関連し、「統監府通信事業年報」（明治 39 年下、56-57 頁）に、次の記述を見つけました（原典の写しは史料 1 参照）。以下引用します。

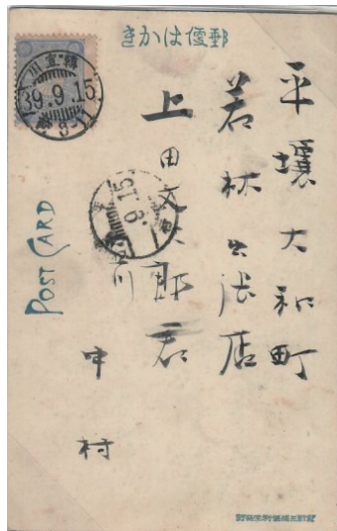
「新設取扱所所在地中蔚山、天安、礼山、宣川の各地は前記臨時郵便所の存在せし外尚郵便電信受取所又は郵便受取所の存在せるあり。是亦取扱所へ併合を要せしも当時取扱所の設備未だ完全に整備せざるものありしを以て当分の間之を存置し尚受取所存置中は右四箇所の取扱所に於ては小包郵便物の配達、郵便替、郵便貯金及取立金の事務は之を取扱わしめざりしも明治 40 年 2 月 1 日蔚山郵便電信受取所を廃してその事務を蔚山郵便取扱所に合せ同年 3 月 1 日天安、礼山及宣川各郵便受取所を廃して之を同一地の郵便取扱所に併合せり」。

即ち、①、②の特徴を満たすものとして、宣川もあるということです。同地では、明治 38 年 6 月 17 日に安州郵便局の所轄の下に臨時郵便所を開設、39 年 12 月 1 日に郵便取扱所に変更したのと並行して、39 年 8 月 1 日に別途の郵便受取所を設置、40 年 3 月 1 日に上記の通り「宣川郵便受取所を廃して之を同一地の郵便取扱所に併合」しました。43 年 10 月 1 日、取扱所から郵便局になります。

従って、木戸論文の「上記の特徴と合致する都市においては、『扱』入りの印影が新たに発見される可能性も高い」との指摘に合致するのは、上記「統監府通信事業年報」によれば未発見なのは宣川だけだと思います。「扱」入りでない印影は、図 3 の通り筆者も最近入手しました。39 年 8 月 1 日に別途の郵便受取所を設置した翌月の使用です。



図 3 韓・宣川 39.9.15





無料登録・無料入札の流れ

Philasearch で検索!

- ① www.philasearch.com/jpを開く
- ② 最新オークションからロットを選択し、入札用紙に追加する
- ③ 個人情報登録後、担当会社に入札を送ってから入札完了!

世界の切手オークションが お手軽に

180社以上
参加中

以下の東アジア専門オークション等をご紹介します



Schuyler
Rumsey
Philatelic
Auctions



おすすめ!

ご自宅からリアルタイム
で入札可能!

困難な時代の中でもご自宅の安全な環境から
リアルタイムでライブ・オークションにご参加を!



www.philasearch.com/jp

※ フィラサーチは、販売代理として日本語対応のウェブサイト及びサポート窓口を無料で提供します。各販売の担当オークション会社により手数料などが発生する場合があります。ご入札送付の際、入札規定をご確認ください。

※ 担当オークション会社へのご連絡、お問い合わせにつきましては、英語のみの対応となります。日本語対応のお問い合わせ・ご意見・ご質問・ご要望などは、service@philasearch.com までご連絡ください。

ここで、上記「統監府通信事業年報」に言及のある蔚山、天安、礼山、宣川、及び「日本郵便印ハンドブック」に言及のある黄州について、変遷及び関連告示等（原典の写しは史料 2-6 参照）をまとめてみます。①、②の特徴を満たして受取所と取扱所とが並存した時期の始点と終点とを、太字で示します（黄州は並存期間無し）。

蔚山

- 38 年 6 月 17 日 釜山郵便局の所轄の下に臨時郵便所開設（通信省告示第 442 号）
- 39 年 8 月 1 日 別途の郵便受取所を設置（統監府告示第 62 号）
- 39 年 12 月 1 日 臨時郵便所を郵便取扱所に変更（統監府告示第 105 号）**
- 40 年 1 月 31 日 受取所廃止（統監府告示第 12 号）**
- 43 年 10 月 1 日 取扱所を郵便局に改定（韓国併合に伴い明治 43 年 9 月 29 日勅令第 360 号で「朝鮮総督府通信官署官制を試行せられたのと同時に郵便及電信取扱所 139 箇所は全て之を郵便局に改定」＝「朝鮮通信事業沿革史」28 頁）

天安・礼山（共通）

- 38 年 6 月 17 日 京城郵便局稷山出張所の所轄の下に臨時郵便所開設（通信省告示第 442 号）
- 39 年 12 月 1 日 臨時郵便所を郵便取扱所に変更（統監府告示第 105 号）
- 39 年 8 月 1 日 別途の郵便受取所を設置（統監府告示第 62 号）**
- 40 年 2 月 28 日限り受取所を廃止、郵便取扱所に承継（統監府告示第 16 号）**
- 43 年 10 月 1 日 取扱所を郵便局に改定

宣川

- 38 年 6 月 17 日 安州郵便局の所轄の下に臨時郵便所開設（通信省告示第 442 号）
- 39 年 12 月 1 日 郵便取扱所に変更（統監府告示第 105 号）
- 39 年 8 月 1 日 別途の郵便受取所を設置（統監府告示第 62 号）**
- 40 年 2 月 28 日限り受取所を廃止、郵便取扱所に承継（統監府告示第 16 号）**
- 43 年 10 月 1 日 取扱所を郵便局に改定

黄州

- 37 年 12 月 15 日 郵便受取所を設置（通信省公達第 722 号）、
- 38 年 6 月 11 日 別途、京城郵便局瑞興出張所の所轄の下に臨時郵便所開設（通信省告示第 442 号）
- 39 年 12 月 1 日 臨時郵便所を郵便取扱所に変更（統監府告示第 105 号）
- 39 年 11 月 30 日限り受取所を廃止、郵便取扱所に承継（統監府告示第 124 号）
- 43 年 10 月 1 日 取扱所を郵便局に改定

補足の三点目は、木戸論文 31 頁から引用した記述に言及のある「黄州」についてです。上掲の変遷の通り、同地では受取所と取扱所が並存した時期は無いのに、並存時期があった蔚山、天安、礼山同様に「扱」入りの印影が存在することは興味深い事実です。

図 4 の印影は、40 年 1 月 14 日付の「扱」入りです。また、図 5 の印影は 40 年 1 月 1 日付の年賀用の朱印ですが、こちらは「扱」字が入っていません。

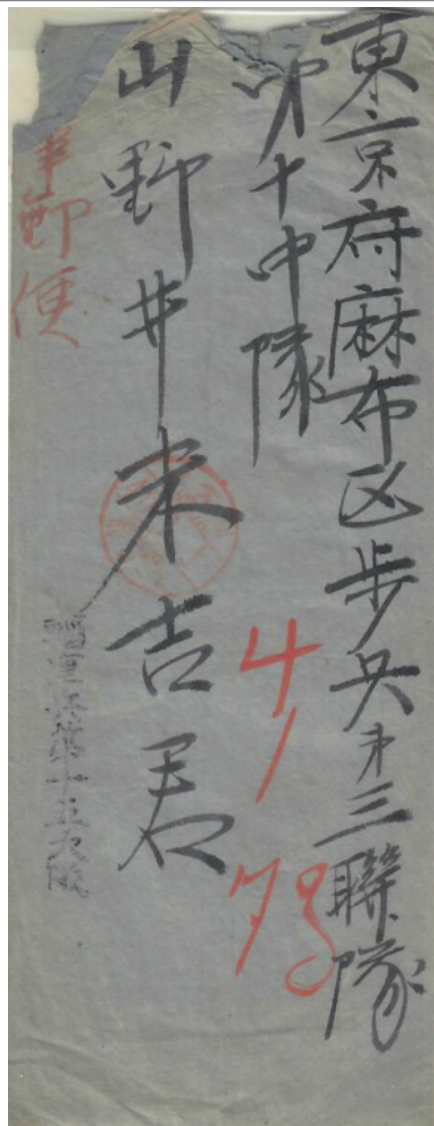
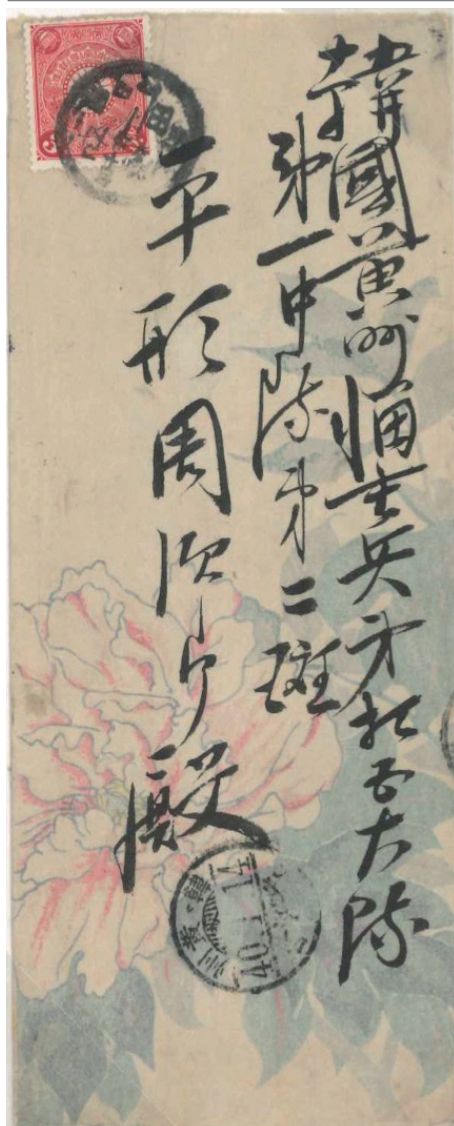


図4 韓・黄州、D欄「扱」、40.1.14



図5 韓・黄州 40.1.1

(2) 使用した期間

補足の四点目は、木戸論文図5で示されている天安の40年7月31日付の印影と、同記事図6で示されている蔚山の40年4月3日付の印影についてです。

これらの印影は、上掲の変遷に見られる通り、40年2月28日の天安受付所廃止、40年1月31日の蔚山受付所廃止の、それぞれ後であり、並存期間終了後にも「扱」入りが使われ続けた例として興味深いと言えます。

寧ろ、木戸論文や「日本郵便印ハンドブック」、荒田耕一著「朝鮮で使用された丸一以後の郵便印」(「フィラテリスト」誌1971年3月号53頁=この記事を赤石四郎著「朝鮮の日附印」第3回3頁で引用)に出ている印影は全て並存期間終了後のものであり、並存期間中(蔚山は2ヵ月、天安・礼山及び宣川は7ヵ月間)のものは筆者は未見です。

こんなことを書くと、出現したときに入札の競争が激しくなって筆者も困りますが、郵趣的な事実の記録のために敢えて指摘する次第です。

3. おわりに

木戸氏のご指摘通り、この分野は「丸一印以降の複雑な消印変遷、通信合同による局数の急増と改廃の煩雑さゆえに、非常に興味深い分野といえる」と思います。別途「郵趣研究」誌に「明治末期の朝鮮半島に於ける郵便局所の消印—平壤大和町の特異な例—」と題し、平壤大和町の特異な印影を、当時の朝鮮半島に於ける日本郵便局所で一般的に使用された消印との異同に触れながら紹介する寄稿をしたので、掲載の暁には併せてご高覧頂ければ幸いです。

木戸裕介氏に対する敬意と謝意を記して、本稿の結びと致します。

スタンペックスジャパン 2022

STAMP EXHIBITION

STAMPEX
JAPAN
2022

全国切手展 3/26(土)~3/28(月)

主催：(特非)郵趣振興協会 / (公財)通信文化協会(郵政博物館)

協賛：スタンペディアプロジェクト

後援：カルトールセキュリティプリンティング社、切手市場、

(一社)全日本郵趣連合、(公財)日本郵趣協会(50音順)

NATIONAL PHILATELIC EXHIBITION
AT THE POSTAL MUSEUM JAPAN TOKYO SKYTREE TOWN SORAMACHI

資料集

五六

屬ス同事務ノ取扱ハ明治三十九年十月一日ヲ以テ郵便局十箇所郵便局出張所二十五箇所ニ開始シ同年十二月一日ヨリ更ニ新設郵便電信及郵便取扱所百二十四箇所ニモ亦之ヲ開始シ前後合計百五十九局所ニ於テ之ヲ取扱フコトトナレリ而シテ取扱所ノ新設ト同時ニ該取扱所ト同一地ニ設置セル在來ノ臨時郵便所ハ之ヲ取扱所ニ併合シ爾來臨時郵便所主事ハ取扱所主事トシテ從來ノ如ク專ラ當該集配區域内ニ於ケル郵便物ノ集配事務ヲ取扱ハシムルコトトナセリ(韓國國庫金出納事務取扱ノ狀況ニ關シテハ第六章ニ詳述ス)蓋シ此ノ改良タル主事ノ職名ヲ改メタル外其ノ内容ニ於テ一見何等從來ト異ナル點ナキカ如クナルモ竊テ併合後ニ於ケル郵便物集配上ノ成績ニ徴スルニ從來臨時郵便所主事ニ於テ單獨之ヲ執行セシ當時ニ比シ稍々秩序的ニ集配事務ヲ執行シ得ルニ至リ其ノ改善ノ見ルヘキモノ尠カラサルヨリ之ヲ觀レハ從來不規律無秩序ノ狀態ニ沈淪セシ韓國地方通信業務ノ經營ニ對シ確ニ一大進境ヲ開展セシモノナリト謂フヲ得ヘシト信ス又新設取扱所所在地中蔚山天安禮山宣川ノ各地ハ前記臨時郵便所ノ存在セシ外尙郵便電信受取所又ハ郵便受取所ノ存在セルアリ是亦取扱所ヘ併合ヲ要セシモ當時取扱所ノ設備未タ完全ニ整備セサルモノアリシヲ以テ當分ノ間之ヲ存置シ尙受取所存置中ハ右四箇所ノ取扱所ニ於テハ小包郵便物ノ配達郵便爲替郵便貯金及取立金ノ事務ハ之ヲ取扱ハシメナリシモ明治四十年二月一日蔚山郵便電信受取所ヲ廢シテ其ノ事務ヲ蔚山郵便取扱所ニ合セ同年三月一日天安禮山及宣川各郵便受取所ヲ廢シテ

之ヲ同一地ノ郵便取扱所ニ併合セリ

明治三十九年十月一日釜山郵便局尙州出張所ニ電信事務ノ取扱ヲ開始ス

資料集

○公達第七百二十二號 十二月十三日

通信官署

本月十五日ヨリ左ノ郵便受取所ヲ設置シ郵便貯金事務ヲ取扱ハシム其名稱、位置、所轄局名左ノ如シ
右郵便受取所ニ於テハ特ニ郵便物集配事務ヲ取扱ハシム

名 稱
黃州郵便受取所

位 置
韓國黃州 京城郵便局

統監府告示第六十二號

八月一日ヨリ左記郵便受取所ヲ設置ス

明治三十九年七月一日

統監 侯爵伊藤博文

名 稱

位 置

京城新町郵便受取所

漢城府南署營坊聖林洞

京城東大門通郵便受取所

漢城府中署具善坊大福洞

仁川停車場前郵便受取所

京畿道仁川郡仁川各國新居留地

嶺南郵便受取所

漢城府南署豆毛坊露島

漢江坊郵便受取所

漢城府南署漢江坊漢江契

汝山郵便受取所

京畿道坡州郡七井面汝山浦

天安郵便受取所

忠清南道天安郡天安邑

禮山郵便受取所

忠清南道禮山郡禮山邑

蔚山郵便受取所

慶尙南道蔚山郡蔚山邑

長生浦郵便受取所

慶尙南道蔚山郡長生浦

慶山郵便受取所

慶尙北道慶山郡邑内面士亭法洞

大邱西門外郵便受取所

慶尙北道大邱郡西上面前洞

沙利院郵便受取所

黃海道鳳山郡沙院坊沙里院洞

新幕郵便受取所

黃海道開城郡中部坊新幕洞

平壤大和町郵便受取所

平安南道平壤郡内川坊三里

新安州郵便受取所

平安南道安州郡青山面元興里

宣川郵便受取所

平安北道宣川郡宣川邑

白馬郵便受取所

平安北道義州郡咸遠面中端洞

元山里郵便受取所

咸鏡南道德源郡縣社元山里

史料 2 受付所の開設

統監府告示第十六號

明治四十年二月二十八日限り左記郵便受取所ヲ廢止ス同所ニ於テ取扱ヒタル事務ハ下記郵便取扱所之ヲ承繼ス

明治四十年一月三十日

臨時統監代理韓國駐節軍司令官 男爵長谷川好道

名 稱
天安郵便受取所
禮山郵便受取所
宣川郵便受取所

位 置
忠清南道天安郡天安邑
忠清南道禮山郡禮山邑
平安北道宣川郡宣川邑

承繼所名
天安郵便取扱所
禮山郵便取扱所
宣川郵便取扱所

統監府告示第十二號

明治四十年一月三十一日限り左記郵便電信受取所ヲ廢止ス同所ニ於テ取扱ヒタル事務ハ下記郵便電信取扱所之ヲ承繼ス

明治四十年一月二十四日

臨時統監代理韓國駐節軍司令官 男爵長谷川好道

名 稱
蔚山郵便電信受取所

位 置
慶尙南道蔚山郡蔚山邑

承繼所名
蔚山郵便電信取扱所

統監府告示第二百二十四號

明治三十九年十一月三十日限り左記郵便電信受取所ヲ廢止ス同所ニ於テ取扱ヒタル事務ハ下記郵便電信取扱所之ヲ承繼ス

明治三十九年十一月十日

統監 侯爵伊藤博文

名 稱
黃州郵便電信受取所

位 置
韓國黃州

承繼所名
黃州郵便電信取扱所

資料集

逓信省告示第四百四十二號
 本年五月十八日ヨリ同七月二日ニ至ル間ニ於テ左記臨時郵便所ヲ設置シ當日
 各在來韓國臨時郵便所ノ事務引繼ヲ了シ其事務ハ新設臨時郵便所之ヲ承繼ス
 右臨時郵便所ニ於テハ當分ノ内普通及書留通常郵便物並ニ集配事務ニ限リ之
 ヲ取扱フ

明治三十八年八月十日

逓信大臣 大浦兼武

新設所名	在來韓國所名	位	置	所轄局所名	設置年月日
加平臨時郵便所	加平郡臨時郵便所	韓國京城道加平郡	京城郵便局	同	明治三十八年五月六日
朔寧同	朔寧郡同	同	朔寧郡	同	同
永平同	永平郡同	同	永平郡	同	同
黃州同	黃州郡同	韓國黃海道黃州郡	京城郵便局瑞興支所	同	明治三十八年六月十一日
牙山同	牙山郡同	韓國忠清南道牙山郡	京城郵便局稷山出張所	同	明治三十八年六月十七日
溫陽同	溫陽郡同	同	溫陽郡	同	同
新昌同	新昌郡同	同	新昌郡	同	同
禮山同	禮山郡同	同	禮山郡	同	同
木川同	木川郡同	同	木川郡	同	同
全義同	全義郡同	同	全義郡	同	同
天安同	天安郡同	同	天安郡	同	同
梁山同	梁山郡同	韓國慶南道梁山郡	梁山郵便局	同	明治三十八年五月二十一日
密陽同	密陽郡同	同	密陽郡	同	同
機張同	機張郡同	同	機張郡	同	同
蔚山同	蔚山郡同	同	蔚山郡	同	同
定州同	定州郡同	同	定州郡	同	同
蔚山同	蔚山郡同	同	蔚山郡	同	同
宣川同	宣川郡同	同	宣川郡	同	同
鐵山同	鐵山郡同	同	鐵山郡	同	同

史料 4 臨時郵便所の開設

資料集

統監府告示第百五號

明治三十九年十一月三十日限り左記臨時郵便所ヲ廢止ス同所ニ於テ取扱ヒタ
ル從前ノ事務ハ下記郵便電信取扱所又ハ郵便取扱所之ヲ承繼ス

明治三十九年九月二十六日

名

稱

位

證

統監 侯爵伊藤博文
承繼所名

禮山臨時郵便所

忠清南道禮山郡禮山邑

禮山郵便取扱所

牙山臨時郵便所

忠清南道牙山郡牙山邑

牙山郵便取扱所

天安臨時郵便所

忠清南道天安郡天安邑

天安郵便取扱所

蔚山臨時郵便所

慶尙南道蔚山郡蔚山邑

蔚山郵便取扱所

黃州臨時郵便所

黃海道黃州郡黃州邑

黃州郵便取扱所

宣川臨時郵便所

平安北道宣川郡宣川邑

宣川郵便取扱所

資料集

沿革

明治三十八年五月二十一日臨時
郵便所設置
明治三十九年十一月三十日臨時
郵便所廢止
明治三十九年十二月一日郵便取
扱所設置韓國國庫金日納保管ヲ
モ開始但小包郵便ノ配達郵便
爲替及貯金ヲ取扱ハス
明治四十年二月一日郵便爲替、
貯金、及電信並小包郵便ノ配達
開始郵便電信取扱所ト改稱但諺
文電報ヲ取扱ハス
明治四十一年三月一日軍事郵便
爲替開始
明治四十一年四月一日諺文電報
開始
明治四十一年十一月一日電話通
話開始
明治四十二年十一月一日收入印
紙賣捌開始
明治四十三年十月一日郵便局ニ
改定
明治四十三年十一月三十日軍事
郵便爲替廢止
大正二年三月十一日内容證明郵
便取扱開始

蔚山

沿革

明治三十八年六月七日臨時郵便
所設置
明治三十九年十一月三十日臨時
郵便所廢止
明治三十九年十二月一日郵便取
扱所設置韓國國庫金日納保管ヲ
モ開始但小包郵便ノ配達郵便
爲替及貯金ヲ取扱ハス
明治四十年三月一日小包郵便ノ
配達郵便爲替及貯金開始
明治四十一年一月一日軍事郵便
爲替開始
明治四十一年八月十一日電信開
始郵便電信取扱所ト改稱
明治四十二年二月一日電話通話
開始
明治四十二年十一月一日收入印
紙賣捌開始
明治四十三年十月一日郵便局ニ
改定
大正二年三月十一日内容證明郵
便取扱開始

天安

沿革

明治三十八年六月十七日臨時郵
便所設置
明治三十九年十一月三十日臨時
郵便所廢止
明治三十九年十二月一日郵便取
扱所設置韓國國庫金日納保管ヲ
モ開始但小包郵便ノ配達郵便
爲替及貯金ヲ取扱ハス
明治四十年三月一日小包郵便ノ
配達郵便爲替及貯金開始
明治四十一年一月一日軍事郵便
爲替開始
明治四十二年十一月一日電信開
始郵便電信取扱所ト改稱但諺文
電報ヲ取扱ハス
明治四十二年十二月十六日諺文
電報開始
明治四十三年八月一日電話通話
開始
明治四十三年十月一日郵便局ニ
改定
明治四十三年十一月三十日軍事
郵便爲替廢止

礼山

史料 7 朝鮮総督府通信局「局所要覧」(大正元年)掲載の沿革(受取所への言及は無)

資料集

沿革

明治三十八年六月十七日臨時郵便所設置
 明治三十九年十一月三十日臨時郵便所廢止
 明治三十九年十二月一日郵便取扱所設置通常郵便、小包郵便及韓國國庫金出納保管開始但小包郵便ノ配達ヲ取扱ハス
 明治四十年三月一日小包郵便配達、郵便爲替及貯金開始
 明治四十年十月一日電信開始郵便電信取扱所ト改稱但諺文電報ヲ取扱ハス
 明治四十一年四月一日諺文電報開始
 明治四十二年十一月一日收入印紙賣捌開始
 明治四十三年十月一日郵便局ニ改定

宣川

沿革

明治三十八年六月十一日臨時郵便所設置
 明治三十九年十一月三十日臨時郵便所廢止
 明治三十九年十二月一日郵便取扱所設置韓國國庫金出納保管ヲモ開始
 明治三十九年十二月一日軍事郵便爲替及電信開始郵便電信取扱所ト改稱但諺文電報ヲ取扱ハス
 明治四十一年五月一日諺文電報開始
 明治四十二年五月八日收入印紙賣捌開始
 明治四十三年八月一日電話通話開始
 明治四十三年十月一日郵便局ニ改定
 明治四十三年十一月三十日軍事郵便爲替廢止

黃州

和欧文機械印トピックス (第77回)

地方中心局の復活使用

水谷 行秀

第76回にて紹介した通り、地方の中央局では1994年以降使用を復活した局が次々と出てきた。地方の中心局なども中央局の復活使用以前の1990年より同様な例が相次いだ。こちらも新規に開いた別の局での使用は継続している。

具体的には札幌白石・宇都宮・大宮・蕨・市川・松本・豊橋・福山といったところである。これらの局は復活後の使用期間も長く、収集上困難なものは無い。このように書いていながらお恥かしい話であるが、珍しくはないため私自身大切にしておらずともなものはほとんどない状態で収友の協力も得てやっと一通り揃えた有様である(図1)。

第76回に紹介したものと同じようなリーフで充分ではないかと思っている。また、これらの中で蕨は初めての自動取り揃え押印機の配備であるが、2期の期間中にモリコーの和欧文型M6が配備されているのでその外見より復活使用としてここに含めた。

中央局の復活使用

1994.3~

これまで地方の中心局や中央局から新規に設置された局に集配業務と共に自動取り揃え押印機も移した例が相次いだが、1993(平成5)年以降にそれら新規の局に加えて中心局や中央局への自動取り揃え押印機再配備が行なわれた例が見られた。

札幌白石 1993.11.2~



94.12.11 8-12

蕨 1993.~



94.11.10 12-18

豊橋 1994.11.16~



95.9.12 18-24

松本 1996.2.20~



06.5.22 12-18

宇都宮 2006.10.16~



07.10.11 18-24

市川 1995.3.20~



06.11.28 8-12

福山 1994.~



05.5.19 12-18

郵便はがき

5 0 0 8 6 9 1

岐阜中央郵便局
私書箱41号
美濃収集会
御中

大宮市本町四二番地六
丸山陽生
電話〇四八一六六八一七八三

00.1.30 8-12

和欧文機械印トピックス（第78回） 局名改称

水谷 行秀

3期に入ってから各種の事情で和欧文機械印使用局の中で局名を変更した局が複数あったので紹介したい。

久留米輸送→久留米東

元々は鉄道郵便局の廃止に伴い地域間自動車便の中継拠点を整備するため、1986年10月に久留米輸送郵便局として開設された。そして1995年10月に福岡県南部の地域区分局再編・久留米市内の郵便物集配区域見直しと併せて貯金・保険業務の取り扱いを開始し、久留米東郵便局に改称されたことによって局名表示も変更となった（図1）。



図 1-1 久留米輸送



図 1-2 久留米東（藤田敏則氏蔵）

平→いわき

福島県の「平」市が周辺の町村と合併し1966（昭和41）年10月に「いわき」市となった。平郵便局はその後もしばらく局名はそのままだにしていたが、1992（平成6）年2月24日にいわき郵便局へと名称を変更した。この理由は発表されていないようだ。また、1994年に平駅がいわき駅に名称変更となっている。こちらはいわき市の要請によるものと発表されている。おそらく郵便局の局名変更もいわき市の要請によるものであろう。この変更自体は事前に公表されていた。そのため図2のように官白も残されている。



図 2-1 平



図 2-2 いわき



1990年10月1日より3期に移行していることと1991年4月20日には印色変更となっているため、3期印で平（黒・6か月20日）、平（錆桔梗・10か月）、いわき と3つ揃えるのは少し
 歯ごたえがある（図3）。

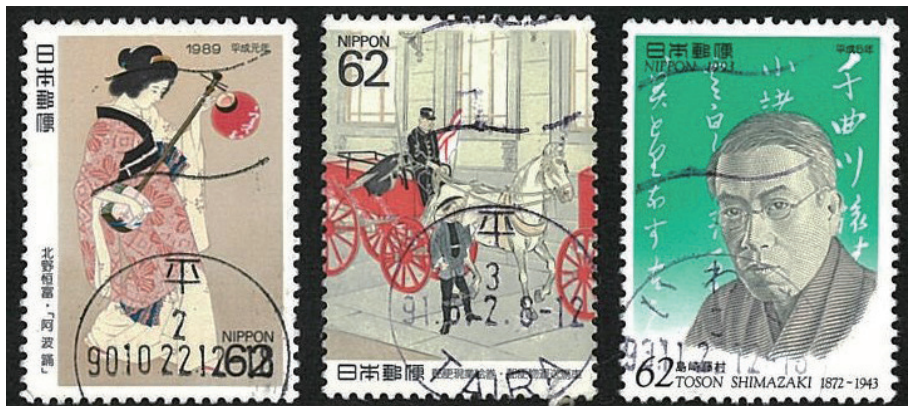


図3 平→いわき（左から平 / 黒、平 / 錆桔梗、いわき / 錆桔梗）

青葉台東→青葉

1992年11月16日に青葉台東郵便局として開局した。開局時より自動取り揃え押印機が配備され和欧文機械印の使用局となった。そして開局より約2年後の1994年11月6日に青葉郵便局と局名を改称した。こちらは横浜市の行政区再編成により、青葉台東局の所在地が緑区から青葉区となったためである。よって青葉台東の和欧文機械印は使用期間が約2年となり稀少ではないものの少しだけ手こずるかもしれない（図4）。

こうして改めて局名改称の理由を並べてみると3者3様であり、和欧文機械印収集の意義が見いだせるのではないと思う。



図4 青葉台東 青葉

和欧文機械印トピックス（第79回）

押印位置変更

水谷 行秀

1998（平成10）年2月2日より郵便番号を従来の5桁から7桁へと変更した。当然、郵便番号枠も変更された。郵便番号枠5桁時の横寸法全長は45mm程度であったが、7桁時には全長が48mm程度と3mm程長くなった。

官製はがきでは、枠の右端の位置は変わらなかったため、その分左に長くなったことになる。市販の封筒も同様であった。

この変更を前提として、これに先立つこと4か月前の前年1997（平成9）年10月、自動取り揃え押印機用による消印の位置を3mm程左に寄せた。具体的には、それまで封筒やはがきの左辺から6-10mmに和欧文印の局名部左端が位置するところに消印していたが、この変更で3-7mmの位置となった。

局や機械により、また同じ機械での誤差もあるためハッキリと左辺から〇mmとは言えないのかもしれませんが、図1に示したように同じ局で変更の前後を並べるとそれなりに説得力もあり見栄えがするのではないだろうか。



図1 足立局（左）1995.11.25 左から8.5mm（右）1999.4.11 左から4.0mm

和欧文機刷印3期

押印位置変更

1997.10.

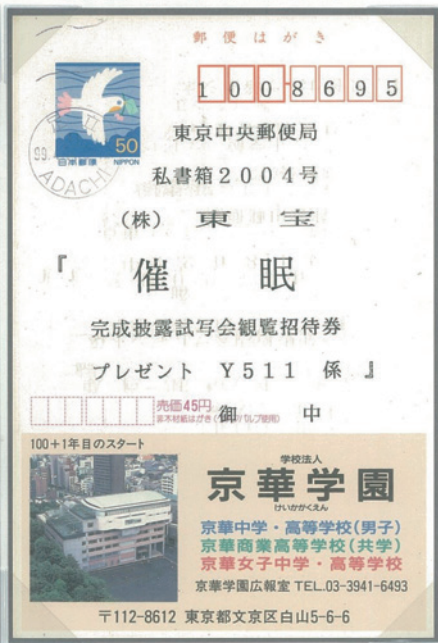
1998(平成10)年2月2日より郵便番号を従来の5桁から7桁へと変更した。当然、郵便番号枠も変更された。5桁の横寸法全長は45mm程度であったが、7桁の全長は48mm程度と3mm程長くなった。この変更により先立つ1997(平成9)年10月、自動取り揃え押印機用による消印の位置を3mm程左に寄せた。具体的には、封筒やはがきの左辺から6-10mmに和欧文印の円枠左端が位置するところに消印していたが、この変更で3-7mmの位置となった。

郵便番号 5 桁時/左辺より 8.5mm

郵便番号 7 桁時/左辺より 4mm



足立 7/95.11.25 8-12



足立 11/99.4.11 8-12

図2 足立局 和欧文機刷印の押印位置変更 (リーフ)

世界切手展 受賞結果抜粋

LONDON 2022

特定非営利活動法人 郵趣振興協会

2022/2/19(土)～2/25(金)に、英国ロンドン市にあるイズリントン・ビジネスデザインセンターで開催された世界切手展の受賞結果の抜粋（グランプリと日本からの出品）をご報告します。

全日本郵趣連合が本展覧会への参加（コミッショナー派遣）を急遽取りやめた為、日本からの競争部門への参加は、文献部門にエントリーされていた4作品のみとなりました。これら4作品は、郵送で昨年送付済みだった為、競争展示の対象となり、審査結果もFIP公式記録となりました。

それ以外の展示作品12コレクション（本誌第33号掲載）は、カラーコピーの形で参加した作品もあったものの、FIPの記録の対象外とする旨の発表が主催者よりありました。従いまして、「世界切手展 受賞結果」という本稿の主旨からは掲載を見送ることにします。

なお、全日本郵趣連合は、12コレクションについて、出品料金の返金と国際郵趣連盟の公式記録に残す為の交渉を続けるとのことですので、今後、交渉がうまく行き、公式記録となる事が発表された場合は、本稿は改めて掲載いたします。

World Stamp Championships

UPU and its Impact on Global Postal Services (James Peter Gough, USA)

(候補) Hawaii Foreign Mail (Richard Malmgren, USA)

(候補) Victorian Natal 1857-1899 (Keith Klugman, USA)

GRAND PRIX INTERNATIONAL

Tuscany 1836 to UPU: Letter mail in, from and to Tuscany: routes, rates and charges, (Vittorio Morani, Italy)

(候補) The first stamps of the German Empire the Eagle Shield stamps and the 10 and 30 Groschen stamps 1872-1875 (Jan-Olof Ljungh, Sweden)

(候補) Portugese India - The "Native Issues" 1871-1885 (Luís & Eduardo Barreiros, Portugal)

(候補) The Triangulars Of The Cape of Good Hope (Joseph Hackmey, UK)

Grand Prix National

The Maltese Cross, (Howard Hughes, UK)

(候補) Great Britain: Development and Usage of the World's First Postage Stamps (1840-1841) (Simon Beresford-Wylie, UK)

(候補) The First Low Value Surface Printed postage Stamps of Great Britain (Robert Galland, UK)

世界切手展 LONDON 2022 日本からの参加作品（4点）

部門	作品名称	作品オーナー	賞
文献（単行本）	日本普通切手専門カタログ Vol.1, Vol.2, Vol.3	日本郵趣協会	V(81)
	Gems On Paper	正田幸弘	B(63)
	Modernest Stamp	山崎太郎	SB(66)
文献（デジタルメディア）	Stampedia（ホームページ）	スタンペディア	S(74)

HELVETIA 2022 日本からの出品まとめ

HELVETIA 2022 日本コミッショナー 吉田 敬

2022年5月18-22日にスイス・ルガーノ市で開催が予定されている HELVETIA 2022 は、日本人が切手コレクションで参加できる世界切手展としては、2019年6月に開催された CHINA 2019（中国・武漢市開催）以来の開催となります。

皆さまご承知の通り、COVID-19 感染症の流行に加えて、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻により、欧州の緊張は高まっています。無事開催されるか、開催されるとして日本から渡航できるかについては心配な点も多々ありますが、幸い私がコミッショナーをつとめていますので、事前情報の収集になるべく力を入れると共に、出品者のみなさまに十分な情報提供を行い、できる限りの準備をした上で渡航に備えたいと考えています（下に飛行ルートの before/after を掲示します）。

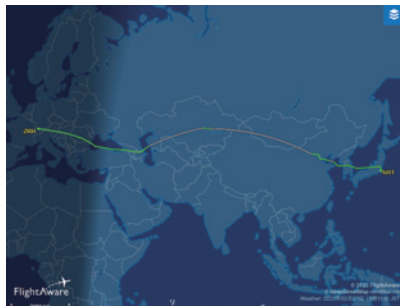
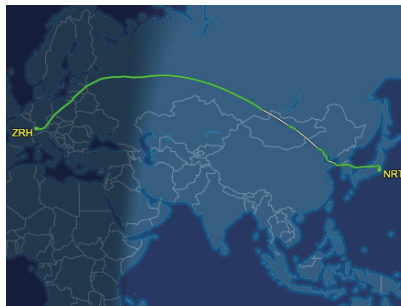
本展覧会競争部門に展示される日本人のコレクションは8作品ですが、その内4作品は過去の国際展で大金銀賞以上を獲得したレベルの高い作品で、本展覧会では8フレームを割り当てられています。その全4作品に加えて初出品の2作品について、出品者による作品解説記事が集まりました。

また、日本コミッショナーの吉田は、同展覧会に寄付をしている事から、非競争のワンフレーム作品の展示の依頼を受けましたので、その1作品を含む7作品を次ページより紹介します。

日本からの競争展示予定作品（文献部門を除く）

Class	Exhibit Title	F	Name
伝統郵趣（スイス）	Switzerland postage due stamps 1883 - 1910	5	Ariyoshi Nobuto
伝統郵趣（スイス）	Classic Switzerland	8	Yoshida Takashi
伝統郵趣（欧州）	Lombardy Venetia the 1850 Issue	5	Saito Tamaki
伝統郵趣（その他）	Japan Chrysanthemum Stamps 1899-1910	5	Kato Shigeki
伝統郵趣（その他）	Ryukyu Dollar Currency Conversion Provisional Series	5	Kido Yusuke
郵便史（その他）	Indian Campaigns	8	Koiwa Akihiko
ステーションナリー	The Japanese Foreign Mail Postcards	8	Ando Gensei
ステーションナリー	Hawaiian Postal Stationery	8	Yamazaki Fumio

展示作品は現時点の予定であり変更の可能性があります。



日本・スイス間の飛行ルート ロシアのウクライナへの軍事侵攻前（左）と後（右）

世界切手展 HELVETIA 2022

Switzerland postage due stamps 1883-1910

スイス不足料切手 1883-1910

作品番号 No. 2A-02

伝統郵趣部門 (5 フレーム)

出品者：有吉伸人

スイス不足料切手第2シリーズの伝統郵趣コレクションです。去年、全日展に初出品し望外のLVをいただいたのですが、サブコレクションとして収集を始めてまだ日が浅く、とても「競争展出品作品です！」と胸を張れる立派なものではありません。

そんな拙作ですが、スイスで久しぶりに国際展が開催されると聞き、ダメ元で応募してみたら、なぜか、伝統郵趣のナショナルクラスでアクセプトされるという奇跡のような幸運に恵まれました。

このクラスの出品は10作品で、スイスのコレクターが6人、それ以外はデンマークの人とハッカメイと吉田さんと私。

オリンピックに小学生が参加しているような気分ですが、スイスの不足料を郵便史ではなく伝統郵趣にまとめた作品は本国でもなかなか無いようなので、どんな受け止めをされるか、興味津々！現在も鋭意、リーフ作成中です。全日展は発行順に展示したのですが、様々なご指摘を参考に今回は額面順の展示とし、改善に取り組んでいます。

このシリーズの面白さはとにかく製造面の豊かさにあります。シェードとすかしの組み合わせで26の版があり（外見上識別できる版は10）、そのすべてに枠の向きの通常版（N）と上下の反転版（K）があります。

額面の数字が欠けていたり、位置がずれていたりというバラエティも豊富なおうえに、26のうち13の版にはタイプⅠとタイプⅡが存在する（図A参照）という変化に富んだ興味深いシリーズなのです。

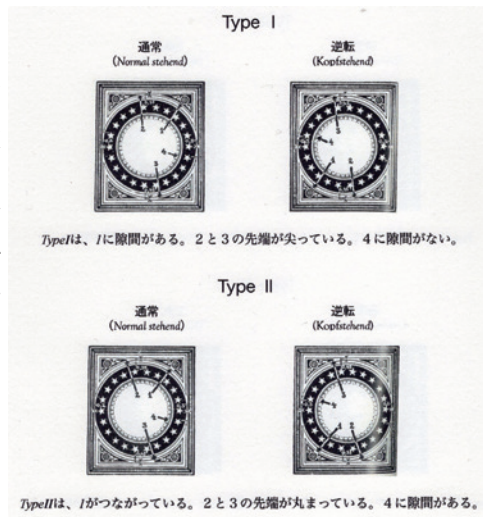


図 A

ただ、タイプⅠは全体の0.5%と極端に少なく、オークションにもなかなか出てこない難物であることが集め始めてわかりました。画像1は最近ようやく入手出来た1C t sのタイプⅠのカバーです。

1C t sは第1フレームを飾るのでどうしても欲しい使用例でした。なかなか見つからず半ばあきらめかけていたのですが、切手展への出品を決めるとなぜかキーマテリアルがオークションに登場するという「切手展あるある」が今回も繰り返されました。

ここが勝負所と清水の舞台から飛び降りる覚悟でビッドしました！というのは冗談で、高い最低値で早々に諦めていたら、UNSOLDになり、アンダービッドの交渉の末、目でたく拙作品に仲間入りしてくれたラッキーマテリアルなのです。(郵趣の神様に感謝！)



画像1 1C TypeⅠの使用例

不足料切手は使用例の面白さも大きな魅力ですよね。特に外信便は変化に富み、見た目も派手で競争展向きかもしれません。

欧州の近隣諸国以外の国からの外信便をどれだけ入れることができるかも大事なポイントかと思ひ、意識的に集めようとしているのですが、こちらも本当にモノがありません（涙）。なんとか入手がなかったものをいくつか紹介します。画像2はグアテマラからの外信便、画像3は日本からの私製葉書です。この時期、私製葉書は書状扱いであったため、不足料が発生しました。



画像2 グアテマラからのインカミング



画像3 日本からのインカミング

画像4はちょっと面白い使用例で、貼り付け切手が有効性を持たない Canton of Bern の財政切手だったため無効扱いとなり、不足料が発生したカバーです。スイス不足料ならではの使用例であります。



画像 4

つっこみどころ満載のよちよち歩きの作品ですが、本国スイスのフィラテリストの皆さんはどう受け止めてくださるでしょうか。ドキドキしながら、英文リーフと格闘を続けています。

Postage Due
1883-1910

Switzerland

10 Cts.

Printing Ga
light olive



Printing Gb
dark olive

Type I

Type II



Jan.19.1899 (25th edition) Mar.18.1901 (26th edition) May 8.1902 (27th edition) N:K=1:1

Printing Gc

olive with marginal ridge



Feb.16.1903 (28th edition)
Jun.8.1904 (29th edition)
Jun.16.1905 (30th edition)
Nov.16.1906 (31st edition)
N:K=58:42

Shifted numerals

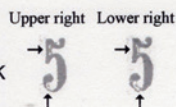
Postage Due
1883-1910

Switzerland

500 Cts.

Printing Da

light green



The "5" on the stamps in the right column are chipped.



Perforation is out of alignment



Shifted numeral

N	N
N	N

Oct. 7. 1889
(16th edition)
Mar. 2. 1891
(17th edition)
Kz.I N:K=3:1



Shifted numeral



Perforation is out of alignment

世界切手展 HELVETIA 2022

Classic Switzerland

スイス クラシック

作品番号 No. 2A-03

伝統郵趣部門 (8 フレーム)

出品者：吉田敬

メインコレクションのスイスを国際競争切手展に出品するのは、8年ぶりになります。インポートは誰もが認める10点満点のテーマで、2014年時点で既に相当お金を費やして形成したコレクションでしたが、私のコレクションの中での評価を冷静に見ると、「プロイセン（最高点96, LG）」はもちろん「富士鹿・風景（最高点90, G）」や「Stampedia Philatelic Journal（最高点90, G）」に国際展での評価という点では敵わない四番手というのが現実です。

	Tr	Im	Kn	Ra	Pr	合計
Thailand 2013	16/20	10/10	30/35	26/30	3/5	85/100
PHILA KOREA 2014	26/30		32/35	25/30	4/5	87/100

当時は、「外国切手出品者の会」という国際展での飛躍を真剣に考える会が活発に活動していた時期で、私も他のメンバーの役に立つように恥を覚悟でクリティーク内容を公開しており、今でも自分のメールフォルダ内で確認することができます。当時は努めて冷静に書いたつもりでしたが、言い訳の多いダメな出品者だったなあ、とビターな気持ちで今は眺めています。

今となっては、作品がなぜ減点されるかよく理解できますし、当時の自分に適切なアドバイスをできると思います。それもこれも、PHILAKOREA 2014の結果が大金銀賞にとどまり、これではダメだと思い、競争展ルールの勉強を始めたからだと思います。そう考えると、2014年の作品程度で金賞がつかなかったのは、回り道ではあったものの、むしろ良かったと思うようになりました。

今ふと思うのは、「どうして一度も『スイスクラシック収集を断念しよう』と思わなかったのだろう」ということです。単に良い賞が取りたいだけであれば、収集テーマをスイッチすることで、いくらでも候補はあったからです。

実際、大金賞を獲得したクラシック伝統 / 郵便史コレクションをプライベートで持ちかけられたことは10回近くあると思いますし、その値段は思ったより安いものでした。でも、それにお金を費やすくらいなら、自分なりのやり方で、スイスを極めたいという気持ちの方が強かった理由は、何度も旅行したことでスイスという国が大好きになってしまったからという単純なものでした。

それでは次ページから、この8年間の増強戦術を大きく3つに分けて紹介します。

戦術 1 物量を増やす。PHILA KOREA 2014 のクリティークでは「物量が少ない。」「blankだらけ」と指摘され、Treatment と Presentation の減点につながりました。これは同ジャンルのトップコレクションが2つ並ぶという不運も原因でした。この評価を覆さない限り、G は難しいだろうと考え、相対的に安価な連邦移行後の切手を中心に物量を増やすようにしました。

Stone D

Swiss Classic

32% of the RAYON II stamps were produced by this stone, according to "Bestimmung der Drucksteine"

Unused Block

The Largest Multiple



DRU - 9/18



DLO - 3/35
mint with
original gum

Red Cancelled Diagonal Bisect



DLO - 35 franked with adiagonal bisected DLO - 26,
 tied by red grilled and pen cancellation with a double ring c.d.s on the back
 Letter part sent to Concise Sep. 1st, 1854, used just before the Strubel's take over on Sep. 15th, 1854.
 15 Rp. correctly paid for registered RAYON II letter, 10 for RAYON II and 5 for registration fee.

戦術 2 各フレームに WOW! マテリアルを展示する。「Importance 10 の国の場合、国際オークションに出品されることも多く、上級の審査員であれば目も肥えているので、見たら思わず『WOW!』と言ってしまいそうな珍品をいたるところに散りばめる努力をしないと G に至らない」とのアドバイスに従い、マルチプルや初期使用例、貴重な状態の良い未使用の入手に、この 8 年間は努めました。

Rayon III

Small 15 Rappen

Swiss Classic

Jan. 1st, 1852

A revision of the present postal rates was announced on Aug. 25th, 1851, considering the introduction of the new monetary system on Jan. 1st, 1852.

A new series of stamps were prepared in München, but as the first supply could not be printed in time, it was decided (1) to continue to sell the stamps of 5 and 10 Rp. at the new values of 5 and 10 centimes from Jan. 1st, 1852. (2) A new denomination of 15 Rp. stamp to be specially designed for RAYON III rate.

Ten types were transferred into the second die of new 15 Rp. stamp from the 2nd and 3rd vertical rows of ORTSPOST plate, with the inscriptions being replaced and e.t.c.

This second die was transferred 18 times into the lithographic printing plate and was printed only in red on white paper and cut into nine sheets of 20 stamps finally.



URI-7

mint with original gum

The Earliest Usage of All the RAYON III issues
Only Two Known



???-6 tied by black gridded with a red cds beside
ZÜRICH TO OBERUTZWYL, 2 JAN 52 NACHMIT

戦術 3 最初の3フレームのインパクト 佐藤浩一氏のスタンペックスジャパン審査委員長講演で、作品の印象を大きく決めるのは最初の3フレームで、そこが貧弱だと残りが良くても取り戻せない、という話がありました。そこで第1-3フレームにも力を入れました。Gを確実に水準にあげた上で、World Rarityのマテリアルの入手を会期直前まで狙います。

Zürich 4 Rappen, vertical background lines Swiss Classic

Intermediate die containing five types were transferred 20 times into printing plate.

Type I



Type II



Type IV



Unused with gum
ex-Ferrari, Burras

Type V



The shades of the above two type IV stamps are different.
One is with gum, and the other without.

Gum was often removed in the history of Swiss Philately to prevent influencing the surface looking badly.

Only several unused Zürich 4 have a full original gum.

Zürich 4 Rappen, horizontal background lines Swiss Classic

Red background lines became printed horizontally instead of vertically after 1846.

Five Type Varieties

Type I **Type II** **Type III** **Type IV** **Type V**







ex-Ferrari

The number of production of ZÜRICH 4 with horizontal background lines is thought to be 14,800, out of 35,800 for all ZÜRICH 4.

This total amount is almost 20 % of that of ZÜRICH 6, and only several examples are survived in unused condition for each type of Zürich 4.

Only One Recorded Unused Plate Flaw "A Hook in 4"



pos.70

Required, 1 mm square upper right margin was added.



(300%)

No.16 Zürich 6 Rappen, vertical background lines Swiss Classic

In present forgeries, the first stamps of Zürich were printed in bi-color; black for main design and red lines printed slightly on all over the 100 stamps including margins, vertically at first and horizontally after mid-1846.

Sometimes there comes stamps without any red background lines in philatelic market, which had been thought as "faded stamps", however, some of those stamps without red lines are in fresh condition as shown in this page.

As a result of this finding, single colored stamp with no background lines are believed to be issued as the other issue.

The Largest Multiple of Type III-IV-V



Pos.13/15 and a part of Pos. 16

Type I **Type II** **Type III** **Type IV**






Pos. 41 Pos. 87 Pos. 38 Pos. 99

Only A Few Known Cover



Pos. 57 tied by red Zürich rosette with a double ring c.d.s. in red beside ZÜRICH to Winterthur, 2 JAN 1848 NACHMITTAG

Zürich Horizontal background lines Swiss Classic

Red background lines became printed horizontally instead of vertically after 1846.

Although no document was found, it seemed red background lines became printed horizontally instead of vertically in early 1846. The earliest date recorded on used Zürich 6 is February 6th, 1846, and March 6th for Zürich 4.

Right Marginal Strip Showing Clear Horizontal Lines
Only Four Marginal Strips Are Recorded



Pos.66/70 The right margin shows the printed horizontal red lines do not reach the edge of the paper.
ex- Alfred E. Lichtenstein

Right Marginal Stamp Showing Red horizontal Background Lines



Pos.10 with 5 mm sheet margin
Black Zürich Rosette

The Earliest Known Usage at a Rural Post Office



Pos.57 cancelled by black Zürich rosette with a pre-philatelic double ring c.d.s. beside FELDRACH to Manno-dorf, 22 MARS 1846

Several letters franking Zürich 6 with horizontal background lines used in February 1846 are recorded, however all of them were sent from Zürich with normal red cancellations.

This is the earliest usage used at a rural post office which also has a pre-philatelic black cancellations.

世界切手展 HELVETIA 2022

Lombardy-Venetia the 1850 Issue

ロンバルディ・ベネチア 1850 年シリーズ

作品番号 No. 2B-17

伝統郵趣部門 (5 フレーム)

出品者: 斎藤 環

ロンバルディ・ベネチア最初のシリーズの伝統郵趣作品ですが、オーストリア本国との合体ではなく、単独での世界展初出品です。基本的には JAPEX 2021 出品作品と同じですが、構成を若干変更: 10 Centesimi を 16 ⇒ 14 リーフ、15 Centesimi を 16 ⇒ 18 リーフにしました。製造面および使用面とも収集対象はオーストリア本国切手とほぼ同じで、各額面とも最初のリーフをサブタイトル頁とし、上半部に紙 (手すき紙と機械すき紙)・タイプ・版ごとの展示構成および希少度ランキングを示しました。以下、色調の変化も採り入れて出現順に展開、そこに使用例を加えて展示します。

展示プランおよび注目マテリアル

- P1) タイトル頁: 作品解説およびブルーフ (オーストリア帝国の紋章を描く)
- P2) 発行初日使用例: 45 Centesimi 使用済と 15 Centesimi 初日カバー
- P3) オーストリア Kreuzer 額面切手のロンバルディ・ベネチア使用例
 - 5 Centesimi: 初期印刷イエローと 10 Centesimi および 30 Centesimi との 3 色貼カバー (P4-16) 使用済 6 枚ブロック
 - 10 Centesimi: 機械すき紙とオーストリア 1 Kreuzer 機械すき紙との混貼・オーストリア使用 (P17-30) オンピース、機械すき紙 3 枚貼 販売停止後の 1858 年 11 月使用例
 - 15 Centesimi: オーストリア 3 Kreuzer との混貼・ロンバルディ・ベネチア使用のオンピース (P31-48) オーストリア 6 Kreuzer との混貼・ロンバルディ・ベネチア使用のカバー
 - 30 Centesimi: オーストリア 3 Kreuzer との混貼・オーストリア使用のカバー (P49-64) 1858 年 11 月 1 日発行 5 Soldi との混貼オンピース
 - 45 Centesimi: オーストリア・ウィーン使用カバー (P65-78) 機械すき紙 6 枚貼 6 倍重量便カバー
- 郵便使用目的の偽造切手: “Verona” 30 Centesimi と本物 15 Centesimi との混貼オンピース (P79-80) “Milano” 15 Centesimi 出現日 1857.12.14 使用のカバー

ロンバルディ・ベネチアとオーストリア間郵便は国内扱い、さらに両国一体のかたちで、外国郵便条約を結んでいました。とくにジャーマンおよびイタリアン・ステーツ諸国とは、お互い国内料金扱い送達の条約を締結していました。欧州では、オーストリアのみならず郵便史作品の出品が盛んで、伝統郵趣作品においても使用例のウェイトが高まる傾向にあり、上記の注目マテリアルは賞を競う切手展で審査員が理解しやすいデマンディング・アイテムです。しかし伝統郵趣は、製造面の収集対象での基本的なマテリアルを皆押さえることがベースですので、両者相まって拙作が息の長いライフワークであることをご理解いただけたら幸いです。

P2) 発行初日使用例

オーストリアおよびロンバルディ・ベネチアとも、1850年6月1日の切手発行と使用とがスムーズになされ相当数の初日使用例が現存しますが、ロンバルディ・ベネチアの初日カバーは難物で、15 Centesimi 以外の額面は望めません。

Lombardy-Venetia

Use of the First Day of Issue / 1. June 1850

45 Centesimi Handmade paper Type I Plate 1 Light Bule First Printing



Milano 1.6.(1850)

The postmark of Milan: Sassone "SD (1)" was used from 1 to 23.6.1850.

15 Centesimi Handmade paper Type I Plate 1 Red First Printing
Letter up to 10 Miles, 15 Centesimi Rate

Arrival Marking) "PADOVA 1.GIU." and Control Marking "C"



Route) Carried from Venezia 1.6.1850 to Padova 1.6 with Control Marking "C"

The color of "VENEZIA 1. GIU." is bluish gray, used only June 1850.

Control Marking "C" used at Padova, Indicates check of rate

P65) 45 Centesimi サブタイトル頁

上半部に展示構成および紙・タイプ・版ごとの希少度ランキングを示しました。後者は 1976 年刊行の専門カタログにあったものを参考に、自身の収集経験に基づいて作りました。45 Centesimi の未使用は難物で、これの有無が賞を競う切手展では問われます。

Lombardy-Venetia

45 Centesimi

Exhibition Plan

Based upon Ferchenbauer		Based upon Huber / Wassely		Pages
Paper	Types	Plates	Issue	
Handmade	I	1	1.6.1850	65~71
	II	2	2.1852	72,73
	III	3	3.1855	74,75
Machine-made	III	-	9.1856	76~78

Degree of Types and Plates in All Face Values

← Difficult to get					Easy to get →				
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
			HP/II/2	HP/I/1	MP/III	HP/III/3,4			

Handmade Paper Type I Plate I

Light Blue



Tips of Cross



First Printing

Blue Used at Monza in Blue



9.6.(1850)

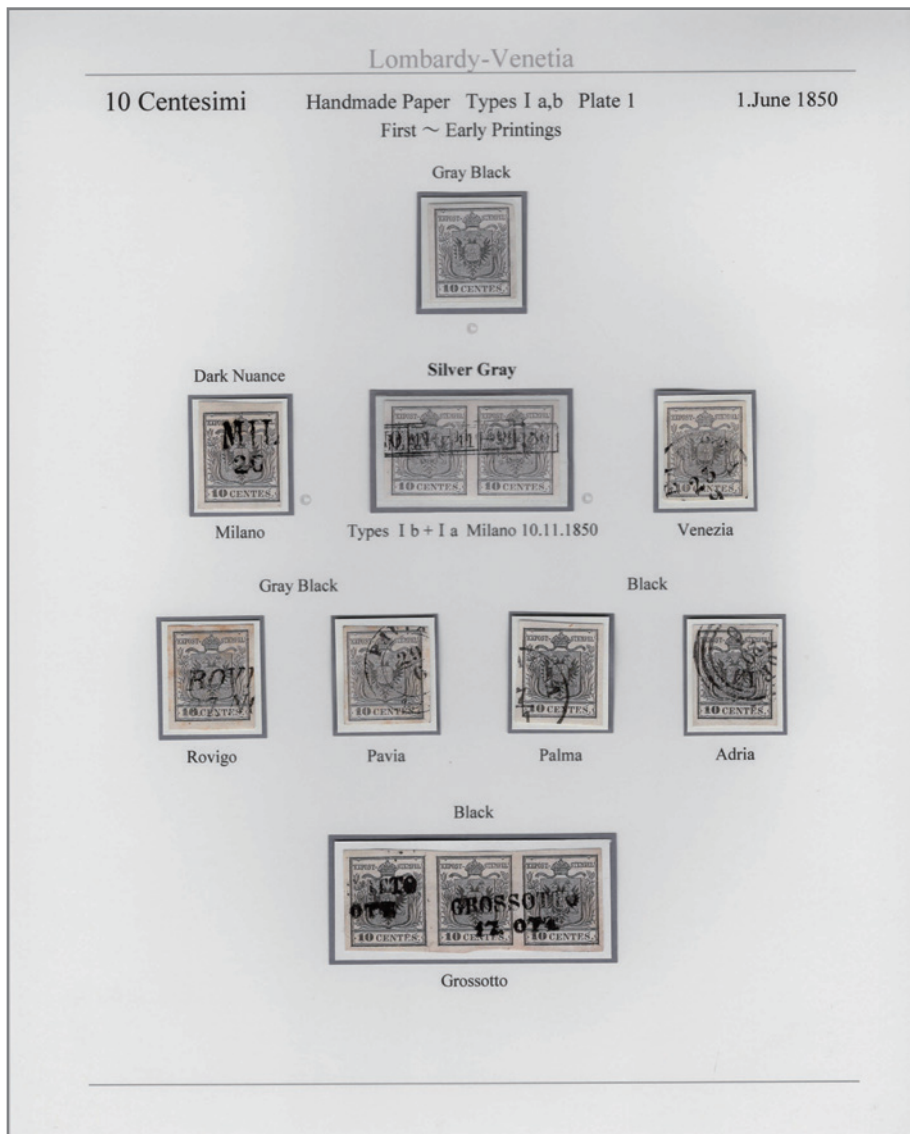
Blue White Thin Paper



Milano 19.6.(1850)

P18) 10 Centesimi 初期印刷

手すき紙・タイプI・第1版 初期印刷のリーフです。この切手の刷色は黒ですが、初期印刷ではグレーを入れた試行錯誤がありました。2段目のシルバーグレーはポピュラーな存在です。



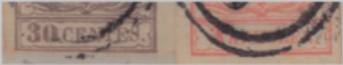
P58) 30 Centesimi オーストリア 3 Kreuzer との混貼・オーストリア使用のカバー

Centesimi 額面切手のオーストリアへの持込み使用は終始認められていたのですが、Centesimi 通貨の実効レートがオーストリア Kreuzer より高かったため、実際の使用例は希少です。この混貼カバーは当時オーストリアだったトリエステ使用、隣国のモデナ公国宛てという魅力的アイテムです。

Lombardy-Venetia

30 Centesimi Handmade Paper Type III Plate 2 Apr.1853

Mixed Franking
with 3 Kreuzer Handmade Paper Type III Plate 3
 Foreign Letter from Trieste to Modena, 9 Kreuzer Rate





The Arrival Marking on Back Side



Modena 9. Mar. (18)54

3 Kreuzer Handmade Paper Type III Plate 3

Route) from Trieste	7. 3. 1854
to Modena	9. 3. 1854

The rates between Austria (incl. Lombardy-Venetia) and Modena were treated as domestic ones by Oesterreichisch-Italienischerand Post-Verein since 1.6.1852.

Centesimi stamps were permitted to use in Austria throughout. However Lira / Centesimi currency was more valuable than Gulden / Kreuzer, so they were hard to frank Centesimi stamps on letter and post in Austria.

On the other hand Kreuzer stamps were easy to use in Lombardy-Venetia, but they were prohibited to use 7.5.1851. by Austrian Post.

P79) 郵便使用目的の偽造切手 “Verona” および “Milano”

メインナンバー 5 種は国際展には有って当たり前のアイテムですが、“Verona” 30 Centesimi と本物 15 Centesimi との混貼は珍品。ユニークではありませんが、見栄えの良いショウピースです。

Lombardy-Venetia

Postal Forgeries

The Centesimi stamps have two different kinds of postal forgeries, so called “Verona” with the values of 15 and 30 Centesimi 1853, and so-called “Milano” with 15, 30 and 45 Centesimi 1857.

“Verona”



Vicenza 10.9.(1853)

Apr.1853



Verona 27.4.(1853)

“Verona” 30 Centesimi

Mixed Franking with 15 Centesimi Genuine Stamp



© ex Jerger

15 Centesimi

Handmade Paper Type III



Treviso 15.7.(1853)



Compare printing surface of “CENTES.”

“Milano”

Nov.1857

Type I



Milano 6.4.(1858)

Type II



Milano 30.12.(1857)

Type VI



Milano 6.5.(1858)

世界切手展 HELVETIA 2022

Indian Campaigns

インドの軍事郵便

作品番号 No. 3D-06

郵便史部門 (8 フレーム)

出品者: 小岩 明彦

1 出品作品の紹介

本作品は、本誌第 32 号 (2021 年秋号) でご紹介しましたように、インド亜大陸及びそれ以外の地域に派遣された英領インド軍 (1858 年までの東インド会社の軍隊を含む。以下「インド軍」と言います。) の軍事郵便の郵便史作品です。

展示された軍事郵便のなかには、第 2 次～第 4 次マイソール戦争、第 2 次・第 3 次マラータ戦争、第 1 次・第 2 次シーク戦争、第 1 次～第 3 次ビルマ戦争、第 1 次・第 2 次アフガン戦争、アヘン戦争、アロー号戦争、エジプトのオラビー・パシャの反乱、義和団の乱のように、高校の世界史の教科書にも出てくるような有名かつ大規模な戦争の際に使用された軍事郵便が含まれております。

さらに、数百人規模の兵力がごく短期間派遣された際に使用されたものなども含まれます。それに加えて、インド大反乱 (セポイの反乱) のような兵乱や、ロシア軍の侵入に備えて配置されたものの戦争には至らなかった軍事行動なども対象としておりますので、その際に使用されたものも含まれております。

当時イギリスは世界の超大国で、イギリスのインド軍は、イギリスのアジアやアフリカ東部などにおける勢力拡大に大きな役割を果たしましたので、本作品はインドがイギリスの勢力圏となる様子やアジアやアフリカの各地に派遣された様子を表現するものとなっております。

作品の構成は 7 章立てで、第 1 章は東インド会社時代にいわゆる「インド」で使用された軍事郵便、第 2 章が東インド会社時代に「インド」から離れた遠征先で使用された軍事郵便、第 3 章はインドがイギリスにより直接統治される契機となったインド大反乱から帝国となるまでの間に使用された軍事郵便です。第 4 章以降はヴィクトリア女王のインド皇帝となった後の 1878 年以降について方面別に軍事郵便をまとめたものとなっており、第 4 章は英領インド、第 5 章はアフガニスタン方面、第 6 章はエジプト・スーダン方面、第 7 章はビルマ方面です。それぞれの章では、基本的に時系列にしたがってエンタイアを展開させております。

郵便史の主要三要素のうち最も力を入れたのは消印で、野戦局や基地局など軍事局で消印の押されたものに加え、非軍事の郵便局や外国郵政の郵便局で消印の押されたものも対象としております。消印以外にも料金やルートを明示するよう努めました。

INDIAN CAMPAIGNS 1780~1896

Purpose: This exhibit shows postal services offered to members of Indian force in Indian Sub-Continent and other places of the world during the period when Great Britain expanded its dominance in India.

Background: Indian Force was originally armed guards of the British East India Company, but it was converted to the fighting force in late 18th Century. Since then, it was involved in many campaigns in various places of Indian Sub-Continent, South East Asia, Persia, Aden, East Coast of Africa and China.

From early stage, Indian military postal services were quickly mobilized when the events started. After Persia Field Force 1856-1858, cancellations of military post office were used. Sometimes, mails were not sent through Indian military postal service. Then, Indian civil postal services or other systems were used. The literacy level of the soldiers was very low and most of the smaller campaigns were very short lived. Therefore, surviving Indian campaign mails are generally very scarce to very rare.

Structure: This exhibit is a specialized postal history collection to include various postal services offered to officers, soldiers and clerks of Army or Navy in the areas of Indian campaigns. Campaign mails used between 1780 and 1896 are included, i.e., from the beginning of the war to acquire territory of British East India Company to the end of delimitation owing to Durand Line. This exhibit is arranged into nine chapters consisted of about seventy campaigns, principally in chronological order.

In this exhibit, the word "campaign" means not only war but also conflict without a declaration of war, for example, Indian Mutiny 1857-1859; and the mobilization of force neither with a declaration of war nor even a battle. This exhibit includes usages sent through Indian civil postal service or sent through foreign postal service. Markings are focused mainly, but also rates and routes were described.

Plan:

Frame	Chapter	Frame	Chapter
1-2	I) Unification of India 1780-1852	5	IV) Frontier Expeditions 1878-1896
2-3	II) External Expeditions under East India Company 1795-1859	6	V) Securing Influence in Afghanistan 1878-1886
		7	VI) Occupation of Egypt and Sudan 1882-1896
4	III) Indian Mutiny and Prelude to Empire 1857-1877	8	VII) Annexation of Burma 1885-1894

Highlights: In addition to the following usages, many unique known usages of 'small-wars' are included.

- One of three known 1824-26 1st Burmese War Soldier's Letters. (Chapter II)
- Unique known 1831-32 Naning War letter. (Chapter II)
- Unique known 1852-54 2nd Burmese War letter used during battle before campaign. (Chapter II)
- One of four known 1856-1858 Persian Field Force covers franked Imperforate 2 Annas. (Chapter II)
- One of two known 1857-1859 Indian Mutiny Army Soldier's letters franked G.B. Penny Red cancelled at Indian civil post office. (Chapter III)
- Unique known 1867-1868 Abyssinian Field Force double rate via Marseilles cover. (Chapter III)
- One of five known India-Afghan combination usages cancelled at India F.P.O. (Chapter V)
- Unique known 1885-87 3rd Burmese War cover cancelled by Single Ring of F.P.O. No.3. (Chapter VII)

References:

- *The London Philatelist*; RPSL
- *India Post*; India Study Circle for Philately
- *Signet*; Philatelic Congress of India
- *History of the Indian Army Postal Service Volume I 1854-1913*; E.W.Proud
- *Catalogue of The Handstuck Postage of India & its Supplements*; D.H.Giles
- *Penny Red Stars Used Abroad*, 8th Edition; M.Batty
- *The Postal History of Ceylon 1795-1857*; G.F.Oxley
- *Nineteenth Century Wars in Egypt and the Sudan*; J.Firebrace
- 'Cover Census of the Indian Forces in the 1882 Campaign in Egypt'; *Circular of Egypt Study Circle*; R.Wilson
- 'The Military Mail through Indian F.P.O. in Egypt in 1882'; *A Collection of Philatelic Articles in Commemoration of the 60th Anniversary of Kitte Kenkyukai*; A.Koiwa
- *The Postal History of Burma*; E.W.Proud
- *Burma Postal History*; G.Davis & D.Martin
- 'Military Mails of Daffa Blockade and Daffa Field Force 1873-1875'; *Stampedia Philatelic Journal 2016*; A.Koiwa

2 今回の見直し内容

本作品は FIP フィラニッポン 2001 で大金銀賞を受賞、FIP ワシントン 2006 で金賞を受賞した後、FIP フィラニッポン 2011 で大金賞、FIAP 香港 2015 で大金賞・インターナショナルグランプリ、FIP 中国 2019 では金賞、FIAP フィラニッポン 2021 で大金賞を受賞しました。

本稿を執筆している 1 月 29 日現在ではまだこれからの段階ですが、2 月開催の FIP ロンドン 2022 にも出品予定です。3 月から 4 月の FIP ハンフレックス 2022 への日本人の出品はキャンセルとなりましたので、FIP ヘルヴェティア 2022 も含め、日本人が出品できる国際展には 3 回連続で同じ作品を出品することとなりました。ただし、ロンドン 2022 については日本からの出品分が公式記録として残るかということに関しては難しいようですので、公式の受賞記録としては 2 回連続ということになるかもしれません。

以上のように 2021 年 8 月から 2022 年 5 月まで 1 年足らずの間に 3 回出品することになりましたが、このペースは数年間で一度ほどの出品であった私には考えられないようなショートスパンでの出品です。

これだけ短期間で連続出品となったのは、本作品を国際展競争部門に出品できる期間が残り少なくなったためです。そのような状況ではありますが、ただ漫然と出品することではいけませんので、できるだけ改善して競争部門への出品をしたいと考えております。

2 月のロンドン 2022 から 5 月のヘルヴェティア 2022 の間はあまりに間隔が短すぎるため大幅な改善は難しいのではないかと考えておりますが、フィラニッポン 2021 の出品作品からは大幅な修正を加えてあります。

主な修正内容を挙げると、フィラニッポンでは 1780 年から 1900 年までを対象期間としていたところ、ロンドン 2022、ヘルヴェティア 2022 では 1780 年から 1896 年までを対象期間とすることとしたことです。期間を短くした理由は、本誌第 32 号（2021 年秋号）で記しましたとおり、本作品の対象期間が FIP の郵便史作品評価の特別規則（SREV）に定められた一般的な期間よりも少し後ろに長いからです。

カットするのは僅か 4 年間と言っても想定どおり影響は大きく、18 リーフをカットせざるを得ませんでした。カットの主な対象は 1897 年から 1900 年までのアフリカと中国における蜂起を対象とした最後の章ですが、そのなかには本作品でもかなり有力な義和団の乱関係の軍事郵便も含まれておりましたので、思い切った決断となりました。

悩みながらも 18 リーフをカットすることによって新たにスペースをつくり出した結果、1 章ごとに 1 フレームを基本とする割付けを実現させることができました。具体的には東インド会社のインド亜大陸における軍事行動を対象とした第 1 章と外征を対象とした第 2 章については 2 章については 3 フレームとしたのですが、それ以降の第 3 章から最終章の第 7 章まではそれぞれ 1 章あたり 1 フレームとすることができました。

フィラニッポン 2021 以前は、1 列分はできるだけ同一の章とする程度の配慮しかできませんでしたが、今回の改善により見た目を大きく向上させることができたのではないかと考えております。また、古い時代の部分に厚みを持たせることができるようになったので、全体的な迫力も増したのではないかと考えております。

各リーフの構成や記述等につきましては、フィラニッポン 2021 から採用したスタイルを踏襲しております。現在のスタイルとした理由や変更した内容等につきましては本誌第 32 号（2021 年秋号）をご覧くださいましたら幸いです。

II) EXTERNAL EXPEDITIONS UNDER EAST INDIA COMPANY 1795~1859

INDIAN CAMPAIGNS

II.13) PERSIAN FIELD FORCE 1856~1858

2Annas Rate Paid Officer's Letter Cancelled at F.P.O. to India



(E)B.P.A. Certificate 48,513

Cancelled by Killer Stamp of "131" and Date Stamp of "FIELD FORCE PERSIA/PD" (Bushire : 24/7/1857)

Probably Only Four Known Usages with India IMPERFORATED 2A. Used during Persian Field Force. ¹



Written by Officer who served in the 1st Division.

【Route】

- Bushire—Bombay(10/8/57)
- : EIC Naval Sloop "Lady Canning"

【Rate】 2A. : Inland Letter (½~1Tola)

British force consisted of 4,886 men were sent to Persia from October 1856 to February 1858. Field Force Persia P.O. (No.1) opened at Bushire from 31st December 1856 to 2nd October 1857 and at Kharag Island from October 1857 to 29th February 1858.

【Persian Field Force 1856-1858】



1) Three other letters were illustrated in *INDIAN POSTAL AGENCIES IN THE PERSIAN GULF THE ALAN PARSONS COLLECTION* (10.10.2014) Lot2022 by Spink, *INDIA POSTAL HISTORY / Dr. Soli F. Contractor Collection* (16.12.1999) Lot322 and *British Commonwealth with Important India* (1.1991) Lot996 (Repaid) by Harmers of London. This is the finest of all known covers.

世界切手展 HELVETIA 2022

The Japanese Foreign Mail Postcards

日本の外信葉書

作品番号 No. 4-12

ステーションナリー部門 (8 フレーム)

出品者：安藤 源成

今回の展示は「LONDON 2010」の国際展に出品したものに少し手を加えたもので、大半はそのままです。「切手・葉書は使用されて甦る」を蒐集のモットーにしていますので、この作品も菊切手の消印蒐集から発展したもので未使用には趣を置いていません。通信省時代の「連合はがき」の使用済みを集めようと思って 30 年位前に蒐集を始めましたが未だに監修できていません。残り少ない生涯で完収は不可能です。おそらく誰もできないでしょう。

日本ステーションナリーの大王様と言われる「三・五・六の六銭」は昭和 59 年の金井オークションに登場して以来巡り巡って手許にたどり着きました。(詳しくは天野安治著 わたくしの収集遍歴 外信はがき収集 60 年 を参照ください) その他、難解なものとして富士連合往復はがきの一部と支那字入連合往復はがきの返信の適正使用があります。これ等は未見であり、未収です。

今まで、国内と国外「支那」字入りをチャンボンで展示していましたが、この度は国際カタログに従って「支那」字入りを最後のリーフに纏めました。「支那」だけで 3 リーフ出来れば最高ですが無理です。限られたリーフ数に「何時、何処で、どの様に」使用されたかを全て展示する事はできませんので、特殊取扱されたものに重点を置いて展示しました、一般的なものではできるだけ小局・僻地局に拘りました。

コレクションの整理は全て自分が見て解る様に自己流にリーフを作成しています。切手展で高位な「賞」を得るためのリーフ創りではありません。

還暦を過ぎ国際展の出品資格を得て切手の世界は何処迄有るのか？ 終わるのか？ 一層の事、切手の創始国であり、切手収集の発祥の地である LONDON に出品して大英博物館 (2 回目) に行こうと思い出品した、その後に、残り少ない人生を「海外の著名な美術真館、博物館を巡ってやろう」と思ったのが国際展出品の動機で、以来 4 作品を創って、毎年、各国の主な美術館、博物館を訪れ、海外住まいの知人にも会うことが出来ました。此の事が「切手収集」をしているの最大に収穫でした。

この展示作品はスイスに行きたくて「HELVETIA 2022」にエントリーしましたが高齢と新型コロナの為、行くことを中止しました。まだまだ行きたい所はありますが・・・残念・・・。一刻も早く新型コロナが終結することを願っています。

若いころ日本の切手収集で英語が必要になるとは思ってもいませんでしたので、私の薄学で日本語リーフを展示するために英訳しましたので、不可解な点が多々あると思います。

The Japanese Foreign Mail Postcards

This work was published on November 20, 1877 (Meiji 10), from the first foreign oval postcards of 3/5/6 (commonly known as 3/5/6) to 1912 (Meiji 45). Year 15 kinds of 5 series (including Chinese characters) up to the KARAKUSA postcard (commonly known as KARAKUSA Union) until the Sakura Union postcard is issued on February 16 as an example of use such as erasure stamp, place of use, handling method, etc. I put an emphasis on it.

Japanese foreign mail was founded on January 1, 1875 (Meiji 8), but at that time it was not possible to handle postcards addressed to foreign countries.

At that time, the use of "Foreign mail Postal Cards" was limited between UPU member countries. Japan was admitted to the UPU on June 19, 1877, and from 20th next, the fee for each foreign destination was reduced to the unified fee for member countries, but the postcard was issued on November 20, five months later, be.

Show the applicable fee period and applicable postcard.

Year / month / day	price	Destination country	Issue Year Month Day	Adaptation Postcard
1877. 6. 20.	3-Sen	U.S.A. Shanghai	1877. 11. 20.	KOBAN(oval) 3-Sen
	5-Sen	Via U.S.A. UPU member countries		5-Sen
	6-Sen	Via Hong-Kong. UPU member countries		6-Sen
1879. 8. 1.	3Sen	Via U.S.A. UPU member countries	1879. 6. 30.	KARAKUSA 3-Sen
	2-Sen	U.S.A. CANADA. Shanghai		2-Sen
			1885. 1. 1.	KARAKUSA 2-Sen
				3-Sen
				Each round trip
1897. 10. 1.	2-Sen	Bureau in China (1897.12.31 Up to)	1898. 3. 1.	KARAKUSA 2-Sen
	4-Sen	UPU member countries (Excluding in China 1897.12.31. Up to)	1912. 2. 16.	4-Sen
				Cherry blossoms 4-Sen
				Each round trip
1922. 1. 1.	8-Sen	UPU member countries	1922. 1. 1.	Mt.FUJI 8-Sen
1925. 10. 1.	5-Sen	UPU member countries	1925. 10. 1	Mt.FUJI 8 to 6 overprints
			1925. 12. 25.	Mt.FUJI 6-Sen
				Each round trip
1837. 4. 1.	10Sen	UPU member countries	1057.4.1.	Himeji castle 10-Sen
				Round trip

The exhibition space for each series was allocated as follows.

P. 2-11	KOBAN(oval)	3-Sen-5-Sen-6-Sen.	p. 77-88	Cherry blossoms 4-Sen, Round trip
12-32	KARAKUSA(Thin paper)	2-Sen-3-Sen Each round trip	89-112	Mt. Fuji 8-Sen to overprints 6-Sen
33-60	KARAKUSA(Thick paper)	2-Sen-3-Sen Each round trip	113-120	Himeji castle 10-Sen, Round trip
61-76	KARAKUSA	4-Sen-4-Sen, Round trip.	121-128	With "China" characters

In the collection world, "postcards" are more modest than "enters" and are usually seen lightly. However, replying to round-trip postcards, registered mail, proof of delivery, etc. are valuable. The first oval-type postcard was issued after the price was set, so the period of use is short and the amount of used postcards is extremely small. In addition, there are few examples of arabesque used overseas, so replies are valuable.

The valuable materials included in this exhibition are shown below.

★ KOBAN(oval)	3-Sen-5-Sen-6-Sen. Already used	P. 4:5-7-8
KOBAN(oval)	6-Sen NAGASAKI→GERMANY	11.
KARAKUSA(Thin paper)	2-Sen (Round trip) Around the world	23
KARAKUSA(Thick paper)	2-Sen REGISTERED YOKOHAMA→LUBECK	42
KARAKUSA(Thick paper)	2-Sen Addition of "KOREA" overprinting chrysanthemum 2 Sen	43
KARAKUSA(Thick paper)	2-Sen(Round trip) REGISTERED KOBE→COLN	46
KARAKUSA(Thick paper)	3-Sen(Round trip) Reply LE HAVRE→KOBE	60
KARAKUSA	4-Sen REGISTERED & AR TOKYO→NEW YORK	63
KARAKUSA	4-Sen(Round trip) Reply BURTON→YOKOHAMA & CHATEAUNEUF→TOKYO	76
Cherry blossoms	4-Sen REGISTERED & AR KOBE→San Francisco	84
Mt. Fuji	8-Sen to overprints 6-Sen Reply GRAVENHAGE→KIOTO	99
Mt. Fuji	6-Sen & 10-Sen Reply	107-112
Himeji castle	10-Sen REGISTERED AZABU(Tokyo)→BUCHAREST & Reply MANILA→NAGOYA	116-120
With "China" characters	KARAKUSA 4-Sen MASSEGE TIENTIN→KAVTSAD	124
With "China" characters	Cherry blossoms 4-Sen REGISTERED PEKING→KAVTSAD:WOLEPZIG	127

※ The color letters in the leaf indicate the s.

The Japanese Foreign Mail Postcards

Issued on Nov.20. 1877

KOBAN(Ova) Type 6 Sen

Relief printed on cream-colored western paper.

JAPAN—EUROPE(Via Hong Kong) Rate : 6 Sen(Jun.20.1879—Jun.30.1892)

Overpaid use of 6 Sen Postcard Rate : 5 Sen

"NAGASAKI" Crossroads obliterator type Cancellation with Early Large Single Circle type.



"NAGASAKI" Sep.18.1878. → Yokohama Sep.22.1878. → San Francisco Oct.11.1878
→ LEIPZIG(Germany).

The sender intended to send a postcard to Germany via Hong Kong route, and paid 6 Sen for it, however the Post office selected U.S.A. route provably because this would have gone faster at that circumstance. A 1 Sen Overpayment of 6 Sen card was thus born.

As for the use example of this postcard, two pieces are confirmed.
It is said that there are two pieces elsewhere, but is not confirmed.

The Japanese Foreign Mail Postcards

Issued on 30.Jun.1879.

Arabesque(Thin paper) 2 Sen

Relief printed on cream colored. Thin western paper

"Paid—Reply"

JAPAN—U.P.U Members Country(Except : U.S.A and Canada) Rete : 3 Sen

With additional 1 Sen UPU Koban stamp.

Around the World Postcard



Message With additional 5 Rin two New Koban stamps.,
HAKODATE Jun.17.1895.→Yokohama JUN.23.19.→Canada—CUERNSEY(England).

Reply With additional 1 Sen UPU Koban stamps.,
CUERNSEY(England) jul.25.1895.→London AUG.9.95.→INDIA→HAKODATE SEP.21.95.

世界切手展 HELVETIA 2022

Hawaiian Postal Stationery

ハワイのステーショナリー

作品番号 No. 4-13

ステーショナリー部門 (8 フレーム)

出品者：山崎 文雄

この作品は 2015 年 Singapore2015 FIP 国際切手展において金賞を受賞した作品を更に発展させた作品であります。その内容については、下記のとおりであります。

ハワイのステーショナリーは切手付封筒と郵便はがきに分けられ分類されております。切手付封筒の方は、1884 年に、ハワイはニューヨーク市の American Bank Note Company を通じて注文された郵便切手封筒を導入しました。1c、2c、4c、5c、10c の 5 種類の切手付封筒が使用されました。

これらの額面は、次の郵便料金を支払うことを目的としていました。投函した郵便局内での配達される国内ドロップレターの場合は 1 セント。投函された郵便局を越えて運ばれるシングルレター (1/2 オンス) の重量の手紙の通常の国内料金の場合は 2c。2 倍重量の国内レターの場合は 4c。北米へのシングルレター重量の手紙の場合は 5 セント。ヨーロッパやその他の遠方の目的地へのシングルレター重量の手紙、または北米への 2 倍の料金の場合は 10 セント。

その後、1c と 2c の額面は 1892 年まで印刷されました。後期印刷のものの違いはフラップの形状で判別ができます。

1893 年に、ヨーロッパへのシングルレターの重量の手紙料金は 5c に引き下げられました (郵便料金 / UPU 期間料金の適用による)。

リリウオカラニ女王が 1893 年 1 月 17 日に解任され、臨時政府が設置された後、当時手元にあった切手付封筒は、政権交代を反映して加刷が施されました。4c 封筒はいずれも在庫がありませんでしたが、他の各額面の封筒は加刷されました。

これらの切手付封筒は、封筒のサイズは 3 種類 (サイズ 5, 6 および 10 の 3 種類)、封筒の使われている紙の厚さ (Thin, Medium および Thick) の 3 種類、フラップの形状 (Rounded と Pointed) の 2 種類の形状があり、分類の対象となっています。

この展示においては、これらの分類を各章、セクション毎に分けて区別を行い、その使用例を示しております。導入部分ではトライアル・カラー・ブルーフなどを配置し、アーカイブスなどを展示しております。また、希少なマテリアルとしては、封筒の内側の部分がブルー (青色) 紙を使用している封筒の使用例、加刷エラー (二重加刷、逆刷) などを含むコレクションとなっております。また、使用例においても、上記の使用例も示す内容となっております。

一方、郵便はがきの方はハワイが万国郵便連合に加盟するかなり前に、加盟国は一方から他方に郵送されたはがきを交換することを許可されていました。

1882年1月1日にハワイがUPUに加わった後、郵便はがきの概念をすぐに採用しました。ハワイ政府はニューヨーク市のAmerican Bank Note Companyに3種類の額面を注文しました。1セント料金はがきは地方および島内間の郵便料金用。米国、カナダ、メキシコ、日本、シンガポール、中国のUPU港、フィリピン宛てのはがきは2セント。ヨーロッパやその他のUPU諸国向けのはがきは3セントでした。郵便はがきは刻印された鋼の型(Engraved)より印刷されました。ホノルルの主要新聞であるPacific Commercial Advertiserは、1882年3月25日に発売を発表しました。これらの郵便はがきは、スコットカタログでUX1、UX2、UX3として掲載されています。

往信用と返信用の往復はがきは1883年に導入されました。これらの往復はがきは、American Bank Note Companyによってリトグラフ印刷され、1cと2cの額面でのみ印刷されました。ルーレットの分離は、折り畳みを容易にするために、2つのはがきの間でハーフカット（つまり、紙を半分ほど貫通）しました（2mmあたり12ルーレットのハーフカット）。UPUの規制により、ユーザーはカードを送る前に、オープンエンドを固定した状態でカードを折りたたむ必要がありました。

1枚のカードは送信者の往信用に設計されました。もう1枚のカードには「REPLY」と書かれており、元の宛先からの返信メッセージ用でした。まだ無傷の「往復」往信用と返信用はがきはいくつか存在し、展開されたミント状態の往信用と返信用はがきが見つかります。多くの場合、往信用はがきまたは返信はがきは相手から分離されており、無傷の未使用の例は折りたたまれていることがわかります。往信用はがきと返信用はがきは、スコットカタログでUY1およびUY2として掲載されています。

往信用葉書と返信用はがきのリトグラフ印刷による再発行は、1889年に新しい色で発行されました。2枚のカードの間にハーフカットのルーレットではなく、連続したハーフカットの折り線で再発行が行われました。再発行はScott UY3およびUY4として掲載されています。

1892年、2cの黒の郵便はがきの供給が枯渇に近づいており、再注文が行われました。受け取った郵便はがきは、Engraved（彫版印刷）ではなくリトグラフで印刷されました（Scott UX2a）。何年もの間、2cのリトグラフ印刷の郵便はがきは認識されず、コレクター1882年からの2cの郵便はがきと同一ものと信じていました。2cのリトグラフ印刷の郵便はがきは、1882年のEngraved印刷の郵便はがきと比較して、その滑らかな感触から識別できます。

3枚の通常の郵便はがきの加刷は、1893年8月頃にホノルルのPress Publishing Companyによって行われました。1c額面の加刷には黒インクが使用され、2cおよび3c額面のはがきには赤インクが使用されました（Scott UX5、UX6およびUX7）。この時点で、まだUPUに加盟していないいくつかの太平洋諸島の目的国を除いて、3c額面の郵便はがきの必要性は認識されていませんでした。1cおよび2cの加刷された郵便はがきはすべて、リトグラフ印刷によるものです。

1894年共和国時代の郵便はがきはデザインが一新され、1cと2cの額面でリトグラフ印刷されました（Scott UX8とUX9）。フレームラインのサイズは131x72.5mmです。1897年には、同じ2枚の郵便はがきが再び印刷されました（Scott UX8aとUX9a）が、フレームサイズはわずかに大きく（132.5x74mm）、新しい印刷の紙色もわずかに異なる色合いで区別することができます。

郵便はがきの部分は発行順に展示し、往復はがきの部分は最終の部分で未使用および使用例を示しております。その使用例はいずれも少ないものであります。今回の展示で特出する部分は往復はがきのUY3の試刷が最近発見され、UPUカラーのスキームにより印刷されたものではないかと推定されております。本事例は2点しか確認されておらず、展示品はその2例目の発見となったマテリアルであります。（120ページ）

それでは今回の展示作品の中で特に注目をして欲しいマテリアルを下記に列記をいたしますので、参観される機会がありましたら、是非、ご覧をいただきたいと思います。

4 ページ 切手付封筒の印面部分のトライアル・カラー・ブルーフです。1 セントは通常は緑色ですが、茶色で印刷されたもの。(現在 2 点しか確認されていないもの) 旧 Gary Peters 氏所有のもの。

2 セントは本来、赤系の色(赤、ピンクなど)の印刷ですが、トライアル・カラー・ブルーフで青色印刷されたもの(鑑定書付き)(現在 1 点のみの確認)

I Stamped Postal Envelopes

- a. Kingdom of Hawaii Issues: 1884 to 1893
- ii. Trial Color Proofs

Trial Color Proofs

Woodblocks were engraved separately for each value and electrotpe dies were made from the woodblocks to form the base for typography printing. Die Proofs were sent to Honolulu for approval. Final design approval is said to have been given on January 31, 1884. Production was sub-contracted to George F. Nesbitt & Co. of New York City. That firm produced the early United States stamped envelopes. The Nesbitt company produced all of the Hawaiian Envelopes/

1c Brown on Thick Wove Paper



Only Two Examples of the 1884 1c Trial Color Die Proof are reported

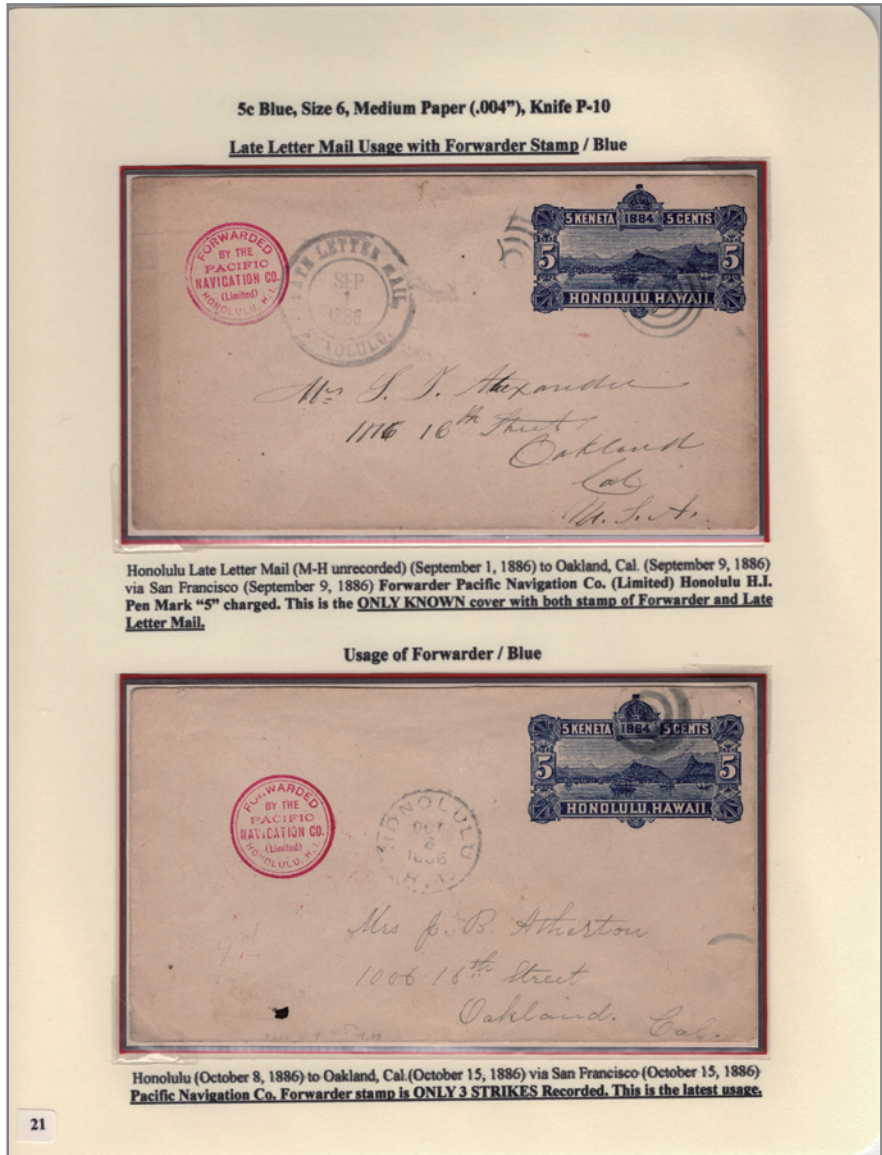
Ex- Gary Peters

2c Blue on India Paper



This Trial Color Proof in Blue is the **Only known example** according to USPP catalogue.

21 ページ 5 セント切手付封筒の使用例サイズ 6, 中間紙使用。上記の使用例はホノルル局 Late Letter Mail の使用例でこの押印されたものは希少で鉛筆書きで上段の部分数字の 5 の記載があり、5 セントが徴された使用例。また、併せて Forwarder の赤印「Forwarded by the Pacific Navigation Co.(Limited)」の印が押されており、この押印は現在 3 点しかその使用例の報告がない。その貴重な使用例となっている。下の 5 セントの切手付封筒はその 2 通目の使用例である。尚、この二重丸印 Late Letter Mail の使用は 1885 年 6 月 15 日～ 1886 年 9 月 1 日までの使用で上記のマテリアルはその最終使用例でもある。



- I Stamped Postal Envelopes
 b. Provisional Government of 1893
 i. Issue of 1893

1c Yellow Green, Size 6, Medium Paper (.004"), Red Overprint, Knife P-11

The 1c envelope paid the postage for local or drop letter mail. A decision to overprint the stamped envelopes was made and on August 15, 1893 all of the envelopes on hand at the Honolulu Post Office or in the Treasury vault were sent for overprinting to the Press Publishing Company in Honolulu. The overprinting was done in carmine or red ink. The overprinted stamps were placed on sale August 28, 1893. As for the 1c envelopes, only yellow green size 6 envelopes with the flaw were overprinted. Issued 16,000.

Mint / Yellow Green

Variety of the overprint,
 some letters and numerals
 missing error



Ex-Honolulu Advertiser and David Golden Collection
Only Four Examples are recorded, and Used Example is never Found

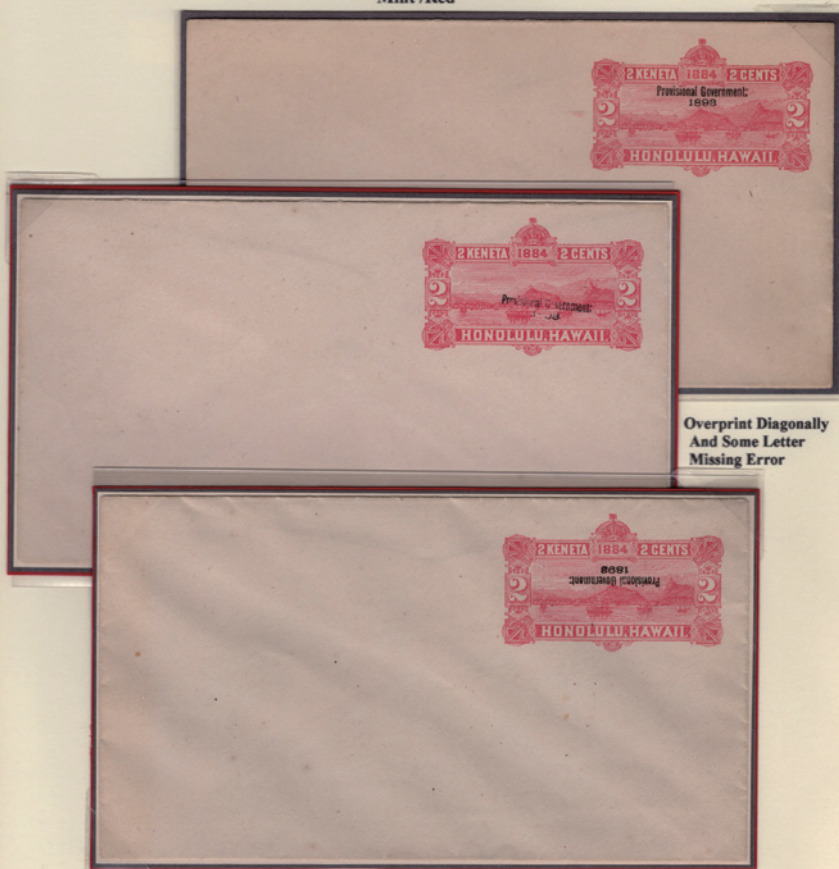
43

43 ページ 1 セント切手付封筒 Provisional Government 1893 赤加刷の二重加刷エラー (下段)
 現在 4 点しか確認されていない。

2c Red (Shade), Size 6, Medium Paper (.004"), Black Overprint, Knife P-11

The 2c envelope paid the inter-island rate for 1/2 ounce letter. A decision to overprint the stamped envelopes was made and on August 15, 1893 all of the envelopes on hand at the Honolulu Post Office or in Treasury vault were sent for overprinting to the Press Publishing Company in Honolulu. The overprinting was done in black. The overprinted stamps were placed on sale August 28, 1893. As for the 2c envelopes, only the size 6 envelopes printed in carmine or red were overprinted. Issued 37,000.

Mint /Red



**Overprint Diagonally
And Some Letter
Missing Error**

Inverted Overprint. Only Known Example, Illustrated in UPSS Catalogue Ex-Karl Haas ©

45

45 ページ 2 セント切手付封筒 Provisional Government 1893 黒加刷の逆刷エラー（下段）
この逆刷エラーは現在この 1 点しか知られていない。

世界切手展 HELVETIA 2022

Early Mails from Switzerland to Japan.

スイスからの日本への初期の郵便物

作品番号 未定

非競争展示（1フレーム）

出品者：吉田敬

HELVETIA2022 は、2018 年 5 月にスイス国内展 NABA2018 に出品した際に友人となった方の多くが主催中心メンバーとなっている切手展です。2018 年当時「秘密の話だけど、数年後にここで世界展をやろうと考えている。スイスでは約半世紀ぶりのことだ!」と聞き、同国切手を収集している身として興奮したことを覚えています。

「彼らが本当に世界展の主催を実現したら寄付をしよう!」と考えていたので、昨年 7 月頃、ホームページでサポータープランが募集されると同時に少額ですが寄付をしました。まだ、全日本郵趣連合からコミッショナー就任の依頼が来る前の事でした。

そうしたところ、今年の 1 月になり、『寄付してくれた人に非競争のワンフレーム展示権利を付与するが展示しないか?』という連絡が来ました。思ってもみないオファーで、一瞬何を展示しようか? 迷いましたが、よくよく考えてみると、開国直後から明治初期にかけてのスイスから日本宛の郵便のコレクションがちょうどワンフレームくらいの分量になってきたなと気づき、それをエントリーさせてもらうことにしました。

とはいえ、色々忙しい中で作品作りを始めるのは、ゴールデンウィークくらいになってからでしょうかね。展示マテリアルの研究自体はだいぶ進めてきているので、作り始めれば早いとは思いますが、コミッショナー業務の準備が COVID-19 対策だけでも大変な上にロシアのウクライナへの軍事侵攻によりさらに煩雑になりましたので、本作品制作の優先順位は下げざるを得ないのが実情です。無事完成したら、フィラテリストマガジン 35 号に全リーフ紹介を掲載させていただくつもりですので、ご関心のある方はお楽しみになさってください。

-1871 First Modern Postal System in Japan

Communication With A Country Having No Relationship with Japan

It was not easy for countries having no relationship or treaty with Japan to communicate with people in Japan.

1863 Incoming Letter from Switzerland



24 APR (18)63, A folded letter from ST. GALLEN to Yokohama via Marseille
1 Fr. 80 c in total tied by double ring cds, with a red exchange postmark of Basel-St. Louis beside
As Switzerland is a landlocked country, the first choice was send mails by French ship.

Marseille
27 Avr 63



The back (80%)

St.Gallen - Zurich
25 IV 63
(train post)

Hong Kong
JU 9 63

スイス→日本、最古のカバー（作品「日本の近代郵便の歴史」より）

2021 年度 第4回 郵博特別切手コレクション展 富士鹿切手発行100年記念切手展 開催報告

(博物館) 2022 年 1 月 4 日～2022 年 1 月 16 日
(クラウド) 2022 年 1 月 4 日～2022 年 1 月 16 日

特定非営利活動法人 郵趣振興協会

万国郵便連合第7回総会（1920年、スペイン）決議を受けて料金改正された国際郵便向けの切手である『富士鹿切手』は、1922年1月1日（大正11年）に発行され、一世紀を迎えました。

郵趣振興の為に設立された当協会では、『富士鹿切手』発行百周年を記念し、富士鹿切手ならびに同目的で発行された風景切手に関する国内の関連コレクションを一堂に展示する切手展を企画し、郵趣家だけでなく一般層の来場機会も多い郵政博物館で開催しました。

COVID-19 感染の第6波が到来したこともあり、期間中の来場者は、825名にとどまりましたが、全期間にわたり行ったクラウド展示は、首都圏以外にお住まいの方はもちろん、首都圏にお住まいでも外出を憚られた方々に「会場に行かなくても全てをゆっくりと見ることができる」と好評でした。



展示作品（予定）

作品名称	F	出品者
富士鹿・風景切手（抜粋）	3	天野 安治
富士鹿・風景切手	8	吉田 敬
富士鹿・風景切手 1922-1940	5	伊藤 純英
風景切手の郵便史	3	杉山 幸比古
富士鹿・風景切手	3	故 横矢 仁

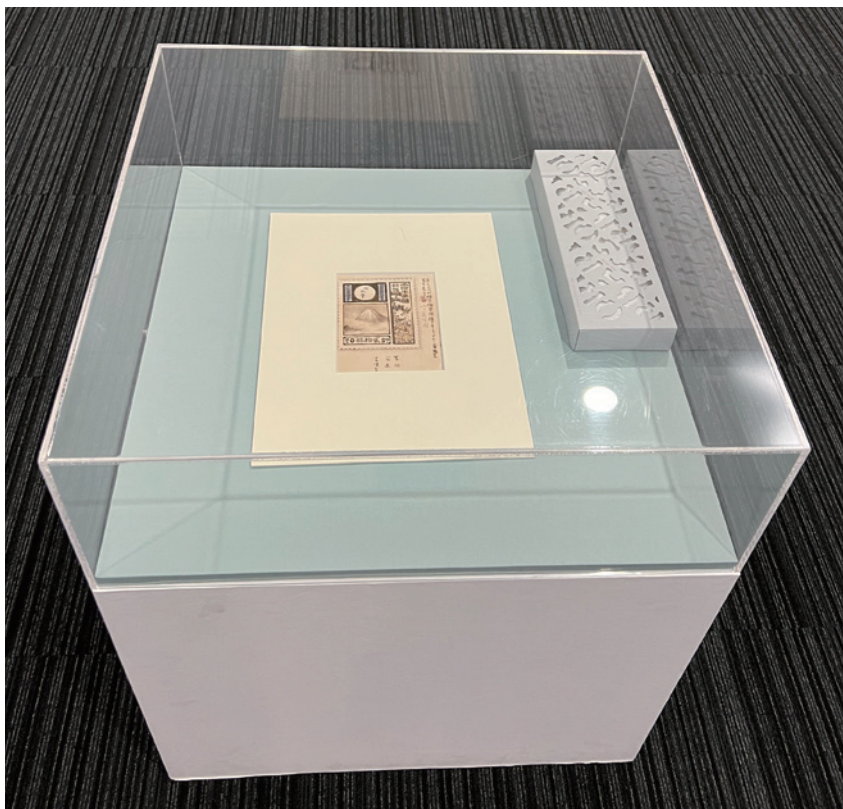


2021 年度 第4回 郵博特別切手コレクション展

富士鹿切手発行百年記念切手展

2022
1月4日|火| — **1月16日|日|**

PHILATELIC EXHIBITION OF POSTAL MUSEUM JAPAN



郵政博物館収蔵品・特別展示
富士鹿 20 銭切手 原画（通信博物館員 樋畑 雪湖）



富士鹿・風景切手だけで 22 フレームが並ぶ展示会の様子

郵趣振興協会 活動報告 (20)

2021 年度 第 4 Q

2021 年 12 月 10 日～2022 年 3 月 3 日

特定非営利活動法人 郵趣振興協会

特定非営利活動法人 郵趣振興協会(以下「当協会」と略す。)は、その活動について広く伝えるため、3ヶ月に一度レポートを発行し、電子メール等で正会員・賛助会員にお伝えすると共に、無料でご掲載いただける雑誌媒体に同一内容を提供しております。

全国切手展「スタンペックス ジャパン2022」の開催に向けた活動が本格化

本年 3/26-28 に開催を予定している全国切手展「スタンペックスジャパン2022」の開催に向けて、審査委員会・実行委員会の活動がそれぞれ本格化しています。

審査委員会は、12月21日の出品作品募集締め切り後、展示作品を決定し、提出書類による事前審査を開始しました。

実行委員会は、12月21日締切の出品作品応募者に対して同月27日にアクセプト結果を郵送すると共に、1月1日に展示アクセプト作品を発表。その後、出品料納付・出品封筒の送付・作品搬入に関するご案内を行うと共に、ご協賛いただいているスタンペディアプロジェクトに、公式目録の製作依頼を行いました。

2月に入ると、共催の郵政博物館との打ち合わせを重ねると共に、実行委員の募集を開始し、設営・撤去並びに審査事務の支援・開催期間中の対応及び目録以外の製作物の作成と広報・宣伝も準備しております。

開催まで一ヶ月強ですが、COVID-19 感染症の状況を見極めつつ、最適な形で全国切手展の開催ができるように準備しておりますので、ご出品者はもちろんご参観いただく方もご期待ください。

第 5 期決算ならびに第 6 期予算作成に着手

当協会は会計処理の透明化の為、決算業務ならびに予算策定を迅速に行い、総会に諮るようになっています。第5期は期末にスタンペックスジャパン2022という予算規模の大きい行事の開催があるため、3月31日の決算締め後、4月中に総会を開催できるように議案の取りまとめ並びに決算経理に着手しました。

なお、これに先立ち、2022年度の正会員・賛助会員の継続並びに新規入会の募集を3月中旬より開始する予定です。現会員の皆様には是非ご継続をご検討いただきたいと考えております。よろしく願い申し上げます。

各種事業の進捗について

当協会は5つの事業「エキシビション事業」「フィラテリー必需品サプライ事業」「リサーチ及び研究推進事業」「フィラテリックPR事業」「次世代育成事業」を行っています。当クオーターにおける、各事業及び総務ほかの進捗をご報告いたします。

エキシビション事業

スタンペックスジャパン2022実行委員会（横山裕三 実行委員会事務局長）の活動

12/21 出品受付の締切

12/27 応募者へのアクセプト通知の郵送

12/28 審査委員会（佐藤浩一審査委員長）の各審査員への事前審査資料の提出

1/21 出品者に、出品物提出封筒を送付

郵博 特別切手コレクション展（2021年度）の開催。

11/20-12/23 第4回南方占領地のフィラテリー展（博物館展示は、11/20-21のみ）

1/4-1/16 富士鹿切手発行百年記念切手展

2/5-2/6 第4回いずみ展

郵博 特別切手コレクション展（2022年度）の郵政博物館における開催日程を追加。

2023/2/4-5 第5回いずみ展

郵政博物館主催事業への協力

12/4-12/26 絵手紙展『みんなで応援！絵手紙でエール!!』へのパネル貸与

フィラテリー必需品サプライ事業

「ヒンジ・カバー用コーナー・透明マウント」の3品目を最重要対象品とした、Amazon.co.jpにおける供給体制を維持。（本事業は随意契約の形で、無料世界切手カタログ・スタンペディア株式会社に委託しています）

リサーチ及び研究推進事業

リーフ作成雛形提供事業の準備を継続中

フィラテリックPR事業

ウェブサイトにおける情報発信を実施（12-2月で16件。対前四半期-20%）

オンライン郵趣例会 振興プロジェクト（斎享リーダー）の活動の継続

（1）当協会が、技術および宣伝協力した、オンライン郵趣例会の開催

日本切手研究会 6回

外国切手研究会 6回

昭和切手研究会 3回

南方占領地切手コレクターズクラブ 3回

（2）WEBセミナーの主催

スタンペックスジャパン2022出品者向け リーフ作成技術 個別指導会を開催

(1/16, 1/30, 2/13) 担当；吉田敬代表理事、のべ参加者数 7名

(3) オンライン郵趣例会を開催する切手サークルに対する集客支援方法の提供

当協会ホームページにおける、例会報告コーナーの提供

外国切手研究会 4回

南方占領地切手コレクターズクラブ 2回

当協会では、今後とも、技術面およびマーケティング面で様々な取り組みを行うことで、オンライン郵趣例会の振興を図っていきたいと考えております。

次世代育成事業

特になし

総務ほか

総会決議を受けて、登記変更の準備（対応中）

第5期決算の準備

第6期予算・事業計画の策定

日常的な経理業務、問合せ業務への対応

（報告者：代表理事 吉田敬）

特 定 非 営 利 活 動 法 人

郵趣振興協会

Society for
Promoting Philately

第6期会員の募集を3月より開始します！

未長くフィラテリーを楽しめる仕組み作りをする公益郵趣団体です。2017年から始まった活動は6期目を迎えます。郵政博物館との連携を基に全国切手展などの展覧会を主催するほか、オンラインの郵趣例会やコレクション展示の振興活動を行っています。

ところで、スタンペックスジャパン 2022 の場合、例えば5フレーム作品の出品料は 15,000 円ですが、会員は4割強のディスカウントが適用され、8,500 円に減額されました。

それから、郵博特別切手コレクション展（郵政博物館における切手展の開催）の展示団体負担料金も、会員は 20,000 円減額です。

公益郵趣団体ではありますが、少しずつ会員の皆様の特典も拡充しています。是非第6期の会員となっていただき、我が国における郵趣振興にご協力いただだけませんか？

【第6期（2022年4月－2023年3月）正会員・賛助会員 募集要項】
簡略版（詳細資料は <http://kitte.com/> でご覧いただくことができます）

1. 年会費：

正会員 1口 18,000 円（何口でもご加入可）

賛助会員 1口 6,000 円（何口でもご加入可）

* 期中のどこから加入されても同額です

総会議決権の有無が、正会員（議決権あり）と賛助会員（議決権なし）の違いです。

2. 正会員・賛助会員（以下「会員」）の特典

- (1) 協会主催および協会が関係する各種行事への優先参加およびご優待
- (2) 「競争切手展データベース」へのアクセス・閲覧
- (3) 「郵政博物館 特別切手コレクション展」出展者負担金の減免
- (4) オンライン郵趣例会支援サービスのご提供

マイスタンペディアにてお申し込みいただくことができます。インターネットにアクセスできない方には、詳細資料・振替用紙を郵送しますので、ご連絡ください。

日本国際切手展 2021 参観記

長野 行洋

すでに半年以上前のこととなるが十年に一度の祭りにつき拙い筆で記録を。

2021/8/25 ~ 30、前回 2011 年同様パシフィコ横浜にて開催された。全世界コロナ禍の影響で急遽世界展かアジア展に変更、文献以外アジアの一部の国からの出品に限れた。緊急事態宣言下ながら、郵便創業 150 年の節目に曲がりなりにも開催できた事は、郵政はじめ関係者各位の尽力にフィラテリスト一同と共に深く感謝。

時節柄一般客含め参観者が限定的だったのは仕方ないところ。限られた時間での参観につきポイントのみにて、日本人作品中心で。タイトルは筆者による日本語意識にて。敬称略にて失礼。

伝統郵趣・日本

手彫切手 郵便創業 150 年にふさわしく 5 作品。大金賞 2 点。

「1871-1876 手彫切手」(山田祐司)、龍 500 文額面逆刷・玉六仮名ヨはじめ殆どの手彫の珍品・気品の大多数を網羅、シート・選りすぐりのカバーのバランスよく念願のナショナルグランプリ。

「手彫切手 1871-1876」(太田克己)さらにアイテム充実、十年前の金賞より見事ランクアップ。

手彫収集の世代交代、国際展初出品 3 氏。「桜青 1 銭」(深山浩永)国内の青一収集家の先陣を切って、青一病先輩諸氏の念願、見事単一額面での金賞。

「手彫切手 1871-1876」(小山隆)、スマートな作品づくりで、大金銀賞。「手彫切手 1871-1876」(瀧川忠)、サラリーマンが到達できる夢を与えてくれる作品・金銀賞。

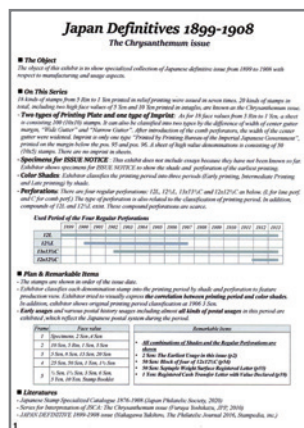


JAPAN 1871-1876 Hand Engraved Issues (山田祐司)

小判切手 前々回 8 作品・前回 6 作品に対し 1 作品と淋しい限り。とは言え。「旧小判切手 1876-1879」(稲葉良一)大金賞、1 フレのアーカイブスが圧巻。1 段目エッセイ 3 点。印刷鑑 20 銭・30 銭・45 銭シート揃い。地味ながら個人的には東京ボタ贈呈消が丹念に揃っており敬服。

菊切手 初出品 2 名含め 4 作品。「菊切手 1899-1910」(飯田文雄)金賞、1 フレ 2 段目、郵便使用目的偽造品 10 銭 6 枚・20 銭 5 枚、各エンタ 1 通は眼福もやりすぎ、幸せは多くの収集家にとってはやっかみ。

金銀賞 3 点、「菊切手 1899-1910」(村山廣佑)、「菊切手 1899-1910」(加藤茂樹)、いずれも目玉の 50 銭目打掃 12x12½ 未使用。「日本 1899-1908」(内海省一)、2 銭初日使用カバー・50 銭目打掃 12x12½ は済田型の存在感。アーカイブの少ない菊切手、各作品を郵便切手類見本蝶の真を入れ、国際展規格ゆえ製造面未使用・使用例カバーで、切手帳も表紙まで



JAPAN Definitives 1899-1908 (内海省一)

しっかりも、何か画一的で各作品の個性が消えているように感じた。40年前のリーフ中央の横線上部に未・下部に済のレイアウトが同じで満月消が並んでいた作品が懐かしいとは時代遅れの化石収集家の戯言なのか。

大正切手 現在の田沢3強揃い踏み。「日本1913-1937」(山田祐司)大金賞、学生以来ライフワーク・田沢全般の集大成。現存1点旧毛5銭横透し他、珍品・稀品と選りすぐりのカバーを構成を一新しての披露は圧巻。

旧毛2作品が金賞。「日本1914-1925」(丹羽昭夫)、オリジナルスタディとリーフの見せ方秀逸。「日本1914-25」(長竹一彦)、高額・切手帳はじめマテリアル見応え十分も作品としての見せ方がやや地味目な感じだったのが残念。

富士鹿・風景 初の金賞。「日本1922-1937」(吉田敦)、国際展でのグローバルスタンダード評価を狙い、シート・ブロック等大型マテリアル目白押しで迫力十分。

昭和切手 3作品高位入賞。いずれの作品も現存1点のアーカイブスでオープニング。昭和で初の大金賞、「日本1937-1945」(林国博)、国際展金賞からのランクダウンを見事にリベンジを果たし2階級特進。目玉アイテムの見せ方が効果的。「日本昭和シリーズ1937-1946」(伊藤純英)、全体の構成スツキリで連続金賞。「日本1937-1940」(菊地恵実)、一次昭和だけでは新記録では、見事大金銀賞。エラーの揃え方、カバーの充実ぶりはスピード違反、免許なみ。

日本関連その他。戦前記念・特殊。「日本記念1894-1944」(西川聡)十年前に続き金賞、ブルーフ他マテリアル充実。不発行切手の無効付箋付カバーが目を惹いた。

戦後普通2作品。「日本新昭和1946-1948」(飯沢達男)金銀賞、高額までキッチリ気を配った好感の持てる作品。「日本1952-1959」(矢嶋秀明)大銀賞、時代の新しさがやや損した印象。

「Ryukyu1945-1952」(石澤司)沖縄で初の大金賞の快挙。1フレのアーカイブス、正刷前までで6フレとの驚愕の構成。

「フィリピン日本占領地1942-1945」(鎗木顕)金銀賞、加刷と正刷との格差が激しくバランス取れた作品作り難しく。

「満洲1932-1945」(川崎徹夫)金銀賞、選りすぐったマテリアルながら、その見せ方がおとなし目かも、やや損した評価では。

伝統郵趣・日本所感(筆者)

手彫から現行まで、震災以外、記念・琉球・満洲・南方までジャンルを網羅。時代順に並んだ作品を眺めた時、改めて時代の古いクラシックの魅力について再認識させられた。



伝統郵趣・外国

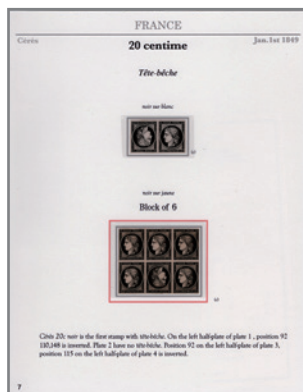
「プロイセン王国 1850-1867」(吉田敬) 大金賞、外国からの出品が殆ど無かったとはいえ堂々のインターナショナルグランプリ。ドイツのゼネラル収集の一環、ジャーマンステーツの内一国に絞り専門収集の究極作品。

金賞2点、「フランス 1849-1862」(有吉伸人)、「ノバスコシア 1851-1867」(多田由一)。共に国内展大金賞の実力者。グローバルスタンダードのリーフ作り、安定感。

大金銀賞5点。「Siam 1883-1899」(岩崎善太)、日本で言えば新小判時期を極めたタイの作品。「中国日本占領地」(小島義昌)、長い収歴の集大成、使用例に重み。「ルーマニア・フェルデナンド1世シリーズ」(板橋祐己)、日本で愛好者の多い中欧の代表高位入賞。「中国 1938-1944」(重山優)、ライフワークのこだわり孫文切手で国際展初出品で見事大金銀賞。そして香港よりの出品「スウェーデン 1858-1885」(Agren Johan)、小型の切手に対し全Wリーフでの作品作りはいかがと思われたが、そのマテリアルは驚くべき、眠福。

「北朝鮮 1945-1947」(木戸裕介) 金銀賞、北朝鮮専収者は日本人ばかりの1作品。「エストニア・スカイラインシリーズ 1920-1924」(板橋祐己) 金銀賞、2作品目も上位入賞。

大銀賞2点「イギリス マルレディフィ封筒 1ペニーブラック・レッド 2ペンスブルー」(長濱哲比古)「スイス 1854-1907」(小林莞爾) 両ベタラン、ライフワーク作品での国際展挑戦、頭が下がる思い。



France Definitives 1849-1862
(有吉伸人)

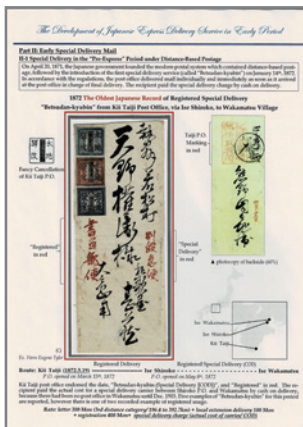
郵便史・日本

「初期の日本急速郵便の発展」(池田健三郎)、手馴れた作品作りで金賞。

大金銀賞3点。「日本の飛脚 1570-1873」(山崎好是)、歴史的書状見応え。「極東の在仏郵便局」(若桑正一)、範囲の幅が作品のアクセント。「郵便の効率化と機械化」(水谷行秀)、平成までの比較的新しい時代も世に出ない貴重なアイテム多数、初出品ながら見事高位入賞。

金銀賞3点。「シベリア干渉の戦争」(鈴木孝雄)、郵便史の神様がある意味永遠のテーマを洩い演出で。「美術・備前・備中の初期消印」(安藤源成)、特定エリアでの地方郵便史としては最高峰も、現在のグローバルスタンダードでの限界か。「長崎の外国郵便 1865-1905」(伊藤純英)、切手を排除してエンタのみの構成は正解。ストーリーと素材の微妙な相違が影響が残念ながらランクダウン。

大銀賞3点。「日本郵便制度の改革と発展 1899-1913」(餐場利明)、明治後半期の郵便制度発展を国際的に魅せる材料で構成することの難しさ。「日本の戦争における郵便 1904-1955」(沼崎弘幸)、同じく軍事郵便の取捨選択とそのテキストがポイント



The Development of Japanese Express Delivery Service in Early Period (池田健三郎)

も言うは易し。「外信印刷物 1877-1949」(森田美佐子)、国内競争展で注目された作品これまた他国との印刷物の認識の違いを説明すればと感じた。

郵便史・外国

大金賞。「インドの戦争」(小岩明彦)、国際展インターナショナルグランプリ作品が構成・リーフを全面見直しで日本に登場。

金賞。「中国の開国 1745-1897」(大場光博)、有り余る材料を再構成、前回ランクダウンの大金銀賞より見事にカムバックして国際展金賞に復帰。

大金銀賞 4点。「ハンガリー インフレ 1945-1946」(伊藤文久)「ドイツ インフレ 1922-1923」(伊藤文久)、日本より海外で人気のテーマ・インフレ。「満洲の郵便史」(飯塚博正)、外国で高評価してもらいたい玄人好みの正統派郵便史も中国はじめアジアで出品しにくいテーマ。そして外国からの出品「イラクの王立航空郵便」(Abdulwahab,Nader)。

金銀賞 3点。「アメリカの書留制度 1880-1920」(和田文明)「アメリカの受領照明郵便 1866-1945」(和田文明)、いずれも数十年の年季の内容。「中国国家郵政郵便史」(藤本博嗣)、冒頭の郵政の父ロバート・ハートのカバーが印象的、初出品見事金銀賞。



The Opening of China 1745-1897
(大場光博)

ステーションナリー

大金賞・ナショナルグランプリ候補。「二つ折りはがき」(斎亨)、200 枚から 1 枚だけ紅枠半銭の枠線印刷された紅枠 1 銭がオリジナルスディ。台湾からの出品「Honduras Postal Stationery」(Ho,Micael)、慣れぬ対象も 93 点金賞と高得点。

大金銀賞 3点。「日本占領地海岸地区のステーションナリー」(守川環)、旧蘭印加刷の外信用等珍品・稀品の含めた揃え方が収歴の賜物。「日本ステーションナリー 1898-1908」(古家美和)、菊は切手だけでなく葉書・封筒もとの信念の作品、切手加貼多く華やかに。「日本の記念はがき 1936-1962」(須谷伸宏)、百のテーマを持つ筆者のサブサブテーマ・国内展で切磋琢磨、国際展でも高位入賞。



航空郵便

「グラフ・ツェッペリンの北米航路の航空便」(立川賢一)金銀賞、王道のエーマで堂々受賞。

Postal Cards of Japan 1873-1874
Cherry Blossom Issue (斎亨)

テーマティク

テーマ素養不足でコメント無しで、作品のタイトル・受賞のみにて失礼、ご容赦。

金賞2点。「地図の歴史」(西海隆夫)。「電話物語-声をより遠くへ」(勝井明憲)。

大金銀賞5点。「花壇」(嘉ノ海暁子)「芸術家達の肖像-ミュージズとの600年の軌跡」(江村清)「アジアの第二次大戦」(虎頭雄彦)そして韓国より2作品「History of Voyage」(Nam,Sang Chur)「Joumes to the taste with agriculbarature」(Park,Kwang Seok)。

金銀賞2点。ベトナムから出品「The Eynthe Dark Sea-Lighthouses」(Thal Tri Trong)。「薔薇の世界」(山田精二)。

大銀賞、韓国より出品「The Tiger」(Kim,Jin Soo)。

銀賞3点。「かえる-その生物多様性-」(長島裕信)。「宇宙開発の進歩」(中尾謹三)。モンゴルより出品「Interkosmos」(Donkhorioo,Misheel)。

現代郵趣

伝統郵趣「日本 1992-1998 日本の自然シリーズ」(虎頭雄彦)、製造面の伝統郵趣の基本と見映えのする外信カバーで金銀賞。

郵便史「リトアニア書留郵便史 1989-1996」(荒木寛隆)大金銀賞、むしろ新しい時代ほど均一なアイテムで揃えるのは難しいのでは。

印紙

「日本の手彫証券印紙 1873-1784」(スティーブン 純 長谷川)大金賞・ナショナルグランプリ候補。コロナの影響でアジア展へ移行にならなかったら印紙部門無く日本一のコレクション拝見できなかったところ。10年前の国際展出品でできなかった作者の忸怩たる想い払拭でき何より。



The Telephone Story-Sending very long-distance voice messages- (勝井明憲)



The Postal History of Lithuania Registered Mail 1989-1996 (荒木寛隆)



The Hand Etched Documentary Revenue Stamps of Japan, 1873-1874 (スティーブン 純 長谷川)

オープン

大銀賞2点。「相撲の歴史」(須谷伸宏)。「棟方志功の人生と作品」(池澤克就)。銀賞2点。「フィンランド共和国 その独立と苦悩」(菊池達哉)。「日本・明治の発展」(延原敬)。

いずれの作品とも郵趣材料のウェートが高いためか、作品の構成か国内展より辛目の評価。無闇に海外評価を妄信するつもりはないが、グローバルスタンダードを研究する必要があるかも。

ワンフレーム

ワンフレームも作品のタイトル・出品者名・点数の記録にて失礼。

「日本の Advertised 印」(岩崎朋之) 86 点。

「第2次大戦時期の英国の軍事航空ステーションナリー」(杉原正樹) 85 点。

「義和団の変における日本の軍事郵便」(志水正明) 80 点。

「宮古島の消印 1946-1958 (大井道夫)」(80 点)。

いずれも大金銀賞・金銀賞クラスと大健闘。

出品者及び開催関係者のご尽力に感謝。十年後の日本国際切手展は果たして。期待して収集は続けよう。

スタンペックスジャパン 2022

STAMP EXHIBITION

STAMPEX
JAPAN

2022

全国切手展 3/26(土)~3/28(月)

主催:(特非)郵趣振興協会/(公財)通信文化協会(郵政博物館)

協賛:スタンペディアプロジェクト

後援:カルトールセキュリティプリンティング社、切手市場、

(一社)全日本郵趣連合、(公財)日本郵趣協会(50音順)

NATIONAL PHILATELIC EXHIBITION
AT THE POSTAL MUSEUM JAPAN TOKYO SKYTREE TOWN SORAMACHI

ジャパNSTAMPオークションニアレポート

鯛 道治

2022年2月26 - 27日開催の第121回フロアと3月1日締め切りの第105回メールセールのレポートです。落札値以外のポイントで書けるネタが有る物を選んで進めて行きたいと思います。表紙とラストロットの物のチョイスはオークションニアからのメッセージなのです。金額的な高額品とか有名な珍品という基準で選ぶのではなく、そこに載せた裏の意味を、出品記事以外でご利用者に伝えたいという理由で選んだものも多いのです。今回はこの視点でも書き甲斐がありました。かなりの昔話が多いのですが、むしろ直近の事実よりも、鮮明に覚えている過去のトピックにフォーカスします。今の内に書き残して置きたいテーマです。

Lot 7 2次 R50 円 日立機械千葉 42.12.24 前 8 - 12

最低値 50,000 応札 3 スタート 125,000 落札値 125,000

Lot 1521 発光 15 円 日立機械大宮 43.11.30 前 8 - 12

最低値 35,000 応札 3 スタート 90,000 落札値 90,000

最低値は随分と良い値段だと思いました。応札数は少ないのですが、結果としては専門収集家の皆さん方達の完璧に接近した値段でのビッドだったのです。赤 50 円は完全な同値、発光も 1 番値からはお釣りなしでの決着でした。門外漢には踏めない、お仲間なら先刻ご存じの、必須の共通の知識が有るのでしょうか。

ちょっとした情報を貰ったので書いて置きましょう。日立式は全ての局で稼働日が完全に分かっているのです。日付と台切手と消印の戦後型・24 H・標語入りの 3 タイプでの希少性を専門収集家なら空で覚えているそうです。高値には確たる根拠が有るのです。赤弥勒 50 円の千葉は使用開始の翌日、勿論 C T O でなく民間実用使用です。

落札値はその理屈を踏んだ物でなく、単純にお二人共にお持ちでなかったという事でしょう。この局は葉書への抹消ばかりで封書へは少ないと聞きました。50 円という事は速達葉書が機械に掛かったという事になります。ビッド数が 3 なのは普通の人にはすれば最低値が高めだということかも知れませんが、同値のお二人には全く無関係なのでしょう。



Lot.7

発光の大宮は専門の人にすれば、根拠のある珍品だというコンセンサスが有るそうです。だいぶ以前に弊社で切手商差し出しの、あまり綺麗でないカバーが出た時は、東京からわざわざ場に落としに来た人がいて、メールにアゲインストして 30 万位になりました。実はメールの 1 番札は 125 万だったという記憶が有るのです。

大宮日立の稼働日は 42 年 9 月 22—25 日の 4 日間、11 月 1 日、43 年 2 月 22—27 日の 6 日間、11 月 21 — 30 日の 10 日間に限定されるのです。今回の物はラストデーですが評価に対しては中立です。発光切手はこの時には大宮局で売られていないというのがミソでしょう。浦和日立はそこそ有るそうです。

連続番号で出品をした、Lot1522 には意味が有るのです。H13 年にキリストで売られた S45 年の 1.5 キロの紙付の未開封袋です。Lot1521 の発光日立は同じ時に買った物からの掘出しだそうです。コレクターの心理として、二袋だけ買って、一つからお宝が出て、残りを見ずに残すことは有り得ません。結構な数をワクワクしながら調べて、幸運に恵まれての掘出しだと思います。そして、今回の出品物も未チェックなのは確かでしょう。全郵普の密着封緘は開けられませんが、キリストのそれはテープ留めです。出品に当たっての謳い文句で、初ですよ、発光・大宮日立の掘出しの可能性が有りますよ・・とは書きません。推測できる事実を嘘や誇張でなく何気に示しておく、オークションとしてはやるべきことはやったと思います。1.5 キロの未開封の紙付はビッド 3 で落札値は 15,500 です。最低値の 3 倍です。小さな夢がかなってくれていれば良いのですが、その結果を知りたいとも思いません。



Lot.1521

Lot 592 旧毛 25 銭 L12 左耳中子持野付 2X3B 櫛型大阪鞆 4.8.11 記号 右下少カット
最低値 50,000 応札 6 スタート 350,000 落札値 620,000

出品記事のキャプションの、【最良】で【最大】で【最後】は嘘では有りません。だけど、この事は私しか知らない事実だったと思います。年が離れた同郷の2人のコレクターの数十年前の遣り取りが、時を経て今望外な好結果で結実したのです。偶然ですが必然の再会です。でも、高いのです。セールが終わるまでは、私でもこの結果は読めていませんでした。夢のような数字でのハンマーになりました。

同じ物が2点なので、オークションシーンで言えば、また出たか、まだ有るかと思われるのは不思議では有りません。発端は昨年の JAPEX セールでした。旧毛 25 銭の L 12 のロットです。田型以上のブロックが複数組取れるので、田沢のコレクターがシンジケートを組んでビッドしたのですが、想定外の競争者が現れたので思惑以上の値段になってしまいました。

味噌で目玉は中子持野付の 6 B (1 枚傷) でした。最強の人のビッドは、何が何でも落し切るつもりだったと聞きました。予想以上に競られたのですが、首尾よく落札、結果的に連合軍の分け前の分配はどうなったかは聞いていませんが、まずは満足だったと思います。でもこの人たちにすれば、今回の連れが出たのは大ショックでしょう。まだどれだけ有るのだろうか、もっとでかい物も有るのでは？が普通に感じる疑問だと思います。

その疑念を消すための、親切なオークションニアのプレゼンが【最良・最大・最後】の3点セットの表現です。今回の物の出現は、全くの想像外の事実でした。10 年ほど前に弊社のオークションで本体部分の処分が終わっていた、田沢のコレクターが、『まだ残っていた物が見つかった』として一山を持ち込んでくれた中に有ったのです。私は連れのマテリアルの JAPEX セールでの好結果を



Lot.592

覚えていたので、出所を聞きました。予想通りでした。大昔に、可愛がってくれていた人が何故か持っていたストックから一番綺麗な物を貰っていたという事でした。そして故人のコレクションは正に今ライブで出品中の物なのです。

お二人の付き合いから、お話がキッチリと繋がったのです。JAPEX セールの物は各額面の単線 12 がギッシリ詰まった小さいストックブック入りのアキュムレーションを、私が額面単位でバラしたのです。大元は、段ボール 30 箱のコレクション(正確にはアキュムレーション)を 1 年近くかけて、お二人のボランティアが作業が楽になるように格好をつけてくれていた物でした。

目に付いた物からオークションに出していますが、まだ 2 割も終わっていないのです。収歴の古い方なので、掛けたお金の額でなく、今の知識で世に問えば値段がぶっ飛び物も有るのです。これは買い取りでなく、オークションだからこそそうなるのです。縁としか言いようがありません。昔からのお付き合いゆえに、残すお宝と捨てるゴミの区分の下準備の整理に延べで数十日かけてくれた人が、忘れていたもう一つのお宝を持っていて、それを弊社に持ち込んでくれたのです。かつて弊社で処分した、本体の田沢のコレクションから何故外れていたのかは不明ですが、1 枚傷を嫌ったのかも知れません。結果的にはラッキーでした。お二人の縁が旧毛 25 銭 L12 で繋がっていたのです。

JAPEX セールの結果が参考になったのでしょうか。そして何人かは私の謳い文句を信じてくれたのだと思います。今回は 3 人が 30 万+のメールビッドでした。更にその上で、場でもう一人が手を挙げて、結構な時間でお二人のバトルになり、メールの 1 番値にキッチリとおつり無しで落ちました。前の物と繋がれば良いのですが・・・、その可能性も大いに有ると思います。この局の一連の物とすれば、【最良・最大・最後】は正にその通りだと思います。ついでながら【最高値】でも有るのです。物の繋がりに於いて、こんなことも有るのだと改めて実感できたディールでした。

25 銭で言えば、新小判に、KB2 筑後大牟田⑧という珍品が有るのです。福岡の切手商の店頭で 10 万円金貨とバーターで取引されたストーリー性の有る物です。その後、タカハシスタンプに出品されて 70 万位で落ちたような記憶が有るのです。もしかすれば遠からずマーケットに出て来るかも知れません。今の相場で言えば、この時の値段は望めませんが、お二人が競れば何処までも行くのがオークション、今回の旧毛の 25 銭のケースがまさにそうなのです。九州でドラマが起きるのを楽しみにしています。

Lot1839 かつおつり切手の資料 John Yumoto(湯本正幸)氏保管物一式
最低値 30,000 応札 8 スタート 62,000 落札値 210,000

かつおつりと山本義之さんに関しては、何度かコラム記事を書いて来ています。繰り返しでなく、新たな事実を書きましょう。昭和天皇は明治34年4月29日ご誕生、昭和64年1月7日御崩御です。そして山本さんのそれも、前も後もほんの数日しか違わない、正に昭和を天皇陛下と共にフルに生きて来られた人なのです。私のお付き合いは最晩年の4-5年だったかと思います。梅田の電子会館の会社の個室に何度もお邪魔しました。

1次円単位以降の現行切手の目打形式研究の先駆者で、この方のコレクションのおしどり5円のシートを目打を分類しての売り立てを、日本のオークションで初めてやった強烈な思い出が有るのです。この時に現役だった現行切手のコレクターは一人も残っていないでしょう。今のような確かな文献も無く、茶と青の角度、ADとPVAは分かったのですが、抜けの正と逆、1段・2段・4段は、まさに手探りでやったのです。今にして思えば非常に拙い記事なのですが、当時とすれば丁寧に詳しくやってくれたというお褒めの言葉を頂きました。もしかすれば、3版とか正1連1などもあったかと思います。横波を発見されて、\$型と名付けられていました。

郵便切手資料として、現行切手の目打形式の他にも数種の冊子を出されています。この方の業績の内、2冊の【みほん切手】に関しては改めて書く必要は有りません。追加の新発見は有るのですが、色褪せぬバイブルの位置は永遠に保てると思います。

知遇を得たのが数年遅く、昭和～透かし無のシートの大コレクションには私はタッチ出来ていないのです。やりたかった仕事なのですが、時の巻き戻しは出来ません。戦前記念は3種(日清5銭の片方・冠10銭・トンボ1.5銭)抜きシートはプライベートで売り先を見つけたし、昭白以前のシートはオークションに出しました。震災は揃っていたのですが、残念ながら20銭は使用済。そしてそれ以外の詳細は余り覚えていないのです。

最後の最後までお持ちだったのが【かつおつり】、このディールを繰り返して書くことは止めておきましょう。みほんのコレクションは、生前でなく、後日ご遺族から声が掛かりました。昭和の本のパートは正に丸ごと有ったのですが、明治～大正は現物が皆無、本に使った写真だけが有りました。

人脈が不思議にクロスした、山本さんと湯本さんなのですが、今回の出品物の、湯本正幸氏の遺品の資料は夢にも思っていないでした。

かつおつりは、何故か本物は無かったのですが、数多くの模造品と共に、英文の8ページの寄稿文が有りました。山本・中井両氏の労作【郵便切手資料・かつおつり50銭切手】への賛辞です。新事実は無いのですが、出て来るお名前が新鮮でした。山本義之・中井輝典(Nakai Terusuke = これが正解)、保家茂(Hoya Shigeru = 無目打シート→郵趣サービス社が分割販売の元の所有者・参議院郵趣会の世話人で砂防会館の館長)、武田修、三島良績、富岡昭さんです。

刀剣研究家として名を成された湯本氏、私にすれば二つ折り葉書の大コレクターとしてのお顔しか知らなかったのですが、かつおつりに関しても、随分と深入りされていたと思われます。もしかすればこの湯本氏のルート、かつおつり以外でも、昭和の郵趣史で語られていない事実が隠れているかも知れません。今回の落札値は、メールの20万がアンダービッドで、同時にハンマープライスを完璧に作ってくれたのです。物の評価とすれば、明らかに高すぎますが、落とされた方が知識のお宝を見出して、世に還元してくれることを望みます。

Lot1854 1 昭 10 円 宮良印 未使用 糊むら 薄糊付

最低値 100,000 応札 6 スタート 310,000 落札値 360,000

おちゃらけ話から入ります。Philatelic Journal 2021 の石澤君の記事に関して、昔読んだ雑誌の事を思い出したのです。かなりの無理筋のこじ付けですが、昭和 49 年 11 月の【文芸春秋】立花隆著、『田中角栄研究・その金脈と人脈』です。或る意味、日本の歴史を変えた著作です。本筋で有名なのはこちらですが、私の記憶では同じ号に載っていた、児玉隆也著、『淋しき越山会の女王（佐藤昭）』のインパクトが強いのです。私と同世代の人は大いに刺激を受けた号だったと思います。

石澤君の【研究】に対して、【女王】のタッチで記事を書いて見たくなかったので、TPM の新年号に書きました。我ながら良い出来だったと思います。本誌の読者さんなら双方の記事をお読みでしょう。勿論、田中角栄でなく【宮良】の方ですが。裏ネタをバラしておきましょう。後藤ブラザーズから、スティーブさんが買った値段は 11 枚で @ 100 ドル = 1100 ドルでした。\$ 1.00 のレートは不明ですが、@ 2 万位でしょう。珍品だと信じるけれど、不確定、それに琉球だし・・・だから、この値段は至極真っ当です。RPSS のマクレランが NG を出しで、ぐるっと回って返品で返金、これも綺麗なディールです。

弊社のオークション会場での出会いがきっかけで、石澤←スティーブ←後藤兄で動いた縦ペアのディールは、宮古の印紙=昭和切手に収入印紙加刷 5~6 枚（金閣寺 50 銭は使用済）+琉球の煙草の箱が 1 個でした。本当に小さい商売だけれど、双方で納得だし、アコギだとも思いません。石澤君のセンスと行動力の勝利です。

同じ山の別口の事は、うっすらとお話を聞いていて、梅花 10 円の宮良なら、10 万円の最低値で表紙に出せるかなと思っていたのです。お持ちの方との暗黙の了解で、石澤君の記事を待っていたのです。心証だけで良いのです。私が Genuine と受け取れたなら、表紙に載せて売れる自信はありました。落とす人の顔ははっきり見えていたディールです。

でも、石澤君がここまでキッチリとやってくれるとは思っていませんでした。【角栄研究】が良かったのか、【淋しき女王】が利いたのかは不明です。そして、あくまで札を見ての後解釈なのですが、この人達なら 30 万でビッドするだろうという札が、お二人から入っていたのです。期待はしていないけれど、後から見ればなる程と思える面子です。場での落札者はガチガチの本命さんでした。持っていないのは確かだし、要ることも絶対です。買えるチャンスがあれば落し切るでしょう。問題は、本物かどうかだけ、でもビッダーと値段を見れば、これから先、何が有っても四の五の言うような人達では有りません。

オークショニアとすれば描いた絵の通りに動いてくれて大満足、いや最後の特務業務をもうちょっとやりましょう。この報告は大っぴらには書きません。将来、今回の落札者のコレクションを見てくれれば、私が示した好意を皆さん納得してくれるでしょう。オークショニアはお金の勘定以外にもやりたい仕事では燃えることが有るのです。



Lot.1854

Lot2164 旧小判 45 銭無地 13 未使用 NG (OH) as is

最低値 10,000 応札 8 スタート 31,000 落札値 34,000

郵趣家のお年を知るのに絶好の言葉が有るのです。私より一世代上の、そしてかなりのステータスの人たちとの会話で飛び出て来る単語です。最早死語ですし、Web. の検索でも的確な物は引っかかりません。【クレーム・タッチェン】、耳学問では聞いたことが有る人もいるでしょうが、今や普通は使いません。昭和 40 年代には郵趣界を席卷していた用語です。切手の保存に、ヒンジかタッチェンかが大真面目に議論されていた時が有ったのです。今の言葉では、(ハウイド) マウントに置き換わるのですが、当時の先駆的な人たちが恐々ながら、ヒンジ跡を付けずに未使用を保存できる。でも化学反応で表面を傷める事は無いのかという、今なら笑い話のような視点で大真面目に議論をしていたのです。値段も高いので、ある種のステータスとして使い始めていたのです。何時の間に『マウント』に淘汰されて、『タッチェン』の単語は消え去りましたが物はもちろん残りました。

かなりのこじ付けなのですが、タッチェンで思い浮かぶ方がいるのです。私は全くお付き合いは有りません。でも、お名前は人づてに今も時々聞くのです。一世代上の著名なコレクターからです。【小川孟】さんです。1957 年の九州大学卒なので、ご健在なら 87 歳位だと思います。高分子学の権威でメキシコのグアダハラ大学に赴任されました。正確な日時は書ききれないのですが、澤先生により旧小判の紙と目打の分類が体系立てられた頃だったと思います。完全に日本を引き払ってのメキシコ行きということで、小判のコレクションを一切切処分する事になったのです。

この方は、私がやってきたことを、数十年前にやられていた方でした。北園君が行く前のロンドンで、アイホン君が居なかったドイツで、ローラン氏の姿が無かったパリのオークションで日本切手を買っていた人でした。知識が有るし、言葉が出来る、何よりもライバルが居なかった狩場で漁ができたと思います。



Lot.2164

特に目打の研究家というステータスで活躍されていました。実際に良い物をたくさんお持ちだったと思います。そのコレクションが処分される事になったのです。オークションでなく、プライベートでの一括のディールです。

早耳で達者な人がいて、速攻で唾を付けました。先方も同意したと思います。でも、チャチャが入ったのです。〇〇〇万乗っけて買うから、俺に寄越せのオファーです。一世一代、今回限りのディールです。墨西哥への片道切符の旅なのです。郵趣の世界とは縁切りです。だから手漕ぎのボートから、エンジン付きのヨットへの乗り換えは責められないかも知れません。買った方は大喜びだったと思います。でも反対の立場の人は怒り心頭・・郵趣家としてのライバル、かつては無二の親友、いや刎頸の友かな・・、が瞬時に永遠に席を共にしない、不倶戴天の敵に替わったのです。

私は色んな意味でお二人と接点があるのです。露骨には聞いていないけれど、強ち外れていないと思います。物に対する執着心を強くお持ちのお二人ですから。クレーム・タッセンと小川孟さん、こんなことも有ったのだと同じ文脈で語れるのは私だけかも知れません。

真面目に物を書きましょう。垂涎の目玉は 45 銭の無地の 13 未使用です。完全な小川さんの掘出しでの新発見なので、当時の鑑定では真正な目打として認められていたのです。持ち主のお名前で、当時は誰もが信じたのです。だから 1997 年サンフランシスコの国際切手展には目玉として展示されています。無地の 13 目打としてでなく、12.5 がぶれた物という位置づけだったかも知れません。当時の専門家の皆が認めた珍目打ですが、疑念を表した方がお一人だけ・・、澤護先生です。

『小判切手』の 45 銭の頁に、存在の事実は書いたものの、questionable な意見を示されています。今ならば私もそれに同意出来ます。

超ビッグコレクターのお気に入り、入手時の経緯も絵になります。だから私がこの方のコレクションを預かった時点で、旧小判の大河コレクションのラストロットにして、表紙に載せることを決めていました。大昔の鑑定書を付けるのは、オークションニアとすれば野暮な事、へんちくりんなルールで運営する国際展の魔よけのお札や錦の御旗とは違うのです。最低値は 100 万か 1000 円かどちらかでしょう。落ちる値段は 10 万かなと踏みました。ご本人が居られれば・・・、考えたく有りません。セールの結果に対してのコメントは有りません。

一つの大きい仕事が終わりました。華やかだった郵趣界に於ける昭和は、歴史の海に溶けてしまったのです。タッセンと小川孟さん、当時の事をご存じの方はほんの数人になりました。私より一時代上の方たちです。その人達とも中々に昔話をする事も難しくなって来ています。切手の専門分類での議論はとてつもないです。ギリギリで間に合った、私の記憶が鮮明な内に書いておきたい事だったので。

Lot2788 軍事郵便封緘封筒静岡宛 櫛型 龍口 4.6.3 野戦局

最低値 10,000 応札 5 スタート 110,000 落札値 290,000

ビッドの内 10 万以上の 3 名さんは完全にお分かりだったと思います。青島守備軍通信部の野戦局印の使用開始は 4 年 4 月 1 日で 11 局です。龍口は 8 月に閉鎖されており希少性は高いのでしょう。そして、今回の出品者も現存 1 点として随分と高い評価をされていたのですが、他にもお持ちの方が有られます。漏れ聞く所では兄弟カバーだとか、次も同じ値段で売れるので出品をお願いして置きましょう。次回の最低値は 10 万円が居心地のいい数字だと思います。



Lot.2788

Lot4668 米国2C 貼絵葉書 2 枚外務省職員小西孝太郎実家宛+日・米・露高官 5 名の肖像絵葉書 米機械 PORTSMOUTH 1905 年 8 月

最低値 3,000 応札 12 落札値 90,000

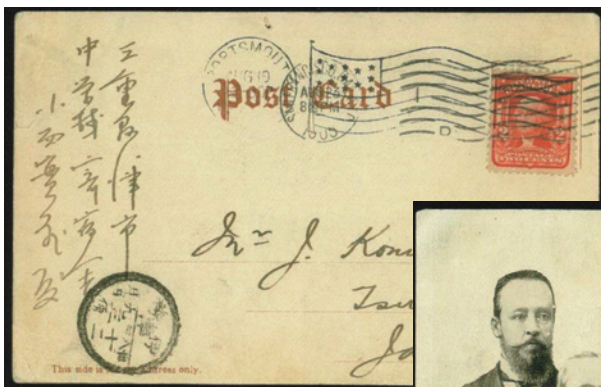
絵葉書が面白いと思ったのです。Web. の検索で『小村・高平・ルーズベルト』と入力すれば、簡単に結果が得られます。小西孝太郎を著名人と呼ぶのは、地元の方以外ではちょっと無理、でも PORTSMOUTH と 1905 年の 8 月で解る人は解るのです。日露戦争の和平協定の調印式に出席の日本人（通訳）が故郷の御尊父に出した絵葉書です。

このコレスポデンスは脈絡もなく、少しでも高く売ろうとして欲張って、色んなオークションハウスに数年前から、誇大表現での著名人の分類で出していたのですが、あまり評価はされていなかったと思います。強いて言えば、日露戦争の前と後の PEKING 差し出しの日付が注目されていた位なのです。出品者の郵趣品としての評価の拘りの最重要ポイントはそれでした。

数回前の弊社のフロアでお二人、今回の落札者とアンダービッド者が立場を入れ替えて猛烈に競ったのが、ポーツマス条約調印時に小西孝太郎が訪米直後のシアトルから郷里に出した葉書でした。『小村（寿太郎）全権・・・』の文字が読めました。

日本からの外交団は西海岸から大陸横断鉄道で NY 入り、ポーツマスでの調印式に臨んだのです。このセールの時にも、場での競りに吃驚した出品者がその理由を聞いて来たので、懇切丁寧に教えたのです。でも、金銭的欲求はやたらと強いのですが、郵趣知識というポイントでは学習能力の無い人なので、何度も同じ間違いをします。いつも出品物はグチャグチャのリスト付きで来るのですが、今回のロットは写真絵葉書に価値が有ると思っていたと思います。最低値 3,000 円で判ります。殊更に『ポーツマス条約』と強調するのは嫌なので、出品者の知識とマテリアルの見た儘の情報を書いて、メールの表紙に使ったのです。分かる人は分かるし、そうでない人は買えません。

ビッドの値段はさて置いて、応札数 12 は凄いと思います。数人は絵葉書を評価したのでしょうか、上位の 3 番札までは私の意図を解ってくれたビッドでした。オークションアとすれば快心作と言えるのです。オークションではどんな物でも、そんなには紛れは起きないという事の証明です。落とした人と負けた人、オークションアも納得です。でも、この金額には大喜びの出品者は多分意味が解っていないと思います。コレスポデンスなので、まだ連れが有るかも知れません。今度はその理由を教えることは止めようと思います。教え甲斐が無いのです。もしまた出て来ても、出品者の書いて来た記事のままで、メールにさりげなく載せますよ。



Lot5945 最近の情報 小判振舞処 1~205

最低値 50,000 応札 6 落札値 175,000

メールセール最後のパートに文献を並べました。ご逝去直前に一切切の処分の依頼を受けていた方の遺品で、ダンボール 30 数個の内で切手系が 2 割、文献が 8 割あり、事務所のスペース作りの為に高張る物から片付けて行くのです。

まずは長期の連続刊行物から始めました。日本フィラテリー 1986 - 1991 は 1 冊欠けが響いたのか最低値 1 万でも不落札、でもそれ以外は綺麗に札が入りました。出品記事は無味乾燥ですが、隠れた情報が有るのです。主宰者ご自身の保管用なので、オンリーワンのハイグレードで、本誌のみならず、印刷された捕逸が完璧に揃っています。出品物を整理する際に、挟まっていた私的なお手紙は外したのですが、限定された方への資料集？的な物は完璧に付けました。恐らくこの姿は今回の物にしか無いと思います。

ビッドは 1~3 番値の方は下見無しなのですが、ローカル雑誌とは言え 18 年間 205 冊の蓄積を正に評価してくれたと思います。INDEX 無しだし、統一性も有りません。狙って記事を探すことは不可能です。でもパラパラ読むだけでも知的好奇心が刺激されるトピックが幾つも見つかるでしょう。総重量 25 キロ超の二箱が予想通りに船便でドイツに旅立っていきました。落ちた値段には客観的な根拠は有りません。直感で 10 万位で売れるかなと思っていて、その通りのビッドが来たのですが、上位のお二人だけがきっちり踵を接する値段で入れてくれていたのです。

ワンモアチャンスが有るのです。残りの箱を整理すれば、もう 1 セットは出来るかも知れません。本誌の 1~205 は大丈夫でしょうが出品記事に書いていないおまけの部分が微妙です。でもやる価値が有ると思います。親切的な協力者兼雑誌発行の後継者が働いてくれることを期待いたしましょう。

スタンペックスジャパン 2022

STAMP EXHIBITION

STAMPEX
JAPAN
2022

全国切手展 3/26(土)~3/28(月)

主催：(特非)郵趣振興協会 / (公財)通信文化協会(郵政博物館)

協賛：スタンペディアプロジェクト

後援：カルトールセキュリティプリンティング社、切手市場、

(一社)全日本郵趣連合、(公財)日本郵趣協会(50音順)

NATIONAL PHILATELIC EXHIBITION
AT THE POSTAL MUSEUM JAPAN TOKYO SKYTREE TOWN SORAMACHI

スタンペディアオークション

第 20 回セール (2022.1.8 フロア 綿商会館) レポート

スタンペディアオークション株式会社

1 月 8 日に日本橋富沢町の切手市場第二会場 (綿商会館) で第 20 回セールを開催しました。第 6 波の到来に伴い、フロア来場者 (ライブビッド参加者を除く) は前回より減りましたが、マスク着用、手指消毒を徹底した上でフロアセールを開催しました。

事前入札 285 名 (-27 名) フロア来場者数 48 名 (-5 名)。

最終落札率 76.3%、流通額 18,799,594 円 (文献セールとの合計は 19,941,042 円)。

南方占領地を取り扱う第 4 部については、第 19 回より海外から要望の強いオンラインライブビッドを導入しましたが、時間がかかりすぎる難点があるため、オンラインライブビッドを行うロットについては、フロアセールを行わない形に今回から変更し、結果として活発な競りが行われました。

今回の好調を受けて、今後は事前ビッドは人気があるにも関わらずフロア参加者が少ない外国切手シングルロット等についても、同様の形態 (オンラインライブビッドのみ・フロアなし) に変更することになりました。

恒例の事前入札ベストテンは以下の通りです。(単位: 円)

	事前入札 件数	Lot	最低値	落札値	ロット内容
1 位	10	1156	5,000	27,000	ロシア 1902 7k pair 日付印 1905-09-05 URGA (ウルガ) → 張家口 中国 データ等を書込んだ台紙へ整理収納済。カバー
2 位	8	301	5,000	10,500	菊切手朝鮮使用約 20 枚、支那字入切手約 50 枚 自作リーフに貼り込み、局名書き込み、3 ページ 済
	8	393	3,000	10,000	芦ノ湖 8.5 銭 単貼り 櫛型印 (紫) 昭和 8 8 16 京橋 → 大阪 裏面: 納涼飛行御招待申込書 葉書航空 到着印: 8/16
	8	409	3,000	10,500	風景印 朝鮮 9 通 昭和 6-7 年 統営、義州、全州、扶餘、論山、蔚山、庫底、群山、龍山
	8	410	3,000	10,500	風景印 朝鮮 9 通、昭和 6-8 年 京城駅前、南大門、清州、高城、光化門、西大門、球場、鎮南浦、清津
	8	411	3,000	11,000	風景印 朝鮮 9 通、昭和 6-10 年 新義州、光州、溫陽、外金剛、内金剛、樺王寺、公州、平壤、水原
	8	700	3,000	3,800	金沢通信展小型シート 5 枚 未使用
	8	764	3,000	7,200	2004.5.6 Q-POST 特定信書郵便 (民間) 使用例と全貼り FDC 各 1 痛
	8	958	20,000	72,000	琉球外信カバーロットバインダー一冊 1950 年代 → 米国宛航空・船便中心の 74 通
	8	968	3,000	12,000	航空 18 分 田型 櫛型印 康徳 6 7 6 奉天隅田町 → 大連 書留別配達書状
	8	1005	2,000	8,500	インド First issue 1/2p blue, on wove paper, 未使用 シミ ヒンジ 跡強い reprint /proof ? as is
	8	1184	5,000	36,000	ロシア 4k PC, Stampless Cover 2 通組 (1)1904 2 13 PORT ARTHUR → Berlin, 1904 10 8 スタンプレス (2) 東清鉄道 264 路線ウラジオストック → ハルビン → Poland, (3)1905 9 29 MAIN FIELD POST OFFICE → MAIN FIELD OFFICE REAR MANCHURIA ARMY, データ等を書込んだ台紙へ整理収納済。
	8	1280	3,000	10,000	中国 1950-1963 2 リーフ約 60 枚、1962 唐三彩 8 種完、同丹頂 3 種完、1963 蝶 20 種完、同子供 12 種完 カタログ価: 20,000 円
	8	1425	5,000	13,500	スタンペディアオークション過去セール不落札品の一括ロット トピカル「犬」10 ロット、スタート値 51000 円分

スタンペディアオークション

第20回セール (2022.1.8 フロア) 最終落札結果

Lot	落札値	Lot	落札値	Lot	落札値	Lot	落札値	Lot	落札値
1	6,600	69	11,500	125	3,000	181	3,000	234	1,000
2	26,000	70	3,000	126	10,000	183	2,000	235	1,000
3	28,000	71	5,800	127	16,500	184	3,000	236	3,600
4	52,000	72	3,800	128	16,500	185	6,200	237	6,000
7	52,000	73	4,000	129	52,000	186	4,200	239	3,025
8	2,000	74	5,000	130	66,000	187	8,500	240	5,000
9	36,000	75	10,000	131	52,000	188	4,400	241	21,000
10	3,000	76	3,000	132	52,000	189	4,200	242	38,000
11	10,000	77	5,000	134	21,000	191	18,500	243	3,000
12	5,000	79	4,033	135	18,500	192	10,083	245	10,083
14	11,046	80	10,500	136	17,000	193	3,200	246	5,000
15	400,000	81	4,033	137	30,000	194	5,200	247	12,500
16	3,117	82	15,500	138	15,500	196	3,000	249	2,000
20	11,000	83	3,000	139	31,000	198	2,000	250	3,600
21	5,000	84	12,100	140	54,000	201	3,000	251	3,000
22	4,000	85	22,000	142	33,000	202	3,000	252	1,000
23	31,000	86	4,000	143	62,000	203	5,000	253	3,800
24	52,000	91	11,500	144	64,000	204	7,200	255	4,400
26	29,000	92	23,000	145	120,000	205	2,000	256	3,000
27	5,042	93	3,800	146	10,000	206	3,200	257	3,000
31	20,000	94	4,000	147	90,000	207	2,200	258	4,000
32	10,000	95	3,000	149	10,000	208	2,000	259	3,000
37	6,000	96	13,500	150	54,000	209	5,200	260	5,000
39	4,000	97	3,800	151	41,000	210	7,200	261	6,200
40	4,904	98	3,600	152	52,000	211	6,000	262	5,000
41	3,000	99	5,200	153	10,000	212	3,000	264	1,400
44	4,200	100	6,000	155	10,083	213	8,000	265	3,600
45	15,000	102	3,000	157	10,083	214	3,000	266	1,000
48	3,600	103	5,000	158	10,083	215	3,000	268	9,500
49	8,500	104	3,000	160	3,000	216	5,000	272	5,000
50	5,042	106	4,200	161	5,200	217	1,600	273	5,200
55	4,200	107	10,500	162	55,000	219	3,000	275	62,000
56	15,000	108	7,200	163	3,000	220	12,000	276	15,000
57	15,000	109	2,000	164	3,000	221	3,025	277	10,000
58	25,000	111	3,800	165	8,500	223	3,000	278	49,000
59	4,400	112	10,000	166	4,200	224	1,008	279	5,000
60	9,500	113	6,000	167	3,000	225	3,000	282	5,800
61	3,800	114	3,000	168	4,000	226	3,000	283	3,000
62	1,000	115	8,000	169	3,000	227	13,000	285	4,000
63	26,000	116	4,800	170	3,000	228	13,500	287	5,000
64	38,000	117	2,400	172	3,000	229	3,000	288	5,000
65	6,000	118	10,500	174	5,000	230	6,000	289	3,400
66	21,000	119	3,000	177	3,000	231	5,000	290	5,800
67	40,000	123	21,000	179	5,200	232	4,000	291	23,000
68	40,000	124	3,200	180	3,000	233	7,058	292	10,000

Lot	落札値	Lot	落札値	Lot	落札値	Lot	落札値	Lot	落札値
293	5,000	347	64,000	406	3,000	469	3,000	541	10,000
294	5,000	348	4,200	407	4,800	470	2,000	542	21,000
295	5,000	349	26,000	408	3,000	471	3,000	543	10,500
296	3,200	350	8,000	409	10,500	472	3,000	544	5,800
297	4,000	351	10,000	410	10,500	475	5,200	545	5,000
298	13,500	354	1,000	411	11,000	477	4,400	546	5,800
299	15,500	355	5,000	412	7,200	480	5,000	548	5,000
300	5,000	357	3,000	413	8,000	481	5,600	549	2,200
301	10,500	359	4,000	414	3,000	482	3,200	550	3,000
302	3,200	360	24,000	415	3,000	484	7,200	552	8,067
303	10,500	361	41,000	418	2,800	485	2,400	553	3,000
304	7,600	362	3,200	419	5,000	486	2,000	555	21,000
305	5,000	364	7,400	420	13,500	488	4,400	556	15,000
306	7,200	365	3,200	421	740,000	490	3,400	560	41,000
308	3,000	366	3,000	422	29,000	491	3,000	562	64,000
309	1,000	367	6,000	423	12,500	492	5,000	563	5,000
310	4,800	368	4,400	424	11,500	493	5,000	564	3,000
311	2,017	369	3,600	425	6,600	494	4,000	567	8,500
312	2,000	371	3,000	427	8,000	495	5,400	568	10,500
313	2,000	372	18,500	429	54,000	496	4,200	569	10,500
315	4,400	373	6,000	430	5,400	498	5,000	570	1,008
316	12,500	374	6,000	431	6,200	500	3,200	571	6,200
317	3,400	377	3,000	433	125,000	501	3,000	572	10,000
318	4,000	378	31,000	437	14,000	503	5,000	573	3,000
319	4,000	380	33,000	439	5,000	504	7,200	575	2,000
320	3,000	381	5,000	440	5,000	506	13,500	577	5,200
321	3,000	382	1,800	443	5,000	507	4,000	580	5,000
322	3,400	384	2,017	444	5,600	508	4,000	581	4,400
323	5,400	385	1,400	446	15,500	509	5,200	582	9,000
325	5,200	386	2,017	447	3,000	510	6,692	583	3,000
326	7,400	387	1,000	449	5,000	511	5,000	584	26,000
327	4,000	388	4,000	450	3,000	513	2,200	587	4,200
328	4,400	389	16,500	451	4,400	514	8,000	588	4,000
329	7,200	390	3,400	452	9,500	517	10,000	589	5,000
330	5,200	391	5,200	453	4,600	518	5,000	590	21,000
331	6,800	392	3,400	454	2,000	519	3,800	591	3,000
332	4,800	393	10,000	455	2,000	521	1,008	592	3,000
333	8,500	394	4,200	456	1,000	522	4,033	593	3,025
334	4,000	395	4,800	457	5,000	523	3,000	595	5,000
335	3,000	396	5,000	458	100,000	524	4,000	596	6,400
336	4,800	397	9,500	459	3,000	526	3,000	598	13,500
337	2,000	398	3,800	462	3,000	529	8,000	599	20,000
338	3,800	399	7,800	463	3,000	531	10,000	601	3,200
342	7,400	400	2,200	464	5,000	532	5,400	603	3,000
343	7,400	402	7,200	465	3,000	533	5,400	604	4,800
344	3,000	403	26,000	466	4,000	535	6,200	605	15,500
345	3,600	404	9,500	467	3,800	536	3,025	606	7,200
346	2,600	405	8,000	468	2,000	537	3,025	608	3,200

Lot	落札値	Lot	落札値	Lot	落札値	Lot	落札値	Lot	落札値
609	3,000	669	1,000	734	5,600	790	2,017	849	2,000
610	11,500	671	3,000	735	5,000	791	12,500	851	4,600
611	4,000	672	15,500	736	6,800	792	7,400	852	5,000
612	6,000	674	3,600	738	5,000	793	7,200	853	4,000
613	6,200	675	8,000	739	5,000	795	3,000	854	5,200
614	12,500	677	7,400	740	3,000	796	4,200	856	5,600
615	2,800	678	9,500	742	10,000	797	4,033	857	10,500
617	2,000	679	2,800	743	18,500	798	5,600	858	3,400
619	1,000	680	3,000	744	13,500	799	4,800	860	5,000
620	3,000	681	5,200	745	39,000	800	3,000	864	3,000
621	3,000	682	4,200	746	5,000	801	3,400	865	5,800
622	3,000	683	3,000	747	2,400	802	3,000	866	3,200
623	7,000	685	3,000	748	20,000	803	2,000	867	3,400
625	10,500	686	3,400	749	9,000	804	3,000	868	3,200
627	3,000	687	3,000	750	3,000	805	3,000	869	1,600
628	23,000	689	3,600	751	2,200	807	3,000	870	3,000
630	10,500	690	3,000	753	4,000	808	12,500	871	5,000
631	3,000	691	3,000	754	3,200	809	4,400	872	49,051
633	7,000	692	3,200	756	3,200	810	3,000	873	3,200
636	3,025	694	2,200	757	10,500	811	2,000	874	18,000
638	3,400	695	3,000	758	3,000	813	8,000	875	18,000
639	3,400	696	4,000	759	5,042	814	3,000	876	15,500
640	6,600	697	6,800	760	3,000	816	4,000	877	9,500
641	4,400	698	3,400	761	23,833	818	3,000	878	19,000
642	4,000	699	3,200	762	3,000	821	6,600	879	13,500
643	12,500	700	3,800	763	15,500	822	5,200	880	4,800
644	2,400	701	16,500	764	7,200	823	2,000	883	3,000
645	3,000	703	9,158	765	2,200	824	2,017	888	5,200
646	3,200	705	9,500	766	2,200	825	2,000	889	8,250
647	100,000	706	5,000	767	2,000	827	2,200	893	9,500
648	10,000	707	8,500	768	21,000	828	4,800	894	3,000
649	8,500	708	5,600	770	3,000	829	3,600	895	11,500
651	3,000	709	3,000	771	2,000	830	3,800	896	3,000
652	11,500	710	5,000	772	3,000	831	4,800	897	3,400
653	3,400	711	5,600	773	2,200	832	7,400	898	43,000
655	2,000	712	4,000	774	4,800	833	3,800	899	2,000
656	6,200	714	5,000	775	5,000	834	2,800	901	4,200
658	12,000	716	3,400	778	2,200	835	6,400	902	2,000
659	9,000	718	4,000	779	3,400	837	3,000	903	5,000
660	11,000	720	3,000	781	5,200	840	4,400	904	5,200
661	14,000	722	3,000	782	5,600	841	4,200	906	5,000
662	8,000	723	5,200	783	3,000	842	7,000	908	3,000
663	18,000	724	7,200	784	8,000	843	2,800	909	2,000
664	8,000	727	7,200	785	8,067	844	2,800	914	5,000
665	9,500	728	4,200	786	8,000	845	4,400	916	12,421
666	5,400	731	3,200	787	4,033	846	3,000	918	3,025
667	4,600	732	3,000	788	7,200	847	6,000	922	3,800
668	19,000	733	3,200	789	5,400	848	5,000	923	3,400

Lot	落札値	Lot	落札値	Lot	落札値	Lot	落札値	Lot	落札値
924	4,000	989	24,000	1051	10,000	1134	3,200	1203	4,200
925	4,200	990	16,000	1052	12,500	1135	5,400	1204	25,000
926	4,000	991	8,000	1054	8,000	1136	3,200	1205	40,000
927	3,000	992	5,200	1055	5,400	1138	3,000	1206	14,000
929	5,600	994	7,058	1056	1,000	1139	5,000	1208	6,000
931	5,042	995	3,000	1057	5,000	1140	13,500	1209	2,400
932	3,600	999	7,000	1058	5,000	1143	26,000	1210	1,800
933	5,200	1000	10,000	1059	5,000	1145	8,000	1211	7,400
936	5,000	1001	4,000	1060	6,400	1147	30,000	1218	5,400
937	90,000	1002	5,000	1061	5,000	1150	4,033	1219	5,000
942	31,000	1004	4,000	1062	5,000	1155	4,600	1220	10,000
943	100,000	1005	8,500	1064	2,000	1156	27,000	1221	14,000
944	5,000	1006	6,000	1065	3,200	1157	7,200	1222	17,000
946	4,000	1007	17,000	1066	4,200	1159	45,000	1223	12,000
947	3,000	1008	5,000	1071	6,000	1160	2,017	1224	17,000
948	3,000	1009	3,600	1073	3,000	1163	20,000	1225	17,000
949	5,800	1010	2,400	1074	5,000	1164	16,500	1226	22,000
950	13,500	1011	4,000	1075	4,000	1165	8,067	1227	26,000
952	18,000	1012	4,000	1076	12,500	1167	2,000	1229	105,000
953	42,000	1013	5,042	1077	10,000	1170	3,200	1231	8,000
954	38,000	1014	6,600	1079	2,400	1171	6,000	1232	8,500
955	11,500	1015	27,000	1081	6,000	1172	5,042	1233	32,000
956	5,200	1016	29,000	1082	52,000	1173	6,000	1234	6,600
957	3,800	1017	4,000	1083	50,000	1174	21,000	1235	46,000
958	72,000	1018	7,600	1084	30,000	1175	10,500	1236	31,000
959	41,000	1020	8,000	1086	10,500	1176	7,200	1237	85,000
962	33,000	1023	28,000	1087	42,000	1177	5,800	1238	4,600
963	6,200	1027	20,167	1089	85,000	1178	3,000	1239	3,000
964	3,200	1028	14,500	1094	5,042	1180	11,000	1245	3,000
965	6,000	1029	12,000	1095	8,000	1181	12,500	1246	3,000
966	5,000	1032	5,000	1096	4,200	1183	33,000	1248	3,000
967	6,200	1033	2,200	1097	4,000	1184	36,000	1249	5,000
968	12,000	1034	15,000	1099	3,000	1185	10,500	1250	58,000
971	5,200	1035	8,000	1100	5,000	1186	5,400	1251	10,000
972	5,600	1036	3,200	1102	8,000	1187	15,500	1252	3,800
974	5,200	1037	16,000	1104	52,000	1188	10,000	1255	8,000
975	8,500	1038	4,200	1105	3,000	1189	12,500	1256	5,000
976	1,200	1039	8,000	1106	3,200	1190	4,800	1257	5,000
978	14,000	1040	5,000	1111	46,000	1191	44,000	1259	5,000
979	120,000	1041	18,500	1117	52,000	1193	10,500	1260	4,600
980	26,000	1042	8,000	1120	135,000	1194	5,800	1261	5,200
981	18,000	1043	20,000	1121	10,000	1195	15,500	1262	6,400
982	2,108	1044	4,000	1124	3,000	1196	25,000	1263	150,000
983	15,500	1046	5,200	1125	3,200	1197	12,500	1265	6,200
984	3,800	1047	2,000	1126	5,400	1198	5,800	1266	8,500
985	11,500	1048	4,200	1127	5,600	1199	6,000	1267	14,000
987	5,000	1049	3,000	1129	4,000	1200	12,000	1269	3,000
988	10,000	1050	3,000	1130	5,200	1201	13,500	1270	3,200

Lot	落札値	Lot	落札値	Lot	落札値	Lot	落札値	Lot	落札値
1271	3,200	1335	6,000	1390	3,000	1455	15,000	1508	7,000
1272	3,000	1336	4,600	1391	12,500	1457	25,000	1509	4,000
1273	10,500	1337	4,000	1392	12,500	1458	4,400	1512	5,000
1274	3,025	1338	5,000	1394	14,000	1459	15,000	1513	5,042
1275	5,000	1340	8,067	1395	13,000	1460	4,400	1514	10,000
1276	5,000	1341	5,000	1396	14,000	1461	15,000	1515	8,067
1277	7,200	1343	15,125	1397	12,000	1462	20,000	1517	5,042
1280	10,000	1345	12,000	1403	6,000	1463	13,500	1518	5,000
1281	3,600	1346	12,500	1406	8,500	1464	12,000	1519	12,500
1282	4,400	1347	10,000	1407	2,390	1465	52,000	1520	15,000
1283	12,500	1348	4,000	1410	15,000	1466	22,000	1523	4,033
1284	6,000	1349	6,000	1412	12,000	1467	33,000	1524	4,000
1286	4,000	1350	6,050	1414	7,200	1469	17,000	1525	3,000
1289	2,200	1351	19,500	1415	1,000	1470	6,050	1527	5,000
1290	4,200	1352	30,000	1416	3,600	1472	10,000	1528	12,000
1292	5,000	1353	12,000	1417	3,800	1473	10,000	1529	3,025
1293	3,000	1354	17,500	1418	8,500	1474	6,000	1530	5,000
1299	5,000	1355	32,000	1419	4,600	1475	25,000	1531	3,000
1303	2,000	1358	20,000	1420	3,000	1476	33,000	1534	22,000
1304	2,017	1359	6,000	1421	2,000	1477	33,000	1535	4,800
1305	4,400	1360	6,200	1422	3,800	1478	35,000	1536	80,000
1306	4,000	1361	7,000	1424	8,500	1479	10,000	1537	29,000
1307	3,400	1363	3,800	1425	13,500	1480	5,800	1538	9,500
1308	8,000	1364	22,000	1426	6,000	1481	17,000	1539	13,500
1309	4,000	1365	6,000	1428	4,200	1482	11,000	1540	7,800
1310	15,000	1366	12,500	1429	2,200	1483	11,500	1541	6,600
1311	12,000	1367	15,500	1430	1,600	1484	6,200	1542	3,000
1312	5,000	1368	5,000	1432	2,200	1485	9,500	1543	3,800
1314	3,000	1369	42,000	1433	11,000	1486	18,000	1544	5,600
1315	10,000	1370	39,000	1434	1,000	1487	13,000	1545	15,000
1316	5,000	1371	13,000	1435	4,200	1488	40,000	1546	3,000
1317	6,000	1372	32,000	1436	4,600	1489	4,033	1547	9,000
1319	5,000	1373	29,000	1437	4,600	1491	8,500	1548	2,800
1320	23,000	1374	21,000	1438	3,000	1492	7,000	1549	180,000
1321	3,000	1375	4,000	1439	3,400	1493	7,058	1550	210,000
1322	3,400	1376	7,000	1440	5,600	1494	12,000	1551	4,000
1323	3,392	1377	7,000	1441	3,000	1495	12,500	1552	10,000
1324	36,000	1378	6,200	1442	3,000	1496	5,000	1553	18,000
1325	7,800	1379	6,200	1443	4,000	1497	8,000	1554	14,500
1326	13,500	1380	2,400	1444	5,400	1498	8,067	1555	12,000
1327	24,000	1381	5,000	1445	3,200	1500	6,200	1556	5,000
1328	7,200	1382	5,000	1446	9,000	1501	3,000	1557	4,000
1329	13,500	1384	4,400	1447	3,000	1502	9,000	1559	150,000
1330	3,000	1385	2,200	1448	3,200	1503	13,000	1560	430,000
1331	3,000	1386	10,500	1450	14,000	1504	13,000	1561	350,000
1332	10,000	1387	12,500	1452	12,000	1505	8,067	1562	360,000
1333	13,000	1388	5,172	1453	3,700	1506	8,000	1563	620,000
1334	5,000	1389	3,000	1454	16,000	1507	10,000	1564	760,000

Lot	落札値
1565	470,000
1566	560,000
1567	560,000
1568	85,000
1569	10,000
1570	12,000
1571	140,000
1573	5,000
1574	3,000
1575	3,400
1576	3,600
1578	4,200
1579	3,800
1580	5,000
1581	5,000
1582	8,000
1583	3,400
1585	3,000
1587	3,000
1595	32,000
1597	8,000
1598	3,000
1602	14,000
1603	170,000
1604	160,000
1605	20,000
1606	23,000
1608	15,000
1610	5,000
1611	50,000
1612	6,400

成約品数 : 1216 点
 成約率 : 76.3%
 成約総額 : 18,799,594 円
 事前入札者 : 285 人
 一点以上落札 : 252 人
 フロア来場者 : 48 人
 W.D. Lot.13, 33, 34, 35, 47,
 51, 52, 173, 417, 632, 977,
 1449, 1451
 返品 Lot.1258

2022 年冬の文献セール
 (2022.1.29 メール)
 最終落札結果
 成約品数 : 502 点
 成約率 : 100%
 成約総額 : 1,141,448 円
 事前入札者 : 130 人
 事前入札点数 : 1,120BIDS

Lot	複	*	落札値
1			6,096
2	2		42,100
3	1		30,000
4			4,583
5			183
6			2,347
7	2		42,100
8			100
9	3	*	21,000
10	2		8,100
11	3		1,300
12	2		6,100
13	1		3,000
14	4		5,600
15	3		23,100
16	4		52,100
17	3		9,600
18	3		7,100
19	2		7,100
20	1		8,000
21	1		8,000
22			14,667
23	1		12,000
24	2		20,000
25	2	*	15,000
26	13		5,300
27	10		5,100
28	2		8,000
29			100
30	3		3,400
31	2		10,000

Lot	複	*	落札値
32			1,293
33	1		2,000
34	2		2,200
35			4,583
36	2		3,000
37			1,338
38	3		5,900
39			2,837
40	1		2,000
41			1,833
42			733
43			917
44	1		300
45	1		300
46	3		1,300
47	4		7,100
48	6		1,500
49	2		800
50	4		2,300
51	4		1,000
52			100
53			917
54	3	*	2,000
55			733
56	3		2,300
57	2		3,300
58	5		2,600
59	5		3,300
60	2		1,300
61	1		5,000
62	5		16,100
63	2		600
64	5		900
65	5		1,600
66	4		1,200
67	5		6,100
68	1		1,000
69	2		2,300

Lot	複	*	落札値	Lot	複	*	落札値	Lot	複	*	落札値	Lot	複	*	落札値
70	2		2,300	108	2		2,100	146	2		600	184	2		1,400
71	4		2,300	109	3		2,100	147			100	185	3		2,600
72	8		6,600	110	1		300	148	4		5,100	186	2		2,100
73			100	111	2		1,100	149	1		2,000	187			713
74	6		3,700	112			917	150	2		5,600	188	2		2,300
75	2		8,000	113			469	151	3		700	189	1		1,200
76			3,754	114			220	152	7		1,700	190	2		2,100
77	1		3,000	115	2		3,600	153	2		1,600	191	7	*	2,200
78	5		3,300	116	3		5,600	154			917	192	1		1,000
79			2,933	117	3		5,600	155			513	193			374
80	1		3,000	118			100	156	3		2,100	194			100
81	8		4,200	119			100	157			101	195	1		1,000
82	12		6,100	120	1		500	158			101	196	2		1,100
83	6		3,200	121			234	159	1		500	197	1		800
84	1		1,000	122	1		1,000	160			100	198	3		2,200
85	4		3,100	123	2		2,400	161	4		1,200	199	5		2,600
86	1		1,000	124	7		15,100	162	5		1,000	200	3		1,500
87	2		1,200	125	4		2,200	163	4		1,200	201	2		2,100
88	3		2,200	126	8		2,700	164	2		600	202	1		1,000
89	1		1,000	127	5		2,500	165	2		1,300	203	4		3,100
90	1		1,000	128	4	*	1,500	166	1		500	204	2		600
91			563	129	9		1,300	167	2		900	205	3		900
92			469	130	1		500	168			1,008	206	3		1,100
93	7		5,100	131	6		1,800	169	1		1,300	207	4		2,400
94	2		2,100	132			100	170	6		2,800	208	6		1,500
95	2		1,300	133	3		700	171	4		2,600	209			458
96	6		5,100	134	1		500	172	1		2,000	210	1		500
97	5		6,100	135	1		500	173	2		2,600	211	3		2,100
98	2		1,400	136	1		500	174	3		2,300	212	2		3,600
99			1,008	137	3		2,100	175	3	*	2,000	213	1		1,000
100	1		300	138	3		900	176			761	214			917
101	4		1,300	139	2		700	177	2		1,100	215	2		600
102			275	140	2	*	600	178	4		3,100	216	6		1,100
103			1,008	141	3		1,700	179			367	217			733
104			1,375	142	2		2,100	180	3		800	218	1		500
105	3		3,100	143	5		3,100	181	2		1,100	219	2		1,000
106	4		3,100	144			1,173	182	4		1,600	220	7	*	2,100
107	2		3,100	145	1		1,000	183	2		1,100	221			1,122

Lot	複	*	落札値	Lot	複	*	落札値	Lot	複	*	落札値	Lot	複	*	落札値
222			1, 375	260			587	298	5		1, 600	336	4		600
223	1		1, 300	261			880	299	2		600	337	4		3, 100
224	2		1, 000	262			1, 100	300	2		900	338	3		6, 100
225	5		1, 900	263	7		2, 100	301			733	339	2		500
226			469	264	4		3, 100	302			100	340			100
227	3		1, 400	265			1, 122	303	1		800	341			100
228	1		1, 000	266	1		3, 500	304			733	342	2		1, 200
229	1		3, 000	267	1		2, 000	305	10		2, 600	343	1		500
230	4		1, 200	268			100	306	4		1, 000	344	3		1, 600
231			1, 833	269			100	307	1		500	345	3		2, 100
232	1		2, 000	270	3		3, 600	308	2		400	346	1		500
233	4		1, 300	271	6		4, 600	309	5		4, 100	347			423
234	2	*	1, 700	272	3		3, 400	310			458	348			875
235	1		1, 200	273	6		4, 600	311			100	349	2		600
236	3		1, 300	274	7		2, 200	312			367	350			2, 383
237			1, 302	275	2		2, 400	313			100	351	6		800
238			743	276	1		2, 000	314			220	352	5		1, 100
239	4		1, 000	277			458	315			3, 754	353	2	*	400
240	1		700	278	1		1, 000	316	9		4, 700	354			284
241			1, 467	279	2		2, 700	317	5		2, 300	355	1		300
242	3		600	280			917	318			733	356			100
243	3		900	281	1		1, 000	319			220	357			587
244	6		4, 300	282	2		600	320			100	358	2		800
245	3		2, 200	283	1		500	321	1		300	359			100
246	3		1, 100	284	1		300	322	4		1, 300	360	8		2, 100
247	2		1, 000	285	3		800	323	5		900	361	3		1, 400
248	3		900	286	1		300	324			275	362	2		400
249	5		4, 500	287	3		2, 200	325	9		1, 900	363	8		2, 600
250	3		1, 900	288			100	326	2		3, 000	364			2, 860
251	2		1, 600	289	3		2, 200	327	1		300	365	18		12, 100
252	2	*	800	290	3		1, 000	328	4		2, 600	366	14	*	5, 000
253			733	291	1		500	329	3		2, 100	367	16		7, 600
254	1		800	292	2		700	330	2		1, 500	368	7		10, 400
255	1		800	293	1		300	331	9		2, 300	369			579
256			587	294	3		900	332	3		1, 600	370	2		1, 300
257			963	295			235	333	2		1, 000	371	2		1, 300
258	1		1, 000	296			100	334	2		800	372	4		3, 100
259	1		800	297	6		1, 100	335	3		2, 100	373	3		1, 700

Lot	複	*	落札値	Lot	複	*	落札値	Lot	複	*	落札値	Lot	複	*	落札値
374	2		1,400	412	3		4,100	450	4	*	700	488			477
375	5		900	413	3		2,100	451	2		500	489	4		3,100
376	4		2,100	414	4		1,600	452	2		600	490	1		300
377	2		2,600	415	2		600	453	3		600	491			275
378	6		4,100	416	2		2,100	454			367	492			110
379			1,833	417	3		1,200	455			367	493	1		300
380	2		2,600	418			587	456			367	494	1		300
381	2		1,900	419	2		3,100	457			367	495	2		400
382	3		2,100	420	2		1,300	458			367	496	7		1,500
383	10		7,300	421	3		1,600	459			367	497	4		700
384	3		2,100	422	3		900	460			367	498	1		300
385	5		2,400	423	6		3,200	461			367	499			176
386	1		800	424	1		1,000	462			293	500	3		2,600
387	2		900	425	3		1,000	463			293	501	1		300
388	1		500	426	3		2,100	464			100	502			220
389			119	427	1		500	465			367	落札手数料除く金額。「複」は事前入札あり。「*」は同値事前入札あり。WD（出品取消）なし。			
390			484	428	3		2,100	466			458				
391	2		2,100	429	3		2,100	467	4		1,600				
392	1		300	430	1		500	468	6		2,600				
393	1		300	431			220	469	6		2,600				
394			275	432			110	470			100				
395			275	433	6		2,100	471	2		1,100				
396	2		400	434			140	472			101				
397			275	435	4		1,100	473	1		300				
398	1		300	436	1		300	474	2		1,300				
399			101	437			100	475	4		700				
400	2		400	438	2		1,100	476	2		600				
401			100	439			367	477			431				
402	5		5,100	440			101	478			100				
403			176	441			458	479	1		300				
404	4		1,600	442	4		1,300	480			15,000				
405			469	443			100	481	5		2,200				
406	1		300	444			367	482	1		1,000				
407	4		1,300	445	1		500	483	1		300				
408	2	*	4,000	446			101	484	2		1,100				
409	1		2,000	447			185	485	2		400				
410	6		5,100	448			119	486			293				
411	3		2,800	449	1		300	487			458				

会員からのおにより

「スタンペディア日本版」機関紙フィラテリストマガジンは、節目の30号より、機関紙として会員の皆様との交流も深める為に当欄を設けております。スタンペディアだけでなく郵便振興協会へのお便りも歓迎します。

槇原 晃二 様 (広島県) 『テーマティクコレクションへの道』を興味深く拝読しました。「いつかはテーマティクコレクションを作りたい、『インドネシア独立戦争』などができないかな」と思っていましたので、大変参考になります。

シナリオづくりをどうしていくのか、定石など無いので大変ですね。最近、右脳が働かないの困っているのですが、柔軟な発想を取り戻したいものです。次回も楽しみにしています。」

槇原さん、伝統郵趣や郵便史に慣れてしまった今、私としては久しぶりの右も左もわからないテーマティク作品作りの状況がむしろ楽しいです。そして、テーマティク収集のシナリオ作りは、私がこれまで嗜んできたフィラテリーとは、根本的に異なる世界のものに感じました。

一方、切手やカバーなどの郵趣マテリアルに作品を語らせるという点は変わらないことも理解できています。テーマティクこそ一朝一夕に良い作品を作ることは難しい部門であり、HELVETIA2022が終わったらしばらく腰を据えて国際展向けの作品作りを楽しみたいと思います。

石野 逸雄 様 (兵庫県) 「新年おめでとうございます。今年もよろしくお願いします。旧号を見られるようにいただき感謝しております。ご健康に留意され益々のご活躍を祈念しております。」

森田 美佐子 様 (岡山県) 「過去のオークション誌やフィラテリストマガジンのPDFを公開いただき、嬉しく思っております。

郵趣は、自分のレベルによって、書いていることが理解できたり面白かったりします。逆に言いますと、自分の知識がない時に読んでもその価値がわかりません。

そういう意味では、PCの中にPDFを保存できたことで、まずは全体を読んでおき、また改めて気になるところを探して読みなおすことが紙ベース以上に手軽になりました。過去のオークション誌を見て、これはほしかった！落札額は？と確認できるのも楽しいです。ありがとうございました。」

2022年元旦より、マイスタンペディアにて、全てのバックナンバーの会員向け閲覧を開始しました。多くの会員の皆さんに好評で、メールも複数いただいております。最初に感想をお送り頂いた石野さんと森田さんからのメールを紹介させていただきます。

バックナンバーの利用が簡単になることで、当誌掲載記事へのアクセス総数が増える為、プラスになる点も多いと考えています。今後、索引との連携なども含めてサービスをより改善してまいりますので、どうぞご期待ください。

中野 健司 様 (米国) 「サブスクで『切手の友』2022年1月号を拝受し友田さんに吉田さんが

『父も切手収集家でした。父は、私が小学校から中学校にかけての頃、1週間の目標を達成するとご褒美の切手をくれました。これでコレクションが充実し、学力も上がりました。』

と述べられた部分を拝見しました。私もたまたまCollectors Club of New Yorkの最新号に、子供時代に父から得た支援について短い記事を書きました。」

中野さんからは、同記事のコピーをお送りいただき拝見しました。それによれば、お父様は小学校下校後に売切の可能性のある記念切手を代わりに買ってくれたり、小学校高学年時のテストで良い点を取ったら「見返り美人」等の特別な切手を買ってくれる約束等をしてれていたそうでした。

中野さんと私は大学・学部の間際であるだけでなく入学年も一緒。当時は接点がありませんでしたが、似たようなお父様との御関係だったこと、偶然とは言え、親近感を感じました。

ところで私が最も熱心にフィラテリーを楽しんでいたのは高校2年生まででした。大学入学後は、やる気はあったのですが、体育会の優先順位が高くなり、徐々にフェードアウトしました。

しかし20年後に私がフィラテリーを再開する気になったのは、郵趣に理解ある父親により子供時代の収集が楽しい思い出として残っていたからだと思います。

あいにく私の息子はフィラテリーに関心を持っていませんが、私の父や中野さんのお父様がそうされたように、彼の好きなことをさせてあげる為の適度な支援をしてあげたいな、と改めて思います。

1. 機関誌「フィラテリストマガジン」のお届け

機関紙通常号本誌（付録含まず）を 3/25, 6/25, 9/25, 12/25 前後にお送りします。

* 受け取る冊子の判型を『A5 判(年会費 3,980 円)』『A4 判(年会費 7,980 円)』より選択できます。

2. 機関誌「フィラテリストマガジン」2022 年新刊のダウンロード権利 (PDF)

2022 年は通常号 4 回と号外 3 回を計画しています。冊子のお届けに先立ちご案内します。

3. 新企画 機関誌「フィラテリストマガジン」バックナンバー全てのダウンロード権利 (PDF)

過去に発行された「フィラテリストマガジン」の本誌および号外の全てのダウンロード権利 (PDF) を在籍期間中付与します。(発行から 3 年を経過した機関紙の一般公開 [詳細次頁] に伴う措置です)

4. 書籍「日本郵趣記事索引 2022」のお届け

フィラテリストマガジン等の郵趣記事索引を掲載した書籍(冊子)を 2023 年 3 月頃にお届けします。

5. 単行本販売時の優先取り扱い

当社発行書籍等を、非会員より優遇条件で販売する場合がございます。オンラインからの注文に関しては、マイスタンペディアにてワンクリックでお申込みいただける仕組みも導入しております。

5. 提携先の「スタンペディアオークション株式会社」の優待サービスを受けられます

スタンペディアオークション株式会社(以下、同社)より「スタンペディア日本版」会員向け優待サービスが提供されており、同社が利用停止した方を除く全ての当会会員が利用できます。

- (1) 毎回のセールカタログを、当会機関紙の郵送時に、同梱して受け取ることができます。
- (2) 入札や下見にあたり、同社への会員登録の申し込みは不要で、当会会員の資格で参加できます。
- (3) 事前入札において同値の場合、当会会員の取り扱いが優先されます。
- (4) 一定条件を満たす事前入札(セールカタログに記載)に対して、入札確認通知を郵送します。

会費有効期間 2022 年 1 月 1 日 - 12 月 31 日

ご入会案内

1. まず、お受け取りになる冊子のサイズを『A4 判』か『A5 判』か、お決めください。
年会費は A5 判の場合 3,980 円、A4 判の場合 7,980 円 です。
2. 該当する金額を次ページ「送金先」欄のいずれかの方法でご送金ください。
3. ご連絡先(郵送先・電子メールアドレスのいずれか、もしくは両方)を当社にご連絡ください。
ご連絡先が分からない場合は、当社からはサービスの提供を開始できません。

ご寄稿案内

当誌は 2013 年 12 月に創刊された、総合郵趣雑誌(季刊)です。

フルカラー約 150 ページの紙面をフィラテリーに関する寄稿記事に最優先に割り当てています。「このような内容は掲載できるかな?」「他の郵趣雑誌ではページ数や編集の都合でうまく書けない/掲載できない」「連載で書きたい」「これまで寄稿を郵趣雑誌にしたことはないけれどぜひ書いてみたい」といったフィラテリストの情報発信を本誌への寄稿記事で実現してみませんか?

「マテリアルは持っているのだけど、記事を書くまでではない」といった方には、『私の発見・私の報告』や『切手コレクションの紹介』への掲載のご相談も承ります。

- (1) ご寄稿にあたり、お送りいただきたいものは、テキストと画像です。画像については、200dpi のスキャナーやスマホカメラで撮影した写真を添付ファイルとしてお送りください。
- (2) (1) のような手段のない方はカラーコピーをご郵送ください。なお、お送りいただいた原稿、カラーコピーほか資料は返却しません。送付はなるべく USB メモリをご活用ください。
- (3) いただいた原稿は、編集部で判断の上、編集して掲載いたします。手書き原稿もお引き受け可能ですが、キャパシティに上限がありますので、長文の場合は事前にご相談ください。

連絡先: tpm@stampedia.net

郵送先: 102-0083 海事ビル内郵便局留 スタンペディア 宛て
次号へのご寄稿締切日は、2022 年 5 月 5 日です

あとがき

ひなあられに菱餅、そして甘酒が好き。雛よりあられ（笑）。桃の節句も終わり、いよいよ桜の季節になりますね。お家で過ごす時間の使い方も上手になってきたと思います。そんな皆様の傍に、いつものお供、フィラテリストマガジン。今号も充実の読み応えです！

瞬発力で生きている人間にとって、コツコツと物事を進め時間に余裕を持った計画的な生き方は懂れます。それが出来ない言い訳としては、追い込まないとやる気がでない。というより、気力が長く持たない様です。なので、自分の瞬発力で乗り切れそうなギリギリの範囲でいつもゴールを目指す事になります。ただ、この方法は精神力と体力の消耗が激しすぎる以外の最大の難があります。そう、「時間」。時間の配分を見誤るとゴールができないのです。

そこで、この3ヶ月間は、私としては珍しく慎重に長めに計画をたてて、コレクション作りに取り組んでみました。そう、お気づきの方も多いかと思いますが、今月は「スタンベックスジャパン 2022」が開催されます。はい、わたくし菊地、出品者です。進捗ですか？おかげさまで生まれてはじめての128リーフは2月末までに一度は完成させました。3月になると色々仕事で忙しくなってしまうのですが、一応時間を逆算して、一度作ったリーフの修正（改善）を気がつく限り行えたらなーと思っています。

初の8フレーム作品です。色々な方にも泣きつきながら進めてきました。人生上手くはいかないですね。作品作りが乗ってきた頃に思いがけず作業中断を余儀なくされました。2月末に完成の目をみた時は、万歳！としみじみ感じました。時は金なり。誠にもってその通り。

これから修正して改善の追い込みができるのか？自分。やれるのか？やるしかないだろ～！もうあとは気合いしかなさそうです。

さて編集作業もひと段落、あとは本当にやるしかないですね！1週間くらいなら不眠でいけるかな？無理かな？どうなったかは是非会場で！（菊地）

本号は、予想よりも多いご寄稿をいただきました。ありがとうございます。つきましては、「今更聞けないフィラテリー」「連載 クラシック切手」などの連載記事をはじめとする一部の記事につきましては、次号まわしとなりました。お楽しみになられておられた皆様、ご了解ください。

書 名：スタンペディア日本版機関誌「フィラテリストマガジン」	
号 数：第 34 号（2022 年春号）	
発行日：2022 年 3 月 30 日	
価 格：1,500 円（消費税込）	
発行部数：700 部	
発行者：無料世界切手カタログ・スタンペディア株式会社	
発行人：吉田敬	
編集部：菊地恵実、北川朋美	
Name of the magazine:	The Philatelist Magazine
Number:	34th (2022 Spring issue)
Date of issue:	Mar. 30th 2021
Price:	1,500 Yen
Number of printing:	700 copies
Publisher:	Stampedia, inc. Takashi Yoshida
Editor:	E. Kikuchi, T. Kitagawa

連絡先

- (1) 郵便 〒102-0083
海事ビル内郵便局留置
スタンペディア
- (2) F A X 03-6700-1585
- (3) 電子メール tpm@stampedia.net

送金先

- (1) ゆうちょ銀行 10060 14016181
- (2) ゆうちょ振替口座 00100-4-515137
- (3) Paypal order@stampedia.net

* 加入者名はいずれも『無料世界切手カタログ・スタンペディア株式会社』です。

スタンペディアオークション

第21回セール

フロア 2022年4月2日(土) 12:30 切手市場第2会場
会場 東京都中央区日本橋富沢町8-10 綿商会館5階

COVID-19の感染状況による行政判断等により競売方法・日時や会場が変更される場合があります。急な変更がある場合はホームページでご案内します

3月26日(土)に、スタンペックスジャパン2022会場内ブースにて下見会を開催します(郵博・入場有料)



セール回	フロアセール	下見会
第21回	4月2日	3月26日(スタンペックスジャパン2022会場内ブース)
第22回	7月3日	開催予定(未定)
第23回	10月1日	開催予定(未定)
第24回	2023年1月	開催予定(未定)

フロアセールは、4回とも切手市場第2会場(東京・日本橋)にて行う予定です

スタンペディアオークション株式会社

〒102-0083 千代田区麹町4-7 パークハウス麹町プレイス803

FAX: 03-6800-5384 auction@stampedia.net

<http://auction.stampedia.net>